

経営計画マネジメント評価の進め方について

1. 審議の内容について

「平成30年度経営計画マネジメント一次評価結果」に掲載された各施策（134施策）の事後評価（4年間の総括：達成度、成果、課題等）の妥当性と次期総合計画での取組の方向性について二次評価を実施する。

2. 分科会の設置について

審議を効率的に進めるため、ひとづくり・くらしづくり分科会及びまちづくり・なりわいづくり分科会を設置する。なお、戦略推進システム、移住対策についての審議は全体で実施する。（詳細は資料2で別途説明）

3. 審議の日程について

- ・第3回：9/27 13:00 まちづくり・なりわいづくり施策二次評価（分科会）
9/28 18:00 ひとづくり・くらしづくり施策二次評価（分科会）
- ・第4回：10/12 13:00 戦略推進システム施策二次評価（全体会）
- ・第5回：10/26 10:00 施策審議のまとめ報告

4. 意見照会及びヒアリング希望照会について

審議を円滑に進めるため事前に一次評価に対する意見・提言等を照会する。（様式1）
また、直接担当課より一次評価の内容をヒアリングした上で意見・提言等を行うことを希望する委員に対し、ヒアリングで確認したい内容も含め事前に照会する。（様式2）

※様式1及び様式2の提出期限：9月11日（火）

5. 各委員の意見・提言（照会回答）の範囲

各分野の全施策が審議の対象であるが、一次評価表が膨大なページ数であるため、以下のとおり各委員の審議の範囲を整理し、委員の負担軽減及び審議の効率化を図る。

- ・基本的に各委員の所属する分科会のうち所属団体や精通している分野関する施策に対し意見・提言を頂く。
- ・ただし、各専門分野等に留まらず横断的に意見・提言を頂くことを妨げるものではない。

6. 会議の進め方について

基本的に意見照会及びヒアリング希望照会で回答のあった施策を優先的に審議する。
事前に意見等のなかった施策についても、会議当日に意見・提言を頂く時間を設けることとする。

弘前市総合計画審議会における分科会の設置及び運営方針について

平成28年2月23日付け「弘前市経営計画の改訂について」の答申において、審議会での議論をより深化させる必要があるため、分科会の設置の検討を求める附帯意見があったことから、次のとおり分科会を設置することとし、その運用は原則として、弘前市総合計画審議会運営規則に準じることとして、同規則第6条に基づき、次のとおり定める。

1 所掌事務

分科会は、ひとづくり・くらしづくり分科会、まちづくり・なりわいづくり分科会とし、弘前市経営計画の「ひとづくり・くらしづくり」、「まちづくり・なりわいづくり」の分野において、それぞれ専門的に審議するものとする。

2 構成及び組織

分科会の構成及び委員は、別表のとおりとする。ただし、所属する分科会以外の分科会への出席について妨げるものではない。

3 座長

- ①各分科会に、座長を置く。座長は委員の互選により選出する。
- ②座長は、分科会の議長となり、会務を総理する。

4 会議

- ①分科会の会議は、座長が招集する。
- ②分科会は、委員の半数以上の出席がなければ会議を開くことができない。
- ③分科会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、座長の決するところによる。
- ④所属する分科会以外の分科会に出席する委員については、上記②及び③に規定する委員数に含まない。

5 分科会の庶務

分科会の庶務は、経営戦略部ひろさき未来戦略研究センターにおいて処理する。

(別表)

【ひとづくり・くらしづくり分科会】

	氏名	所属・職名
1	村松 恵二	弘前大学名誉教授【会長職務代理者】
2	生島 美和	弘前学院大学文学部准教授
3	阿部 精一	弘前市社会教育協議会会長
4	杉間 修一	弘前市連合父母と教師の会会長
5	藤田 俊彦	弘前市保育研究会会長
6	淀野 啓	一般社団法人弘前市医師会副会長
7	島 浩之	社会福祉法人弘前市社会福祉協議会常務理事
8	清野 眞由美	特定非営利活動法人弘前子どもコミュニティぴーぷる代表理事
9	清野 智博	公益財団法人弘前市体育協会副会長
10	米塚 淑子	弘前地区女性会代表
11	青山 富士子	市民会議委員
12	名越 しおり	市民会議委員

【まちづくり・なりわいづくり分科会】

	氏名	所属・職名
1	森 樹男	弘前大学人文社会科学部教授【会長】
2	高島 克史	弘前大学人文社会科学部准教授
3	熊谷 壽一	つがる弘前農業協同組合代表理事専務
4	前田 賢治	弘前商工会議所副会頭
5	北村 裕志	公益社団法人弘前観光コンベンション協会副会長
6	鈴木 明弘	公益社団法人弘前市物産協会副会長
7	秋元 駿一	公益社団法人弘前青年会議所常任理事
8	山形 正臣	弘前市町会連合会副会長
9	石川 啓太郎	株式会社青森銀行常務執行役員弘前地区営業本部長
10	福士 勝彦	株式会社みちのく銀行執行役員弘前営業部長
11	一戸 勝美	アップルウェーブ株式会社専務取締役
12	三上 隆博	市民会議委員

様式1 意見調書

委員名 _____

対象ページ	施策名	4年間の総括の妥当性	付帯意見
例	ひと6 婚活の応援	妥当である 妥当でない	達成度の評価はBで妥当であるが●●といった課題もあり、次期総合計画に向けて●●に取り組んでほしい
	ひと10 多様な母子保健サービスの提供	妥当である 妥当でない	達成度の評価はAとしているが●●といった課題もあり評価はBと考えられるため、次期総合計画に向けて●●に取り組んでほしい
		妥当である 妥当でない ※いずれかに○	
		妥当である 妥当でない ※いずれかに○	
		妥当である 妥当でない ※いずれかに○	

※上記の項目が記載されていれば任意の様式で提出されても構いません。

※提出方法はEメール・FAX・郵送・ご持参などいずれでも結構です。

※様式の電子データを希望される場合は下記担当のアドレスまでその旨ご連絡ください。(評価表のPDFデータ提供希望も可)

担当：ひろさき未来戦略研究センター 猪股 gou-inomata@city.hirosaki.lg.jp

※9月11日(火)までに提出くださるようお願いいたします。

様式2 ヒアリング希望調書

委員名 _____

対象ページ	施策名	主な質問事項
例 ひと6	婚活の応援	効果的に進めるためには●●との連携が必要と考えるが意見を伺いたい。

※上記の項目が記載されていれば任意の様式で提出されても構いません。

※提出方法はEメール・FAX・郵送・ご持参などいずれでも結構です。

※様式の電子データを希望される場合は下記担当のアドレスまでその旨ご連絡ください。(評価表のPDFデータ提供希望も可)

担当: ひろさき未来戦略研究センター 猪股 gou-inomata@city.hirosaki.lg.jp

※9月11日(火)までに提出くださるようお願いいたします。

平成29年度 地方創生推進交付金活用事業 地方創生応援税制(企業版ふるさと納税)活用事業 実施報告

- 地方創生推進交付金活用事業は、地方創生に取り組むため、市が行う自主的・自立的な取組として地域再生法に基づく地域再生計画として認定され、複数年度にわたって国より財政支援を受けて実施する事業です。
- また、地方創生応援税制(企業版ふるさと納税)は、地方自治体が実施する地方創生事業に、企業が寄附を行うことで税額控除の優遇措置が受けられる制度です。
- 事業実施に伴う効果について、重要業績評価指標(KPI)を設定のうえ、外部有識者の検証も踏まえ国へ報告することとなっています。
- 委員から頂いた意見をもとに事務局にて評価案を作成し、第4回審議会で説明いたします。
なお、意見のない事業に関しては事務局で評価案を作成し、審議していただきます。

地方創生推進交付金活用事業

1. 弘前版生涯活躍のまち推進事業
2. 都市と地方をつなぐ就労支援カレッジ事業
3. 地域クリエイターと連携した新たな担い手育成及びコンテンツ等開発事業
4. ひろさきライフ・イノベーション推進事業
5. ひろさきりんご産業イノベーション推進事業

地方創生応援税制(企業版ふるさと納税)活用事業

1. 弘前さくらまつりにぎわい創出事業



地方創生推進交付金活用事業

1. 弘前版生涯活躍のまち推進事業



地域再生計画の期間	事業の概要
平成28年度～平成32年度 (5ヵ年)	本市のまちの魅力に共感するとともに、地域課題の解決に貢献する意欲のあるアクティブシニアの移住を受け入れ、地域住民をはじめとする多様な主体と交流・協働しながら就業、ボランティア等に携わり市内で活躍することを通じて、様々な地域課題の解決に寄与するような仕組みを構築します。
連携自治体	【平成29年度実施計画】 ①2件目の地域再生推進法人を指定し、アクティブシニアの住まいを充実させ、「観光地隣接型」の居住環境を整備するとともに、地域貢献モデルを構築 ②地域の人材ニーズに基づき産業の担い手育成や就業機会の提供をすることとし、事業化を目指す ③地域コーディネーターの設置 ④移住検討者の掘り起こしや情報発信・相談対応の本格化 ⑤健康増進プログラムの提供と本市ならではの先進的な取組みとなるモデル構築に着手 ⑥(仮称)生涯活躍のまち事業運営協議会を開催し、提供するサービス・プログラムの充実について検討
なし	

実績額	平成29年度における重要業績評価指標(KPI)				(参考)本事業終了後における目標値		実績値を踏まえた事業の成果と今後について	
単位:千円	指標	目標値	実績値 (H30.3月)		目標値	目標年月	事業効果※	これまでの成果と今後の方針
6,843	指標①	弘前版生涯活躍のまち移住者数	18人	7人	70人	H33.3	地方創生に効果があった	【これまでの成果】 平成27年度に策定した「弘前版生涯活躍のまち構想」を基に、平成28年度には地域再生計画を作成し、国の認定を受け、支援が受けられることとなりました。また、事業の運営推進機能を担う事業主体2者を公募により選定するとともに、平成30年3月には、「生涯活躍のまち形成事業計画」を作成し、構想は事業推進の段階へ進展してきています。 また、平成29年度は、移住検討者のお試し居住や事業主体を中心に各種サービス・プログラムを提供する団体等とのネットワークを構築し、モデル事業を展開するなど、アクティブシニアの活躍の場づくりに取り組みました。 【今後の方針】 生涯活躍のまち構想を推進し、アクティブシニアの移住を増加させることで、人口減少の抑制につながるほか、地域内での消費喚起効果や新たな雇用の創出、産業の担い手の多様化が期待されるため、今後も継続して取り組んでいく必要があります。
	指標②	ボランティア参加者数及び就業者数(累計)	46人	20人	160人	H33.3		
	指標③	市の移住サポートセンターで受け付けた50歳以上の相談者数	19人	52人	22人	H33.3		

※「地方創生に非常に効果的であった」、「地方創生に相当程度効果があった」、「地方創生に効果があった」、「地方創生に効果がなかった」の中から一つを選択。

2. 都市と地方をつなぐ就労支援カレッジ事業



地域再生計画の期間	事業の概要
平成28年度～平成32年度 (5ヵ年)	人口減少による担い手や農業従事者の高齢化といった地域課題の解決のため、就農希望者及び若年無業者等に対し、農業技術の取得などの研修を実施した後に、地方の農業分野での一般就労や二地域居住などによる地方移住を推進します。 また、それぞれの地域において、生活困窮者や就労困難者に対して、相談ニーズの発見機能を強化し、受入企業等の開発を行いながら、包括的支援体制を構築し、就労支援を実施します。
連携自治体	【平成29年度実施計画】 ①就農体験受入(泉佐野市⇒弘前市・加賀市) ②生活困窮者や就労困難者に対する相談支援を実施 ③シングルマザー支援 ④ローカルベンチャー(地域資源を活用し、地域に新たな市場や経済を創出する事業)の育成
大阪府泉佐野市 石川県加賀市	

実績額	平成29年度における重要業績評価指標(KPI)				(参考)本事業終了後における目標値		実績値を踏まえた事業の成果と今後について	
単位:千円	指標		目標値	実績値 (H30.3月)	目標値	目標年月	事業効果※	これまでの成果と今後の方針
32,481	指標①	就農体験受入者数	80人	72人	80人	H33.3	地方創生に相当程度効果があった	【これまでの成果】 ①平成29年度は、目標の受入人数をおおむね達成しており、地域農業における補助労働力として機能しています。また、現地事務所や現地スタッフの配置などの受入環境を整備するとともに、随時、移住希望者や体験希望者を受け入れました。体験者の中では、数十回にわたり弘前での研修を受ける方や一ヶ月以上の長期にわたる研修に取り組む方も出てきています。一方、生活環境の変化に対する不安や家族との調整、資金の確保など、担い手として定着するための課題が見つかりました。 ②平成27年3月に策定した「ひろさきワーク・チャレンジプログラム」に基づき、平成28年8月、ヒロロ3階に「ひろさき生活・仕事応援センター」を設置するとともに、従事者育成のための各種研修会等を開催するなど、就労支援体制を構築するうえで、必要な取り組みを進めて、計画通りの成果を得ることができました。 ③また、当該プログラムのモデル実践メニューとして、弘前商工会議所が設立したNPO法人マザーフィールドの創業支援及び就労自立支援にかかる取り組みに対して補助金を交付し支援しましたが、支援対象者の掘り起こしや、支援内容等に課題が残りました。 ④ローカルベンチャーの育成については、地域資源や事業パートナー発掘のための現地調査を経て、移住・起業のプラットフォームとなる受入組織「Next Commons Lab 弘前」を設立しました。また、事業コンセプトを設定して、組織運営と起業家の支援業務を行うマネジメント人材を募集し、1名が決定しました。 【今後の方針】 ①担い手として移住・定着を図ることは困難なものの、地域農業における補助労働力の確保に資することから、平成33年以降の本仕組みの自動化に向けた課題も整理しつつ、引き続き、大阪府泉佐野市及び石川県加賀市と連携して事業を実施していく必要があります。 ②生活困窮者や就労困難者に対する相談・就労支援については、人口減少・少子高齢化とともに労働力人口が減少していく中で、相談者の就労による自立支援と、地域産業の労働力確保に資することから、今後も生活困窮者自立支援制度のスキームを活用し、継続して取り組んでいく必要があります。 ③NPO法人マザーフィールドでのシングルマザー支援については、ニーズの掘り起こしに課題がありますが、生活困窮者支援との連携により効果的に事業が進むよう、改善を図りながら継続して取り組んでいく必要があります。 ④ローカルベンチャーの育成については、地方で起業する意欲のある都市部の人材を受入れ、地元企業などと連携して、当市の地域資源を活用した新たなビジネスモデルを創出することは、人口の減少を抑制し、地域経済の振興を図る手段の一つとして効果的であることから、継続して取り組んでいく必要があります。
	指標②	就労相談による新規就労者数	40人	75人	80人	H33.3		
	指標③	シングルマザー応援会社での就労者数	10人	2人	20人	H33.3		
	指標④	ローカルベンチャーによる新規事業創業人数	0人	0人	10人	H33.3		

※「地方創生に非常に効果的であった」、「地方創生に相当程度効果があった」、「地方創生に効果がなかった」、「地方創生に効果がなかった」の中から一つを選択。

3. 地域クリエイターと連携した新たな担い手育成及びコンテンツ等開発事業



地域再生計画の期間	事業の概要
平成28年度～平成32年度 (5ヵ年)	弘前市、大鰐町、田舎館村及び嬉野市が連携して実施する事業であり、クリエイティブの視点から「人材育成」・「新たなプロダクト・観光コンテンツ開発」・「積極的な情報発信」をトータルで行うことで、観光客の誘客促進及び観光消費額を向上させ、街の継続的な活性化を目指すものです。 具体的には、各都市が有する地域資源のリブランディングや、これらを融合させることにより新たな魅力を創出する事業のほか、小中校生など未来を担う人材の育成、海外イベントでのプロダクトの展示による戦略的な情報発信などを行います。
連携自治体	【平成29年度実施計画】 ①人材育成 デザイン教育・感性教育のための子供向けワークショップの開催、地元クリエイターの発掘、育成 など ②新たなプロダクト・観光コンテンツ開発 連携自治体とコラボしたアップルティー開発、クリスマスマーケット・りんごアート・スノーアートの実施、津軽塗等のマーケティング調査・販路確立 など ③情報発信 城フェス、Cross.S×Flash2017、観桜会100周年事業との連携 など
南津軽郡大鰐町 田舎館村 佐賀県嬉野市	

実績額	平成29年度における重要業績評価指標(KPI)				(参考)本事業終了後における目標値		実績値を踏まえた事業の成果と今後について	
単位:千円	指標		目標値	実績値 (H30.3月)	目標値	目標年月	事業効果※	これまでの成果と今後の方針
84,600	指標①	観光客入込数	4,782千人	4,658千人	4,910千人	H33.3	地方創生に 相当程度効果 があった	【これまでの成果】 話題性のある各種イベント等を実施してきたことで、県外・海外へ大きな情報発信の効果が得られました。新たなプロダクト開発では、魅力的な試作品が多く完成しているため、これらの商品化が今後の課題となっています。 【今後の方針】 今後は、情報発信で成果をあげたイベント等のうち、自立できるコンテンツに絞り込みします。また、課題となっている商品化に注力するとともに、未来の担い手育成についても強化して取り組む方向に転換します。
	指標②	プロダクト及びコンテンツの商品数	0個	0個	30個	H33.3		
	指標③	トップクリエイターと連携して地元人材を育成する地元クリエイター	0人	0人	15人	H33.3		

※「地方創生に非常に効果的であった」、「地方創生に相当程度効果があった」、「地方創生に効果があった」、「地方創生に効果がなかった」の中から一つを選択。

4. ひろさきライフ・イノベーション推進事業



地域再生計画の期間	事業の概要
平成28年度～平成30年度 (3カ年)	弘前大学COIに参画している大手企業と地元企業の連携や新事業展開による新たな産業創出を促進するとともに、医療機関が先端的な医療に取り組むことを促進します。 また、地域の医療・福祉分野で学んでいる若者に対し、地域で提供している先端的な医療の成果を伝え、地元定着を図ります。 そして、検診、健康増進、再生医療、先端リハビリ等を集約した東北の先端医療拠点化を目指し、地域内外の住民の健康増進を図ります。
連携自治体	【平成29年度実施計画】 ①再生医療や先端リハビリ等の拠点化につなげるための設備・機器の導入等を促進 ②再生医療や先端リハビリ等に関するシンポジウム等に要する経費や、再生医療・先端リハビリの導入等に取り組む人材の育成を支援 ③弘前大学COI参画企業と地元企業の連携による研究開発等を支援 ④地域の強みである充実した健康医療分野を強みに、地域での新たな投資を促進
なし	

実績額	平成29年度における重要業績評価指標(KPI)				(参考)本事業終了後における目標値		実績値を踏まえた事業の成果と今後について	
単位:千円	指標		目標値	実績値 (H30.3月)	目標値	目標年月	事業効果※	これまでの成果と今後の方針
35,927	指標①	再生医療設備や先端リハビリ等の導入件数 (累計)	2件	3件	15件	H31.3	地方創生に 相当程度効果 があった	【これまでの成果】 先端医療の体制整備を行う医療機関への支援や、市民向けシンポジウムの開催などにより、地域における先端医療の体制整備に向けた機運醸成がされるとともに、導入した医療機関によって実施される先端リハビリにより身体機能が改善された例も当初見込みよりも多くなっています。 また、弘前大学COI参画企業へのヒアリングや青森県との協働により、地元企業との連携事業も着実に実績を上げているほか、青森県と共同で作成したライフ関連産業の投資促進に関する計画により、事業者の投資計画が具体化するなど、ライフ関連産業の振興の礎を築くことができ、相当程度の効果がありました。
	指標②	弘前大学COI参画企業と地元企業の連携による研究・開発件数	2件	1件	2件	H31.3		
	指標③	先端リハビリ等により、身体機能が改善された件数	11件	22件	26件	H31.3		

※「地方創生に非常に効果的であった」、「地方創生に相当程度効果があった」、「地方創生に効果があった」、「地方創生に効果がなかった」の中から一つを選択。

5. ひろさきりんご産業イノベーション推進事業



地域再生計画の期間	事業の概要
平成29年度～平成31年度 (3カ年)	人口減少とともに、市の基幹産業であるりんご産業においては、生産者の減少や労働力不足、高齢化が大きな課題となっています。 この地域課題に立ち向かうために、りんご産業を一つのフィールドとして捉え、技術継承システムの構築や新たな取組を実践しようとする事業者の支援、人材育成によって、働き方の改革や多様な人材が活躍できる環境を構築します。また、地域内外の事業者や研究機関等の連携を強力に推進することで、課題解決に向けた新たな手法や、「稼げるしごと」の創出を目指していきます。 これらにより、若年者の流出を抑制するとともに、高齢者や女性の働きやすさも向上させ、子育て世代の就業増加や、地域外からの人材定着、そして、将来に向けたりんご産業の成長につなげていきます。
連携自治体	
なし	【平成29年度実施計画】 ①AI(農業情報科学)システムを活用したりんご栽培技術の形式知化等による熟練技術継承システム等の構築 ②就農希望者等の基礎的作業習得に向けた研修プログラム、若手りんご事業者等の革新的取組に係る知識や手法、経営感覚習得に向けた研修プログラム、高齢者生産者等の疲労回復・健康増進に向けたプログラムの構築 ③りんご事業者等に対する革新的な取り組み等の実証導入に対する支援 ④地域内外事業者等の連携促進

実績額	平成29年度における重要業績評価指標(KPI)			(参考)本事業終了後における目標値		実績値を踏まえた事業の成果と今後について	
単位:千円	指標	目標値	実績値 (H30.3月)	目標値	目標年月	事業効果※	これまでの成果と今後の方針
34,052	指標①	連携による研究、開発件数(累計)	2件	2件	9件	H32.3	【これまでの成果】 先端技術を活用した高度な栽培技術の「見える化」等の実証研究、多様な人材の活躍に向けた研修プログラムの試行、先駆的な取り組みに対する支援など、「高品質性の高効率化の促進」、「人材の確保と育成」の仕組みづくりに向け、従来無かった実証的な取り組みをスタートしたところです。 また、これらの取り組みと併せて啓発活動を行い、地域における、人口減少をはじめとした様々な課題への共通認識や、イノベーションに対する機運の醸成が図られつつあります。 【今後の方針】 各取り組みをブラッシュアップしながら、早期に持続的かつ最適な仕組みとして確立するほか、関係団体や関連事業者等との連携を一層深めるとともに、地域に見える形で発信しイノベーションの拡大を図っていきます。
	指標②	イノベーションプレーヤー数(累計)	4件	3件	18件	H32.3	
	指標③	弘前市のりんご販売額(青森県公表値から結果樹面積に応じた弘前市推計) ※前年産りんごの販売額	463億円	430億円	488億円	H32.3	

※「地方創生に非常に効果的であった」、「地方創生に相当程度効果があった」、「地方創生に効果があった」、「地方創生に効果がなかった」の中から一つを選択。

地方創生応援税制(企業版ふるさと納税)活用事業

1. 弘前さくらまつりにぎわい創出事業



地域再生計画の期間	事業の概要
平成29年度～平成31年度 (3カ年)	弘前市は、日本有数のさくらまつりの名所として毎年多くの観光客にその魅力を伝えてきましたが、近年の地球温暖化傾向によりさくらの開花時期が早まり、ゴールデンウィーク後半には園内の約7割を占めるソメイヨシノが散っている年が多くなってきており、宿泊のキャンセルが見られるなど、ゴールデンウィーク後半の集客が課題となっています。 本事業では、ソメイヨシノが散った後に咲く遅咲きの品種を鉢植えにて園内に展示することで、さくらまつり期間中はいつでもさくらが楽しめる場所を提供することにより観光客の増加を目標とします。

実績額	平成29年度における重要業績評価指標(KPI)				(参考)本事業終了後における目標値		実績値を踏まえた事業の成果と今後について	
単位:千円	指標		目標値	実績値 (H30.5月)	目標値	目標年月	事業効果※	これまでの成果と今後の方針
2,376 (うち企業からの寄付金1,400) 寄附法人数:7法人	指標①	まつり期間中の有料入園者数(本丸・北の郭)	230,000人	194,860人	250,000人	H32.5	地方創生に効果があった	【これまでの成果】 展示用にソメイヨシノより遅咲きのサクラを20品種200本、鉢植えとして製作しました。 平成29年度はまだ展示を行っていないため、今後の展示によって効果が出ることを期待します。
	指標②	4～5月の宿泊者数	101,000人	93,450	105,000人	H32.5		【今後の方針】 製作した鉢植えを育成し、平成31年さくらまつりより展示を行います。

※「地方創生に非常に効果的であった」、「地方創生に相当程度効果があった」、「地方創生に効果があった」、「地方創生に効果がなかった」の中から一つを選択。

地方創生推進交付金・地方創生応援税制(企業版ふるさと納税)活用事業 意見調書

委員名

事業名	事業効果 (○を記入してください。)	意 見
弘前版生涯活躍のまち推進事業	地方創生 (最終目標値 の達成等)に、 有効であつた ・ 有効とはいえない	
都市と地方をつなぐ就労支援カレッジ事業	地方創生 (最終目標値 の達成等)に、 有効であつた ・ 有効とはいえない	

事業名	事業効果 (○を記入してください。)	意 見
地域クリエイターと連携した新たな担い手育成及びコンテンツ等開発事業	地方創生 (最終目標値の達成等)に、 有効であつた ・ 有効とはいえない	
ひろさきライフ・イノベーション推進事業	地方創生 (最終目標値の達成等)に、 有効であつた ・ 有効とはいえない	

事業名	事業効果 (○を記入してください。)	意 見
ひろさきりんご産業イノベーション推進事業	地方創生 (最終目標値 の達成等)に、 有効であつた ・ 有効とはいえない	
弘前さくらまつりにぎわい創出事業	地方創生 (最終目標値 の達成等)に、 有効であつた ・ 有効とはいえない	

※上記の項目が記載されていれば任意の様式で提出されても構いません。
 ※提出方法はEメール・FAX・郵送・ご持参などいずれでも結構です。
 ※様式の電子データを希望される場合は下記担当のアドレスまでその旨ご連絡ください。
 担当：ひろさき未来戦略研究センター 水口 may-mizuguchi@city.hirosaki.lg.jp
 ※9月27日(木)までに提出くださるようお願いいたします。

地方創生推進交付金・地方創生応援税制(企業版ふるさと納税)活用事業 意見調書(記入例)

委員名 ○○ ○○

事業名	事業効果 (○を記入してください。)	意 見
弘前版生涯活躍のまち推進事業	地方創生 (最終目標値の達成等)に、 有効であった ・ 有効とはいえない	移住者施策という視点だけでなく、介護予防や観光振興といった政策間での連携を意識して事業を進めてもらいたい。 また、地域コミュニティの活性化にも効果が及ぶような取り組みとすべき。
地域クリエイターと連携した新たな担い手育成及びコンテンツ等開発事業	地方創生 (最終目標値の達成等)に、 有効であった ・ 有効とはいえない	4市町村の連携事業であることから、市町村間の連携を密にし、取り組み内容である「ブランド開発」や「人材育成」、「情報発信」がそれぞれ個別の取り組みで終わるのではなく、3つの取り組みが連動し、相乗効果を生み出すような取り組みとなることを期待する。

※上記の項目が記載されていれば任意の様式で提出されても構いません。

※提出方法はEメール・FAX・郵送・ご持参などいずれでも結構です。

※様式の電子データを希望される場合は下記担当のアドレスまでその旨ご連絡ください。

担当: ひろさき未来戦略研究センター 水口 may-mizuguchi@city.hirosaki.lg.jp

※9月27日(木)までに提出くださるようお願いいたします。

次期弘前市総合計画策定の進捗状況について（報告）

1. 次期総合計画の構成・期間等の検討状況について

(1) 計画の構成案

【新】次期総合計画構成案

※：黒字：H29 策定素案を基本引継ぎ 赤字：新たに整理

Ⅰ 序論

- (1) 計画策定の趣旨
- (2) 計画の構成・期間
- (3) 弘前市の概要
- (①自然・歴史 ②現状と課題 ③財政推計)
- (4) まちづくりの基本理念
(協働によるまちづくり基本条例)

Ⅱ 基本構想 ※議決事項

- (1) 基本構想の意義
- (2) 目標年次
- (3) 弘前市の長期目標
- (①将来都市像 ②目指すまちの姿（政策）)
- (4) 土地の利用方針

Ⅲ 前期基本計画

- (1) 基本計画の意義
- (2) 基本計画の期間
- (3) 基本計画の構成
- (4) 基本計画の基本方針（市長公約の反映）
- (5) 重点施策（ // ）
- (6) 基本政策（ // ）
- (7) 計画の進行管理

Ⅳ 資料

- (1) 計画策定の経過
- (2) 附属機関・個別計画一覧
- (3) 用語集

別冊

- (1) 実施計画（市長公約の反映）

【旧】H29 策定素案

第1章 新しい計画策定について

- (1) 計画策定の趣旨
- (2) 計画の構成・期間
- (3) 計画の基本方針
- (4) 計画策定の経過

第2章 将来都市像の実現に向けて

- (1) 自然・歴史
- (2) 将来都市像
- (3) 土地の利用方針

第3章 現状と課題・今後の見通し

- (1) 市を取り巻く課題・今後の見通し
(社会経済・市の課題・市民意見)

第4章 将来都市像実現に向けた戦略

- (1) 戦略の全体像
- (2) リーディングプロジェクト
- (3) 分野別政策
- (4) 戦略推進システム

第5章 計画の進行管理について

- (1) マネジメントシステム
- (2) 確かな根拠
- (3) 評価・見直しの体制

第6章 事業展開プログラム

資料編

- (1) 計画策定の経過
- (2) 附属機関・個別計画一覧
- (3) 用語集

(2) 計画の期間の検討状況について

①基本構想

2019年(H31)～2026年(H38)【8年】※

※喫緊の課題が2025年問題であることを重視（平成20年策定の総合計画の期間が8年）

②基本計画

前期：2019年(H31)～2022年(H34)【4年】

後期：2023年(H35)～2026年(H38)【4年】

2019年 (H31)	2020年 (H32)	2021年 (H33)	2022年 (H34)	2023年 (H35)	2024年 (H36)	2025年 (H37)	2026年 (H38)
基本構想 8年							
前期基本計画 4年				後期基本計画 4年			

2. 将来都市像検討のための市民会議

公募市民によりワークショップ形式で将来都市像を検討。

- ・第1回 8月25日(土) 13:30～16:00 市役所市民防災館4階 食堂
- ・第2回 9月29日(土) //
- ・第3回 10月20日(土) //

※参考1：総合計画の構成例

①一般的な総合計画(例)



②前経営計画、H29 策定素案

- 長期目標
将来都市像・政策の設定
- 分野別政策
政策、施策の設定
- 事業展開プログラム
事務事業の設定
期間：4年間(議決事項)
※期間は市長任期と一致
※将来都市像も4年毎に議決事項となる

※参考2：前経営計画、H29 策定素案の計画期間

2014年 (H26)	2015年 (H27)	2016年 (H28)	2017年 (H29)	2018年 (H30)	2019年 (H31)	2020年 (H32)	2021年 (H33)
経営計画4年				経営計画2018～2021(素案) 4年			

平成 27～29 年度の弘前市総合計画審議会における 「弘前市経営計画」への意見について

ひろさき未来戦略研究センター作成

- 1 平成 29 年度の弘前市総合計画審議会からの意見・提言 p. 2
- 2 平成 28 年度の弘前市総合計画審議会からの意見・提言 p.24
- 3 平成 27 年度の弘前市総合計画審議会からの意見・提言 p.34

※ 意見・提言については、市側が主観的な立場で対応したと判断しかねるものや委員の感想等もあるため、各年度の審議会において意見への対応状況を説明した項目のみ黄色で表記しております。

実際は上記以外にも対応したと考えているものもありますが、詳細な説明を要するものであるため今後の審議の中で関連する意見・提言等あれば説明してまいります。

1 平成 29 年度の弘前市総合計画審議会からの意見・提言

区分	施策	意見・提言内容
分野別政策 わづな	【Ⅰ子育て】	総合計画の構成は、自治体は何に力を入れているのかが表れる部分でもあるので、計画の施策の一番初めに「婚活支援」の施策があることに、違和感がある。「婚活支援」を「妊娠・出産への支援体制」や「子どもの成長に応じた切れ目のない支援」の後に位置付けることで、この点については、整理できるのではないかな。
		保育施設や制度を充実させるだけでなく、子供の気持ちに立った子育て環境の充実、保護者や社会の意識啓発等の視点から弘前らしい、在宅での子育てにシフトしていくなどを検討して欲しい。
		子育てと仕事などを両立させ、急な仕事などの変則的な保育需要に対応するため、子育てサポーターが一時保育を行う「子育てサポートシステム運営事業」の拡充を検討して欲しい。
		政策効果モニターの意見で、子育て支援に係る所得制限を外して欲しいという意見が多かった。子育てをしている親を支援するという観点から取組が行われていると思うが、子どもからすると、親の所得が低いので支援を受けているというのは精神的な負担になりかねないので、親の所得に関わらず、支援出来るのが理想と考える。
		子育ては、区切りのあるものではないので、一貫したものがあれば親としてはありがたいと思うので、ワンストップの相談窓口のようなものが出来ればよいと思う。
		子育てに係る部分は子育て支援課が、学校教育に係る部分は教育委員会が担当しているが、いかに連携して取組むかが重要。
	【Ⅱ子どもの学び】	地域でのボランティア活動について、一言でボランティア活動とするのではなく、具体的な内容や参加することでの効果などを明らかにしたほうが、参加しようとする側もイメージしやすくなり、参加者も増えていくと考える。
		子ども会リーダーや少年団のリーダーなど、各分野または学校ごとにリーダーがいると思うが、様々な分野や学校のリーダーをまとめて、例えば、市全体でリーダー会を結成して育成するなどした方が人材育成に効果的と考える。
		退職した教員や引退した職人などの高齢者に、学校教育にも参加してもらうことで、子どもの学習支援のみならず、高齢者の生きがいづくりにも効果的と考える。

区分	施策	意見・提言内容
分野別政策 ひとづくり	【Ⅱ子どもの学び】	政策効果モニターの意見で、子どもが忙しすぎるというものがあった。孤立はいけませんが、一人が好きな子どももいるので、必ずしも、何かしらの団体や組織に子どもを所属、あるいは行事等に参加させる必要はないと考える。
		地域との一体化を図りながら、子どもの教育に取り組むという方針があると思うが、地域力や地域資源の活用を考えた場合、地域の力が学校に強く働く仕組みを検討して欲しい。
		学校運営協議会に関わっている人の多くは、町会長などであり、保護者として学校に関わっている人が少ないのが現状なので、学校運営協議会に保護者を参加させるようにしていくべき。
		小中一貫教育システムについての情報が少なく、学校として何をやるのか、何をやりたいのかがわからず、現場の先生方や保護者は困惑しているので、もっとわかりやすい情報発信に努めるべき。
		※【くらしづくり Ⅲ安全・安心】より再掲 防災教育の中では、「命を守ること」から「人を支える」というように視野を拡大することが求められている。また、弘前の地形、地質、気候がどう影響するのかというように学校教育にも関係することであるが、郷土学習である「ひろさき卅（まんじ）学」には、こういった点が含まれていないが、本来であれば必要であったと考える。
		※【まちづくり Ⅲ生活基盤】より再掲 今後、交通整理員事業が廃止され、学校とPTA、地域が連携し、防犯等を含めた総合的な子どもの見守りを図っていく必要があるとしているが、交通整理員は、交通整理だけでなく、子どもの見守りという役割も果たしていると思う。
		※【まちづくり Ⅲ生活基盤】より再掲 交通整理員という毎日決まった人に交通整理と見守りをしてもらった方が安心感があるのではと思う。また、ボランティアであれば、人数の確保などの課題もあると思うので、総合的な見守りを進めるうえでそのような課題を整理して取組を進めてほしい。

区分	施策	意見・提言内容
分野別政策 ひびく	【Ⅱ子どもの学び】	※【まちづくり Ⅲ生活基盤】より再掲 通学路の見守り体制の構築について、行政で考えている体制と地域での実情には開きがある。地域から、例えば歩道や防犯カメラの設置を要望しても、なかなか設置に至っていないので、もっと現状を把握し分析したうえで、子どもたちの安全・安心に関する施策について検討すべき。
		子どもの貧困や若者の貧困対策についての施策がないので、施策として取り上げるべきではないか。
		子どもの教育に予算を重点的につけてほしいと審議会でも意見を出してきたが、学校施設を整備するということが計画に全く書かれていないので、学校施設の整備について、どのような計画で進めていくのか計画に記載すべきではないか。
	【Ⅲ多様な学び】	文化・芸術団体も高齢化し、人数が少なくなっているため、今後は、異なる分野の団体であっても、連携して活動することで、新たな方向性が見えたり、人数を確保できたりするメリットがあると考えます。
		少子化の影響から PTA 活動も縮小していく中、地域の青少年健全育成に関わる団体が、学校との関わりを持って活動すれば、PTA 活動の縮小を食い止め、また、保護者からの協力や理解を得られるようになると思います。
		家族の形態など、これまで当たり前と考えられてきたことが当たり前でなくなってきているので、今後、計画の策定や施策を考えるうえでは、改めて現状を把握することが必要と考えます。
		※【まちづくり Ⅱ都市環境】より再掲 都市環境と観光振興の分野で、文化・芸術と文化財を観光振興のために活用していくという趣旨だと理解しているが、その原点として、地元の子どもたちに地域資源について、知ってもらうことがスタートになるのではないかと考える。
		※【まちづくり Ⅱ都市環境】より再掲 経営計画で子どもたちの笑顔あふれるまちを将来都市像にしているのであれば、子どもたちの意見も積極的に聞いてみてはどうか。「まち育てミーティング」にしても、出席者は町会の役員がほとんどであるので、未来ある子どもたちのためにと考えるのであれば、子どもたちが参加しやすい講座の開催を検討して欲しい。

区分	施策	意見・提言内容
分野別政策 くらしづくり	【Ⅰ 健康】	一次検診の受診率は、増加傾向にあるが、二次検診になると保険診療となり、費用と時間が別にかかるようになるため、二次検診の受診率が悪いという現状があるので、二次検診の受診率を改善させる取組が必要と考える。
		肺がん対策として、公共施設や不特定多数の人が集まる場所では分煙ではなく、敷地内禁煙を推し進めるべき。青森県は、喫煙率と肺がんの死亡率が全国トップであるので、思い切った厳しい対策が必要。
		弘前は飲食店での喫煙が課題。地元の人が住みやすくなければ、観光客にとっても魅力的な場所とはならないはずであるので、そういう視点での社会環境の整備も必要ではないか。是非、飲食店やホテルでの禁煙を進めてほしい。
		ねぶた祭りにおいて、沿道で観覧しながら喫煙している市民がいるなど、多くの観光客を迎え入れる弘前市として、飲食店以外でも喫煙ルールの徹底やマナーの向上が必要だと強く感じる。健康増進や観光振興の視点からも、強く進める必要がある。
		高齢者の就労に関連して、青森県は短命県ということは周知のとおりだが、健康寿命が他県と比べてどうなのかという分析も必要であり、健康寿命を伸ばすための政策を盛り込んでもらいたい。
		2025 年問題に関連して、高齢者であっても働いて、保険料を払う人を増やしていくような考えも必要ではないか。また、高齢者福祉というと、困っている部分を支援するというように考えがちだが、生活習慣病を防ぐために働くというような健康維持と就労を結び付けて施策を検討して欲しい。
		地域医療構想との関連を総合計画にも位置づけて整理する必要がある。

区分	施策	意見・提言内容
分野別政策 くらしづくり	【Ⅱ福祉】	「自立支援介護の推進」の施策の指標が、「自立支援介護に取り組む事業者数」となっているが、いくら事業者数が増えても、介護度が改善されなければ意味がないので、指標の見直しが必要。
		政策効果モニターの意見で、子どもから高齢者まで多世代が交流できることを望む意見があったことから、子どもや高齢者、障がい者など誰でも集まれる場所づくりに取り組んでもらいたい。
		「幼老統合ケア」という言葉が使われるようになって 10 年程たつが、幼児から小中学生、高齢者といった多世代が集まれる場所が必要。県では、「幼老統合ケア」のモデル事業に着手しているので、弘前市でも取組を検討してもらいたい。
		一人暮らしの高齢者にとっては、家の除雪が非常に負担となるため、例えば、まちづくりと関連させ、中心市街地に集合住宅を作り、集住してもらうことで効率的な地域ケアができ、高齢者にとっても利便性が向上するとともに、生涯学習や教育分野での活躍の幅が広がるなどの効果が期待できると考える。
		高齢者は様々な経験やスキルを持っているが、老人クラブやシルバー人材センターといった名称に抵抗を感じる人が少なくないのではないかと。健康分野での先進地である長野では、高齢者が社会とのつながりを強く持っているため、名称を変えて参加しやすくなることで、高齢者の居場所づくりにも寄与すると考える。
		高齢者が弘前で何をしていくのかということが重要。65 歳まで働き、年金をもらえるようになれば年金をもらい、具合が悪くなれば介護保険を利用する。退職してから何をするのか、生きがいが必要。
		障がい者福祉について、地域移行が進められているが、単に地域移行を進めるだけでなく、実際の生活に配慮した地域移行を進める必要がある。
		2025 年問題という高齢者が増えることと捉えられがちだが、障がい者の親世代が高齢化するという問題もある。そうすると、これまで在宅で生活していた障がい者は親がいなくなることで在宅での生活が続けられなくなるという問題が出てくるので、そういった問題への対応も必要になると考える。

区分	施策	意見・提言内容
分野別政策 くらしづくり	【Ⅱ福祉】	高齢者や障がい者という言葉自体がネガティブなイメージを与える。アメリカでは、高齢者をベテランと呼び、障がい者は差別用語であり、使ってはいけない言葉になっているので、こういう用語を使わないということも検討して欲しい。
		障害者生活支援センター、身体障害者福祉センターは老朽化が進んでいることから、両施設の機能を統合して新設することについて検討して欲しい。
		※【まちづくり Ⅲ生活基盤】より再掲 歩道のバリアフリー化について、点字ブロックの色が統一されていない。景観を優先した色になっているので、弱視の方が識別しづらいという話を聞いたことがあるので、段差をなくすだけでなく、点字ブロックの色にも配慮してもらいたい。
		弘前市も高齢化率が30%を超えるようになり、最近では、地域包括支援センターを入口とする介護保険事業に頼る傾向が強くなってきているように思われる。次期計画では、地域の中での支え合いを再度確立させ、町会活動や民生委員なども含めて地域活動を充実させる施策を検討して欲しい。
		民生児童委員をしているが、地域の一人暮らしの高齢者を保育園に招待し、園児とふれあい、昼食を食べて帰るというイベントを初めて実施したが、好評で今後も継続していきたいと考えている。このように、地域にある保育園や幼稚園は非常に重要な存在であり、地域活動に巻き込んでいければ、地域のコミュニティの活性化にも効果的と考える。
		町会長や民生委員がしっかりとした報酬を得られるような仕組みを考えてみてはどうか。職業として、成り立つようになれば、担い手も現れ、地域コミュニティの立て直しにもつながると考える。
		ここ数年で町会に関しては大きな課題になっていると感じているが、町会長は様々な会合に出席するなど非常に多忙だと思うし、責任を持って務めてもらうという意味からも町会長や民生委員などを仕事と捉えて、一定の報酬を支払うのは一つの方法と考える。

区分	施策	意見・提言内容
分野別政策 くらしづくり	【Ⅲ安全・安心】	防災マイスターを養成するのはいいが、資格取得後の活動が特にないという話も聞いているので、単に資格取得を促すだけでなく、実際に地域の中で活動することができるスキルを身に付けてもらうことを防災マイスターの資格取得のカリキュラムに組み込むことが必要ではないか。自主防災組織も同様で、組織率を上げることだけでなく、結成後の活動がいかに行われているかが重要であり、そのような視点を持つべき。
		防災教育の中では、「命を守ること」から「人を支える」というように視野を拡大することが求められている。また、弘前の地形、地質、気候がどう影響するのかというように学校教育にも関係することであるが、郷土学習である「ひろさき卅（まんじ）学」には、こういった点が含まれていないが、本来であれば必要であったと考える。
		緊急災害情報の発信の仕方は、今後、ミサイル問題も含めて課題になってくると思う。例えば、仙台市では、市民かどうかに関わらず、市内にいてだけで緊急災害情報が携帯電話に自動的に配信される仕組みを導入している。市として、そのような防災体制がとられていることが、観光面での受入態勢にも関連してくると思う。
		地域コミュニティの力が弱くなっているような町会が自主防災組織を組織するのはなかなか難しいと思われるが、例えば、公民館で防災教育や訓練をやる、または、地域の祭りを炊き出しの訓練も兼ねてやることなどをきっかけに、自主防災組織の必要性が町会に伝わり、組織化につながるなど、町会の活動と関連させることで、地域防災力だけでなく地域コミュニティの活性化にもつながると思う。
		自主防災組織を作りたいという要請はあるものの、実際に作った後の活動についての行政からの支援や助言がない。作った後の活動などについても、積極的に情報発信することで、より防災意識が高まると考える。

区分	施策	意見・提言内容
分野別政策 くらしづくり	【Ⅲ安全・安心】	自主防災組織について重要なのは、組織率ではなく、地域住民の防災に対する意識をどう高めるかということを考えながら取組を進めることではないか。行政からの働きかけだけでなく、住民側からの自発的な動きがあって町会が活性化する。
		近年、温暖化の影響などで想定外の災害が頻発するようになっており、関心も高まっていることから、防災に関する取組を重点的に進め、それをきっかけとして、例えば避難所の開設や防災訓練の実施などを通じて、地域コミュニティ、町会の活性化につなげることを検討して欲しい。
		地域防災力など、これまで町会に求められていなかったものが町会に求められるようになってきていることから、町会あるいは町会長の役割について、改めて整理する必要があると思う。また、町会長や町会役員を次に担う人が育たないといけないと強く思う。
		人口減少や少子高齢化など社会環境が大きく変化している中で、町会の運営についてもこれまでのやり方から、大きく転換する必要があると思う。また、防災についても、ある町会で、町会の住民が防災マイスターの資格を取り、町会の行事と防災に関する活動をうまく絡めて活動している事例を聞いたことがあるので、そのような先進事例を積極的に情報発信することを検討して欲しい。
		※【まちづくり Ⅲ生活基盤】より再掲 今後、交通整理員事業が廃止され、学校とPTA、地域が連携し、防犯等を含めた総合的な子どもの見守りを図っていく必要があるとしているが、交通整理員は、交通整理だけでなく、子どもの見守りという役割も果たしていると思う。
		※【まちづくり Ⅲ生活基盤】より再掲 通学路の見守り体制の構築について、行政で考えている体制と地域での実情には差がある。地域から、例えば歩道や防犯カメラの設置を要望しても、なかなか設置に至っていないので、もっと現状把握をして分析をしたうえで、子どもたちの安全・安心に関する施策について検討すべき。

区分	施策	意見・提言内容
分野別政策 まちづくり	【Ⅰ 雪対策】	地域のどこに雪置き場があるのか、あるいはいつ排雪されるのかが視覚的にわかる町内マップのようなものがあると便利だと思う。
		雪対策は必要な施策であるが、雪との共存を通じて快適な生活というのを政策の中で、指標や取組として表していければいいのではないかな。そうすることで、弘前ならではの冬の魅力というものが見えてくると考える。
		これまでは、積雪深などの基準に基づいて除雪が行われていたと思うが、今後ますます高齢化が進む中では、これまでの基準や方法を見直し、除雪だけに頼らない雪対策を検討すべき。
		除雪事業者は、朝の通勤通学時間までに除雪作業を終わらせなければならないという制限がある中で作業していると思うが、実際に生活していて、来なくてもいい時に除雪に来たり、来てほしいときに来なかったりというがあるので、出勤態勢や基準については柔軟に対応するように見直しを図ってほしい。
	【Ⅱ 都市環境】	施策「快適な住環境の整備」は、主に市営住宅の整備に関する施策であるが、住みやすいと思ってもらうためには、建物だけではなく、交通インフラなどの総合的な住環境の充実が必要となるので、関連する「良好な市街地の形成」や「道路網の整備」などの施策とも連携して総合的な視点で取組を進めるべき。
		都市環境と観光振興の分野で、文化・芸術と文化財を観光振興のために活用していくという趣旨だと理解しているが、その原点として、地元子どもたちに地域資源について、知ってもらうことがスタートになると考える。
		文化財を活用したまちづくりから観光振興につなげて行くという考え方は理解できる。ただ、それを行うためには、地元の人々が地域資源として何があり、それをどうしていくべきなのかを考える必要がある。

区分	施策	意見・提言内容
分野別政策 まちづくり	【Ⅱ 都市環境】	経営計画で子どもたちの笑顔あふれるまちを将来都市像にしているのであれば、子どもたちの意見も積極的に聞いてみてはどうか。「まち育てミーティング」にしても、出席者は町会の役員がほとんどであるので、未来ある子どもたちのためにと考えるのであれば、子どもたちが参加しやすい講座の開催を検討して欲しい。
		※【くらしづくり Ⅱ福祉】より再掲 一人暮らしの高齢者にとっては、家の除雪が非常に負担となるため、例えば、まちづくりと関連させ、中心市街地に集合住宅を作り、集住してもらうことで効率的な地域ケアができ、高齢者にとっても利便性が向上するとともに、生涯学習や教育分野での活躍の幅が広がるなどの効果が期待できると考える。
	【Ⅲ生活基盤】	今後、交通整理員事業が廃止され、学校と PTA、地域が連携し、防犯等を含めた総合的な子どもの見守りを図っていく必要があるとしているが、交通整理員は、交通整理だけでなく、子どもの見守りという役割も果たしていると思う。
		交通整理員という毎日決まった人に交通整理と見守りをしてもらった方が安心感があるのではと思う。また、ボランティアであれば、人数の確保などの課題もあると思うので、総合的な見守りを進めるうえでそのような課題を整理して取組を進めてほしい。
		交通整理員が廃止された箇所には、例えば信号機を設置するなど、交通政策だけでなく、都市政策や道路整備との関連も含めて考えて欲しい。
		通学路の見守り体制の構築について、行政で考えている体制と地域での実情には差がある。地域から、例えば歩道や防犯カメラの設置を要望しても、なかなか設置に至っていないので、もっと現状把握をして分析をしたうえで、子どもたちの安全・安心に関する施策について検討すべき。

区分	施策	意見・提言内容
分野別政策 まちづくり	【Ⅲ生活基盤】	施策「歩道の改修」では、バリアフリー化への対応について触れられているが、バリアフリー化だけでなく雪対策との連携もあるのではないか。例えば、除雪がしやすいような形状や幅にする、あるいは、自転車道を整備して冬は雪置き場に活用するなど、雪対策のことも考え、歩道と道路を別々に考えるのではなく、総合的に考えて整備を進めて欲しい。
		歩道のバリアフリー化について、点字ブロックの色が統一されていない。景観を優先した色になっているので、弱視の方が識別しづらいという話を聞いたことがあるので、段差をなくすだけでなく、点字ブロックの色にも配慮してもらいたい。
	【Ⅳエネルギー・環境】	施策「良好な生活環境の確保」のマネジメント評価は、カラス対策がメインのように整理しているので、ペットの問題（犬・猫の糞尿処理）など生活環境に対する取組も見えるようにした方がよい。
		カラス対策の事業として「街なかカラス対策事業」があるが、街なかから追い払われたカラスが郊外で、りんごなどの農作物にも被害を及ぼすようになってきているので、農林業振興の分野とも連携して、街なかだけでない総合的な取組を検討して欲しい。
		市で、町会にごみ集積ボックス設置の補助をしているが、補助金の交付にあたっては、個別に様々な事情があると思うので柔軟に対応してもらいたい。

区分	施策	意見・提言内容
分野別政策 なりわいづくり	【Ⅰ 農林業振興】	施策の指標である「りんごを除く主要な農産物の作付面積」が減少傾向にあるが、その対策としては何かあるのか。また、作付面積が減ったとしても生産量が確保できていれば問題ないという考え方もあると思うので、次期計画の中では、新たに生産量を指標に加えることを検討して欲しい。
		生産、販売、人材育成を総合的に捉えるべき。生産力と販売力が上がってくれば自然と担い手も増えてくるので、生産力と販売力を着実に強化することで農家の収入向上につなげ、担い手の確保につなげていくという好循環を生み出す方向性を考えるべきであり、日本一のりんごの生産量を確保するのではなく、収益を確保することを考えるべき。
		台湾へのりんごの輸出は好調であるが、ベトナムに関しては有袋りんごでなければ輸出出来ない状況。有袋栽培を出来る人も減っていることからサンふじが輸出できるようにならないとメリットがないと考えているので、つがる弘前農協としては、ベトナムへもサンふじを輸出できるよう行政と連携して取り組んでいきたい。
		りんご農家の高齢化や選果作業員を募集してもなかなか集まらないという問題がある。今後、ますます労働力不足が進行すれば、海外から労働力を確保する必要があると思うので、つがる弘前農協としては、その際の受入体制として市内の空き家を活用するなど行政と連携していきたいと考えている。
		消費拡大及び販路拡大の施策に関し、りんごが最も重要な農作物であることはもちろんだが、米やその他の農作物に関しても、リスク分散という視点からも具体的に今後の方針を示すべき。
		米も重要視すべきであり、市として米が置かれている現況について整理すべきと考える。また、後継者の問題にも関係するため、意欲のある生産者を作り出し、収益の向上につながるような取組を考えてもらいたい。

区分	施策	意見・提言内容
分野別政策 なりわいづくり	【Ⅰ 農林業振興】	※【まちづくり IVエネルギー・環境】より再掲 カラス対策の事業として「街なかカラス対策事業」があるが、街なかから追い払われたカラスが郊外で、りんごなどの農作物にも被害を及ぼすようになってきているので、農林業振興の分野とも連携して、街なかだけでなく総合的な取組を検討して欲しい。
	【Ⅱ 観光振興】	官民が連携して、いかに外貨を稼ぐかということが重要。その中で、中心市街地の商店街に金が落ちていないという反面、まつり期間中でも通常通りの時間で閉店するなど観光客の受入態勢に関して矛盾を感じる。商店街との協議が必要になると思うが、閉店時間を延ばすなど受入態勢を整えることが必要。
		さくら祭り期間中は100円バスの利用者が非常に多いので、所要時間に応じたモデルコースなどを記載した観光マップを作成し、バスの利用者に配布すれば、街歩きに誘導できる確率が高まると考える。
		以前、市からさくら祭りなどで多くの観光客が来ても弘前公園しか行かない観光客が多く、周辺に人が流れていないという現状に関する説明があったが、四大まつりをPRする際に、まつり以外の観光資源についてもあわせてPRすることで、街歩きなどに誘導することができ、にぎわいの創出につながると考える。
		100円バスもいいが、他都市では、市内の観光名所を周遊する500円バスというようなものもあり、市内を周遊させるには効果的な手法。弘前は、市内に観光名所が点在していることから、この点を考慮して観光施策を考えていく必要がある。
		指標である「行催事・イベント観光入込客数」が減少しているが、どこに課題があるのかを把握するためにも、減少している要因などの分析が必要。また、観光コンテンツの開発に関して、観光客とひとくくりにするのではなく、団体客なのか外国人なのかターゲットを明確にしてコンテンツ開発に取り組む方がより効果的と考える。

区分	施策	意見・提言内容
分野別政策 なりわいづくり	【Ⅱ 観光振興】	政策の方向性が5つに分かれているが、特にインバンド対策も含めて一体的に考えていく必要があるのではないかと。また、観光資源の魅力についても、ターゲットにとって異なるものであることから、誰に向けての魅力なのかをしっかりと意識して取り組むべき。
		外国語の観光マップもあるとのことだが、日本語の観光マップを画一的に各国語に翻訳するのではなく、かみくだいた内容にするなどの工夫が必要。
		外国人観光客は、スマートフォンを活用して移動するので、スマートフォンに情報が流れるような仕組み、あるいは街歩きへ誘導できるようなアプリの開発なども検討して欲しい。
		訪日外国人観光客が年々増加している中、東北に来る外国人は全体の1%しかいない。格安航空会社（LCC）を青森空港に積極的に誘致することを県に強く働きかけるべき。
		観光ビッグデータは、今後ますます蓄積されていくと思うが、そのデータをいかに活用するのが重要であり、それを出来る人材育成が必要。また、そのような人材が地域で輩出されるようになると、データ分析に関わる企業誘致にも繋がり、若者の定着にもつながることから、観光を広く捉えることで雇用にも繋がっていくと考える。
		※【くらしづくり I 健康】より再掲 ねぷた祭りにおいて、沿道で観覧しながら喫煙している市民がいるなど、多くの観光客を迎え入れる弘前市として、飲食店以外でも喫煙ルールの徹底やマナーの向上が必要だと強く感じる。健康増進や観光振興の視点からも、強く進める必要がある。

区分	施策	意見・提言内容
分野別政策 なりわいづくり	【Ⅲ 商工業振興】	物産の販売を強化するため、観光館内のレイアウトの見直しや販売スペースの拡大を図る。また、工芸品と民芸品の区別がなされておらず、ブランド化もされていない状況であることから、工芸品や民芸品に対する機運の醸成を図るためのワークショップなどを開催できるスペースも確保するなどして、魅力ある観光館とする取組が必要。
		物産協会としては、海外への販路拡大についても、市とも連携して行っているが、先方からのオーダーを受けて商品を提供しているというのが現状であり、単発のイベントとなってしまうっており、成果として現れていない。輸出と言うからには、経済的な成果が現れる必要があると考えるので、そのような取組を期待したい。
		既存企業が弱くなってしまうと、いくら創業・起業を頑張っても全体として効果がないものになってしまうため、創業・起業への支援だけでなく、既存企業への支援も重要。
		企業の後継者の問題、承継問題についても、次期計画では触れておくべき。
		インキュベーション・マネージャーの業務過多が問題になっているが、インキュベーション・マネージャーは県内外に幅広いネットワークを持っており、増員すれば質の向上にもなることから増員を検討してもらいたい。
		起業・創業に関する伴走型支援は、弘前市の大きな特徴となり得るものだと思うので、事業存続数といった挑戦的な指標を掲げることを検討して欲しい。
		重点３分野（食産業、アパレル産業、精密医療産業）を強化するのであれば、３分野を担う人材育成にも取組むべき。産業はあっても、それを担う人材が地元で育成されなければ、若者の県外流出を招くことにもなる。

区分	施策	意見・提言内容
分野別政策 なりわいづくり	【Ⅲ商工業振興】	現計画では、若年者や女性への就職支援がまとめて一施策となっているが、大学生と女性では就職支援の内容も別物であることから、施策として区別し、きめ細かい取組が必要。特に、大学生に関しては、受入企業を単に増やすだけでなく、受入した企業での環境づくりを支援するなど、地元の中小企業を支援することで学生の支援につなげていけるような政策があれば、相乗効果が生まれると考える。
		県内企業に就職したが、給料だけでは生活できずに、親から仕送りしてもらおうという事例を最近聞くようになった。市内に留まりたいという学生も相当数いるが、実際に生活できるかどうかが一番重要であり、これについては行政だけで解決できるものではないので、大学と民間事業者と行政の３者が連携して取組んでいく必要がある。
		全国的な傾向だが、特に理系の学生が首都圏に流出している状況。一方で、文系でもマーケティングなど情報分析に関する仕事を地方で創出することが出来れば、それだけ雇用を生み出す可能性のある職種だと思うので、学生の地元就職率の数字が変わってくると思う。
		奨学金の返済などから給与面の条件で県外就職する傾向が強い。地元企業が奨学金の返済を支援するのは難しいので、行政が支援するなどの対応を期待したい。
		将来、弘前に貢献するため、一度、県外に出てからＵターンするという考えの学生もいるので、Ｕターン就職を促進する、あるいは受入れる体制が必要。
		一度、県外に出て様々な経験を積むというのも必要だと思う。その後、Ｕターンして地元に戻ってきたときに、収入というハードルはあるが、その代わりにやりがいなどを見つけていくという仕組みを作ることを検討して欲しい。
		津軽塗については、津軽塗の製品に関心が行きがちだが、国産の漆の確保が困難になってきているという現状があるので、「漆掻き」にもスポットを当てて、漆工芸全体に対する支援を検討して欲しい。

区分	施策	意見・提言内容
戦略推進システム	【ビッグデータ・オープンデータを活用した地域経営】	ビッグデータ・オープンデータを一般市民が利活用するための講座やセミナーなどを開催すべき。また、ビッグデータ・オープンデータを学校教育などひとつづくり分野で活用することも検討してもらいたい。
	【Ⅰ オール弘前体制の構築（市民の力と知恵の結集）】	「ホームページアクセス件数」や「フェイスブックいいね数」を見ると、発信した情報を受け取ってもらえていることはわかるが、受け取ってもらって終わりではなく、それが具体的なアクションにつながっているかどうかということが重要。次期計画においては、発信した情報を受け取ってもらえているかという視点に加えて、情報発信の結果、実際に市民の行動につながっているかどうか測れる指標の設定も必要。
		昨年、「健康増進リーダー」の活動の一環として、広報ひろさきに健康寿命などに関する意識啓発を目的として「健康レポート」を4回掲載させてもらったが、その広報を見て、「健康増進リーダー」の活動に参加した人もおり、広報誌での情報発信の効果を感じている。また、例えば、月曜日は子育て、火曜日はイベント情報といったように、曜日ごとにテーマを決めて情報発信するのは効果だと思う。
		フェイスブックやツイッターといった SNS やホームページを利用しない人も相当数いると思うので、紙媒体の広報誌での情報発信は重要。また、広報誌への掲載についても、締切日が早いなど運用上の制約があるので、より柔軟に見直すことでより効果的な情報発信につながると考える。
		情報発信の一つとして、各担当課から直接、教育委員会を通じて各学校に依頼して、児童生徒に配布してもらえば、広報誌よりも情報が早く、効果的と考える。
		大学との連携について、大学側に合わせるだけでなく、市として、こういうことをやりたいというような提案があってもよいと思う。

区分	施策	意見・提言内容
戦略推進システム	【Ⅰ オール弘前体制の構築（市民の力と知恵の結集）】	政策の名称である「オール弘前体制の構築」というのが、イメージしづらい。もう少しわかりやすい名称の方がよいと思う。
		町会連合会等の会合には、エリア担当の職員が参加していると思うが、一市民としてエリア担当の職員が誰なのか、わからないので、各町会の回覧や地区社協のお知らせでエリア担当職員を紹介して欲しい。
		エリア担当制度については、各地域によって活動に差があるかもしれないが、私の地区では、エリア担当から行政の情報を提供してもらうなど、行政と協調した地域づくりが行われていると思う。また、町会の担い手不足という問題についても、町会連合会と市が連携して組織しているプロジェクトチームの中でも議論されているが、地域によって状況が異なるため、地域の実情に即した世代交代の仕組みについて検討していく必要がある。
		市内には 324 の町会があり、各町会によって状況が異なるため、町会連合会としては、各地区の実情に合わせてどうやって活性化を図るか考えている。様々な意見があるのはわかるが、実際の町会活動に参加し、実践しながら町会のあり方について議論すべき。
		町会活動等に若い世代の人をもっと取り込みたいのであれば、仕事をしている人でも参加できるように会議や行事の開催日時を見直すなどしないと、いくら施策として力を入れて取組をすすめようとしても改善されないのではないか。代理出席は出来ないなどの制約が多いので、運営方法を見直ししなければ、町会の活性化にはつながらないと思う。
		町会などの担い手がいないという声がある一方で、まちづくりのファシリテーター養成講座などを開催すると意外と人は集まっており、積極的に関わりたいと考えている人もいるのではないかと。町会活動の多くが平日の日中に行われるため、若い世代は仕事で参加できないのであって、運営方法に課題があると思う。

区分	施策	意見・提言内容
戦略推進システム	【Ⅰ オール弘前体制の構築（市民の力と知恵の結集）】	町会という組織の本質を考えると、地域住民が共存するために結成する組織であり、行政が強制的に働きかけるという趣旨のものではないが、例えば、松本市のように町会加入を勧めるという視点も必要と考える。また、エリア担当制度として、市職員が町会の橋渡し役となっているが、橋渡し役ではなく、もっと町会に入っていき底上げを図るような仕組みが必要。
		桔梗野の公民館に地域住民の話を聞きに、空き時間を活用して通っている学生がおり、通っているうちに信頼関係が出来て、町会のイベントも手伝うようになったという話を聞いている。人のつながりや信頼関係を基盤として、地域コミュニティを作っていけると思う。
		地域コミュニティの強化が必要だという意見は、その通りだと思うが、今は、町会や地域という枠組みを超えて、団体やグループを作り活動している人たちがいるので、そのようなグループの中で地域の問題等を共有し、町会に他の地域の情報をつなげるような、大きな枠組みの中で考えるべき。
		「多文化共生・国際交流の推進」の施策で取組内容に記載されていることは、単なる交流にとどまっており、多文化共生に対する市の認識が薄いと感じる。多文化共生とは、違う文化を持った人たちを理解し尊重しながら、手を取り合い生活していくことに結び付けていくことであるため、交流だけでなく市民の認識を変えるような深まりのある事業展開が必要であり、それに関連した政策間での連携が必要なのではないか。
		※【くらしづくり Ⅱ福祉】より再掲 民生児童委員をしているが、地域の一人暮らしの高齢者を保育園に招待し、園児とふれあい、昼食を食べて帰るというイベントを初めて実施したが、好評で今後も継続していきたいと考えている。このように、地域にある保育園や幼稚園は非常に重要な存在であり、地域活動に巻き込んでいければ、地域のコミュニティの活性化にも効果的なのではないかと考える。

区分	施策	意見・提言内容
戦略推進システム	【Ⅰ オール弘前体制の構築（市民の力と知恵の結集）】	※【くらしづくり Ⅱ福祉】より再掲 町会長や民生委員がしっかりと報酬を得られるような仕組みを考えてみてはどうか。職業として、成り立つようになれば、担い手も現れ、地域コミュニティの立て直しにもつながると考える。
		※【くらしづくり Ⅱ福祉】より再掲 ここ数年で町会に関しては大きな課題になっていると感じているが、町会長は様々な会合に出席するなど非常に多忙だと思うし、責任を持って務めてもらうという意味からも町会長や民生委員などを仕事と捉えて、一定の報酬を支払うのは一つの方法と考える。
		※【くらしづくり Ⅲ安全・安心】より再掲 地域コミュニティの力が弱くなっているような町会が自主防災組織を組織するのはなかなか難しいと思われるが、例えば、公民館で防災教育や訓練をやる、または、地域の祭りを炊き出しの訓練も兼ねてやることなどをきっかけに、自主防災組織の必要性が町会に伝わり、組織化につながるなど、町会の活動と関連させることで、地域防災力だけでなく地域コミュニティの活性化にもつながると考える。
		※【くらしづくり Ⅲ安全・安心】より再掲 自主防災組織について重要なのは、組織率ではなく、地域住民の防災に対する意識をどう高めるかということを考えながら取組を進めることではないか。行政からの働きかけだけではなく、住民側からの自発的な動きがあって町会が活性化する。
		※【くらしづくり Ⅲ安全・安心】より再掲 近年、温暖化の影響などで想定外の災害が頻発するようになっており、関心も高まっていることから、防災に関する取組を重点的に進め、それをきっかけとして、例えば避難所の開設や防災訓練の実施などを通じて、地域コミュニティ、町会の活性化につなげることを検討して欲しい。

区分	施策	意見・提言内容
戦略推進システム	【Ⅰ オール弘前体制の構築（市民の力と知恵の結集）】	※【くらしづくり Ⅲ安全・安心】より再掲 地域防災力など、これまで町会に求められていなかったものが町会に求められるようになってきていることから、町会あるいは町会長の役割について、改めて整理する必要があると思う。また、町会長や町会役員を次に担う人が育たないといけないと強く思う。
		※【くらしづくり Ⅲ安全・安心】より再掲 人口減少や少子高齢化など社会環境が大きく変化している中で、町会の運営についてもこれまでのやり方から、大きく転換する必要があるのではないと思う。また、防災についても、ある町会で、町会の住民が防災マイスターの資格を取り、町会の行事と防災に関する活動をうまく絡めて活動している事例を聞いたことがあるので、そのような先進事例を積極的に情報発信することを検討して欲しい。
		※【まちづくり Ⅲ生活基盤】より再掲 今後、交通整理員事業が廃止され、学校と PTA、地域が連携し、防犯等を含めた総合的な子どもの見守りを図っていく必要があるとしているが、交通整理員は、交通整理だけでなく、子どもの見守りという役割も果たしていると思う。
		※【まちづくり Ⅲ生活基盤】より再掲 交通整理員という毎日決まった人に交通整理と見守りをしてもらった方が安心感があるのではと思う。また、ボランティアであれば、人数の確保などの課題もあると思うので、総合的な見守りを進めるうえでそのような課題を整理して取組を進めてほしい。
	【Ⅱ 強い行政の構築】	合併後 10 年以上たつのだから、弘前市全体の一体感を醸成すべきであって、岩木・相馬の活性化に係る施策を強調して打ち出す必要はないと思う。
	【分野横断】	弘前の一番のハンデキャップは、雪対策。雪問題のため市外に出て行く人もいるのだから、雪対策をどのように克服するか、全体を貫く一つの方向性に掲げて計画を策定することも検討して欲しい。

区分	施策	意見・提言内容
【分野横断】		各個別計画の一覧が計画に入ることだが、同じように附属機関の一覧についても計画に記載されるべきではないか。オール弘前で市政を運営していくとされているので、多様な主体で市を運営しようとしていることを示すうえでも附属機関を計画に記載すべきと考える。
		例えば、雪をどう克服するか、地域コミュニティをどう活性化させるかなど、テーマごとにそれぞれ目標を立て、それぞれの施策がこのように関連してくるということを整理すべきではないか。ひとつづくり、くらしづくりのように分野ごとに分けることも重要だが、それぞれの分野を総合して、具体的に何をを目指すかということを明らかにしていくべき。
		高齢者の問題も小中一貫教育のような学校教育の問題も、全て関連する施策であり、各施策を個別に見直すということでは対応できない状況になっているので、総合的に関連付けて見直し、あるいは取組むことが必要。
		地域コミュニティの活性化を目指すのであれば、しっかりとした予算の裏付けが必要。地域コミュニティだけでなく、地域防災にしてもそうだが、本気でやるのであればしっかりとした予算を付けることが重要。
		各担当課での連携や各施策間での連携について、何が主軸となり連携していくのかが見えないので、具体的にどの担当課が中心になっているのか、あるいはどのような方向性で連携しているのかが見えるような形で整理していった欲しい。
弘前市まち・ひと・しごと 創生総合戦略	移住対策	移住に関する取組は、腰を据えた取組になると思うが、他市町村でも移住に関する取組を進める中で、他市町村と比較・分析をしたうえで、弘前の強みをアピールして移住者を呼び込む必要があると考える。
		移住についての具体的な戦略が足りないと感じる。移住者が来るのを待つのではなく、具体的に「こういう人材に来て欲しい」というようにターゲットを絞り、民間事業者とも連携した移住施策を戦略の一つとするべきではないか。
		民間企業が東京で求人する、あるいは斡旋する場合の支援等はあるのか。地元企業が首都圏などから人材を獲得するような仕組みがあってもいいのではないかと考える。
		移住に対して、雪が障害になるという話もあるが、雪に対して憧れを持つ人もいるので、雪に関してネガティブな情報発信だけにならないよう、アピールポイントにもなるという認識を持ってもらいたい。

2 平成 28 年度の弘前市総合計画審議会からの意見・提言

※各年度の審議会において意見に対する対応状況を説明し承認していただいた意見の欄のみ黄色

区分	施策	意見・提言内容
分野別政策 子育て	【子育て】 婚活の応援	・婚活の応援について、行政で支援を拡充していくことで、個人によっては結婚や出産を重圧とを感じる場合もあるので、十分に配慮しながら取り組みを進めてほしい。 ・弘前の若者の働き方に関する統計データ（正規・非正規雇用や所得など）を分析したうえで、政策を打ち出すべき。
	【子育て】 多様な母子保健サービス	5歳児発達健康診査の実施については評価できる。 出産・育児に課題を抱える母親や子供の健全な発達に関しての施策は息の長い取り組みになるが、しっかりと目を向けて取り組んでほしい。
	【子育て】 保育サービス・幼児教育の充実	保育施設では面積に余裕があれば児童を受け入れられるので、市が入所条件を見直すことで保護者の支援につながると考える。
	【子育て】 経済的支援の充実	・子育て世代からの具体的なニーズや現状に関する分析が見えてこない。 - 効果のある支援を行い、結婚・育児に対する負担感のイメージが少なくなれば、結婚する意欲の向上にもつながる。 - もっと具体的に細かい部分からの意見・要望なども吸い上げ、現状をしっかりと把握した上で、経済支援策に総合的に取り組む必要がある。 ・子育てなどの社会的に必要なものについては、まず、基本的なニーズを充足させるということが重要。財源ありきで考えるのではなく、基本的ニーズの充足を先に考えるべきである。
	【子育て】 様々な環境にある子どもや子育て家庭への支援の充実	・この施策は、子育て世帯の保護者を主眼に置いた施策であると理解しているが、保護者だけでなく、子どもが安心できる場所や学習機会の提供など、民間とも連携した子どもに対する支援が必要と考える。 ・現状分析がなければ政策は立てられないはずであるので、他の分野においても同様であるが、政策を立案する場合には弘前の統計値、特に悪い統計値の分析が必要である。 ・給食費の無償化について、財源の問題はあるがどこまでの範囲あれば出来るのかといったことを検討してほしい。

区分	施策	意見・提言内容
分野別政策 こども・子育て	【Ⅱ子どもの学び】 豊かな心を育成する教育活動の充実	子供の問題は子供のうちに解決しなければ、子どもが親になった時にその子供にまで問題がつながることもある。 課題が小さい子供のうちに、学校・地域・親などで解決してあげる必要がある。
	【Ⅱ子どもの学び】 健やかな体を育成する教育活動の充実	学校教育だけの問題ではなく、親に対する健康教育として健康づくり推進課との連携、家庭での教育、さらには保護者・先生・PTAなどによる地域の学びや情報交換などの活動をどのように活発にするかなど、広く連携して取り組む必要がある。
	【Ⅱ子どもの学び】 よくわかる授業づくりの推進	教員の多忙による負担感の軽減をしっかりと考慮し、教育委員会内で連携して取り組んでほしい。
	【Ⅱ子どもの学び】 時代に対応する教育の推進	・英語教育に関して、会話重視で政策が進められているが、会話だけでなく基礎的な「読み・書き」も重要であることを認識し取り組む必要がある。 ・英語だけでなく、他の教科でも ALT を派遣するなど、様々な場面での ALT を活用することを期待したい。 ・将来的に、外国人児童生徒や帰国子女に対する日本語指導の拠点となるような場所が必要になってくるのではないかと考えられるので、早い段階から検討する必要がある。 ・選挙権が 18 歳以上に引き下げられたところであるが、主権者教育に関する取り組みが全く見られないので、経営計画の改訂の際には新たに盛り込むことが必要である。
	【Ⅱ子どもの学び】 生きる力を育む地域活動の支援	・郷土、地域に対する取り組みについては、参加する子どもにとって魅力あるものを考えるべき。 ・子ども会の活動にしても、地区によって活動内容に大きな差がある現状であり、子ども会を支える大人の人材確保に対する取り組みも必要である。
	【Ⅱ子どもの学び】 共生社会に向けた教育基盤の確立	特別教育支援員の配置については拡充するなど、高い目標であるがインクルーシブ教育を実現してほしい。

区分	施策	意見・提言内容
分野別政策 ひらけ	【Ⅱ子どもの学び】 指導力を高め、自己目標を実現する教員の育成	教員の多忙による負担感の軽減をしっかりと考慮し、教育委員会内で連携して取り組んでほしい。
	【Ⅱ子どもの学び】 教育課題の解決を目指す研究活動の推進	
	【Ⅱ子どもの学び】 学習意欲を引き出す学びの環境の確保	
	【Ⅲ多様な学び】 社会教育施設等の整備と効果的な運営	社会教育施設については、ファシリティマネジメントなど経営的な施設管理の考え方だけではなく、社会教育施設という性格を十分考慮した運営が必要である。
	【Ⅲ多様な学び】 生涯学習社会を目指す多様な学習機会の創出と提供	事業を数多く実施したことが実績と見受けられ、どのように施策を展開するか見えない。指導者の養成など内実を考慮した取り組みの充実を図るべき。また、事業数も多いため整理統合するなどして中身を充実させることが必要であり、施策の目的に合った指標の設定も必要である。
	【Ⅲ多様な学び】 スポーツ・レクリエーション活動の推進	・現在のスポーツ少年団は親の負担が大きすぎるため、子どもたちの活動を助け合う環境づくりを構築するなど、スポーツ少年団への対策について再度見直す必要がある。 ・スポーツしやすい環境をつくり、スポーツ人口のすそ野を広げ、地域から一流選手を輩出するような方向に資源を投入すべき。 ・コーチなどスポーツに関わる「人」や、施設を使える「環境」を整えることに対する具体的な対策を打ち出した上での拡充とすべき。
	【Ⅲ 多様な学び】 文化・芸術活動の推進	弘前にはオペラやバレエなど高い評価を受けている芸術団体もあることから、縮小ではなく、スポーツ活動と合わせて拡充していくべき。

区分	施策	意見・提言内容
分野別政策 ひとづくり	ひとづくり全般	・「教育指導員」や「ICT 支援員」などの役職が増えているが、実態として、雇用面で非常に不安定であったり、権限なども曖昧であったりするので、単に配置するだけでなく、効果的に機能するような仕組みづくりも重要である。 ・子どもの学びだけでなく、大人も一緒に学べる環境づくりが必要。例えば、まんじ学についても、子どもだけでなく、大人にこそ必要だと思われる。 ・「Ⅲ多様な学び」にある文化活動を活発にするような関わりを同時に考えながら子どもの学びに係る取り組みを考えていくべき。

区分	施策	意見・提言内容
分野別政策 くらしづくり	【Ⅰ健康】 ヘルスリテラシー（健康教養）の醸成	ヘルスリテラシーが広まっているかの指標に自殺率は適切ではないのではないか。指標の再設定を検討すべき。
	【Ⅰ健康】 社会環境の整備	健康増進リーダーの設置など短命県返上に向けた施策を行っているが、自宅での取り組みや健康教養を発信したりする「弘前健康プロモーション」のようなものを実施しさらに取り組みを進めてほしい。
	【Ⅰ健康】 救急医療提供体制の維持、市立病院の健全な運営	県の医療審議会で提言されている地域医療構想の中で市立病院のあり方が明確に打ち出されていない。また、病床数の削減が示されているが、このようなことも経営計画にも盛り込んでいかなければならないのではないか。
	【Ⅱ福祉】 地域ケアの推進	・ケアマネージャーの適正配置や介護事業のサービス適正化など、もう一步踏み込んだ対応が必要である。 ・平成 29 年度から介護保険の指定登録を市が行うことになるので、介護事業者のサービス適正化などの対応は必要である。 ・近年様々な事業を抱えた高齢者世帯が増えてきており、その場合には息の長い支援が必要となり、それを担う地域包括支援センターに係る予算を拡充し、人材確保に努めてほしい。
	【Ⅱ福祉】 障がい者の日常生活支援	関連する当事者の声を集めて、そのうえで出来る範囲での対策、支援策を打ち出すよう二次評価に盛り込んで欲しい。
	【Ⅱ福祉】 障がい者の地域生活移行支援	
	【Ⅱ福祉】 生活保護世帯の自立・就労支援	・就労支援に関する取り組みは様々あるが、それぞれの違いを明確にしないと利用者が混乱することになる。 ・地域における就労困難者の実態調査などは行っているのか。実態に即したアウトリーチが必要になると思う。 ・取り組む前に、関係者等の意向をしっかりと確認してから取り組んで欲しい。
	【Ⅱ福祉】 生活困窮者及び就労困難者等の自立・就労支援	
	【Ⅲ安全・安心】 地域防災力の強化	自主防災組織の組織率の向上と体制の強化を同時に行っていないと地域防災力は強化されていかない。また、防災力の強化は町会活動ともつながっていくので、町会活動の支援と連携して取り組みを進めていけば、両方が活性化しより効果的な取り組みになるのではないか。

No.	施策	意見・提言内容
分野別政策 まちづくり	【Ⅰ雪対策】 市民相互による細やかな 除雪への支援	町会等除雪報償金を活用するにあたり事務手続きが煩雑であるため、協力町会を増やすためにも事務手続きの簡素化を検討してほしい。
	【Ⅱ都市環境】 公園・緑地等の整備	弘前城本丸石垣整備事業などの事業が位置付けられている中で、施策の成果指標が1人あたりの公園面積としているが、人口が減れば上昇する数値でもあり、また成果指標としての整合性を保つうえでも、指標にコメントを付すなど整理する必要がある。
	【Ⅲ生活基盤】 道路網の整備	中心市街地の活性化のためにも、道路ネットワークの到着地点として中心市街地への駐車場整備が必要である。駐車場整備が本施策に合致しないとしても、関係する施策で検討してほしい。
	【Ⅲ生活基盤】 交通安全設備の整備	通学路合同点検などを実施し、関係者から整備の必要箇所を吸い上げているが、点検の結果、どのように対応するのかを関係者に対してしっかりとフィードバックする必要がある。
	【Ⅳエネルギー・環境】 省エネルギーの推進	省エネの取組として、節約するだけでは発展性のある施策にはならない。節電により建物の中も暗く、雰囲気も悪くなる。自然エネルギーの効果をPRし、省エネシステムの活用による地球温暖化対策に取り組んでほしい。
	【Ⅳエネルギー・環境】 境保全活動の推進	- 子どもも対象に自然学習を実施している一方で、教育現場では子どもたちには河川などへ近づかないよう注意しているため、矛盾が生じないように整理して子どもたちと接する必要がある。 - 河川清掃美化運動を実施している中で、草が生い茂るなど維持管理が不十分な河川への対応もしっかりと行う必要がある。

No.	施策	意見・提言内容
分野別政策 なりわいつくり	【Ⅰ 農林業振興】 りんご以外の主要農産物の生産力の強化	「野菜・花き産地育成事業」の予算が縮小しているが、その分この事業に変わる競争力の高い農産物や特産品の生産拡大に向けた取り組みを着実に進めてほしい。
	【Ⅰ 農林業振興】 新たな担い手の育成・確保	・「青年就農給付金事業」について、「青年」は男性を連想させる言葉であり、これからは女性の就農者も重要であることから、「青年」という単語を取り、「就農給付金事業」とし、女性も含めて就農者を増やすという観点から資源配分を拡充とすべき。 ・資源配分が維持ということであるが、成果が出るまでに時間がかかる施策と思われるので、今の段階から力を入れていくべき施策である。 ・今後 10 年間で高齢化に伴いかなりの離農者が出ていくことが見込まれる。農地の集約化など行われてはいるが、それでも離農者の数には追い付かないと思われるので、資源配分が維持ではなく拡充の方向で考えるべき。 ・農業は県外から収益を得られる産業であり、離農者が増えることで市全体の収益が減り人口減少につながるとも考えられるので、農業の担い手を育成するというのは非常に重要なことである。
	【Ⅰ 農林業振興】 競争力向上のための農産物及び加工品の高付加価値化	・新たな担い手の確保と 6 次産業化に関しては、農業の担い手が減少している中では共倒れになる可能性があるので、両方の課題に対して有効に働く施策、取り組みを検討することが必要。 ・弘前にとって農業は非常に優位性のある分野であり、今後より高い収益を上げるための農産物の高付加価値化を戦略的に進める体制づくり、あるいはそれに対する支援を強く進めていく必要があり、資源配分についても拡充で考えるべき。 ・6 次産業化については、よく販売やブランド化に係る部分が議論になりがちだが、人口減少対策の観点からも労働集約型の 2 次産業にあたる加工業が重要と思われるので、2 次産業についての検証や取り組みがあるべき。
	【Ⅰ 農林業振興】 りんご産業イノベーションの推進	資源配分を拡充としているが、成果を得るため実効性のある取り組みを進めていくべき。
	【Ⅰ 農林業振興】 農地等の生産基盤の有効活用	農地活用支援隊について、農家でない人が農家に触れるよい機会であり、外部の人が新たに加わることにより取り組みに対する波及効果も期待できると思うので、外部人材が加わる部分での内容の充実を検討してみてはどうか。また、この制度が、仮に農家が収入を得る手段の一つとなってしまう場合、十分な効果が得られないと感じる。

No.	施策	意見・提言内容
分野別政策 なりわいつくり	【Ⅱ観光振興】 弘前らしい魅力ある観光 コンテンツの企画推進	・近年、四大まつり以外のイベントが非常に増えているが、的がしぼれていないため、イベントの精査や絞込みが必要。 ・市職員が四大まつりや歴史について説明できなければ市民や観光客にも説明できないので、マイナーな話題も含め市職員はまつりや歴史について勉強すべき。 ・地元経済の活性化という観点から観光についても、戦略性を持って進めるべき。さらには、関係機関との連携も含めわかりやすい戦略が必要。
	【Ⅱ観光振興】 観光ホスピタリティの向上	観光ボランティアの育成も重要であるが、市全体での観光ホスピタリティの向上が必要になるので、ホスピタリティ向上のための取り組みを増やしていく必要がある。
	【Ⅲ商工業振興】 重点３分野の強化	・県外から売り上げなどを獲得できる分野での雇用が一人増えると、人口が9.5人増えるという研究があることから、県外への販路拡大などを強く後押ししてほしい。 ・企業への支援を継続する場合に、雇用の増加を条件にすることも検討してはどうか。さらに、雇用が増加した企業に対しても必要に応じた支援を検討してほしい。 ・産業に従事する人材の育成が重要である。例えば、アパレル産業であればファッション甲子園などは定着してきているので、それ以外の分野においても人材育成も含めて政策を考えることも必要。 ・働く場所となる、細かな軽工業も含めた地域外から収益を上げられる産業の育成が最も重要。
	【Ⅲ商工業振興】 重点関連産業等の企業誘致	立地済みの企業に対する新增設ニーズに応えていくことが非常に効果的であり、その結果さらなる産業の集積につながる。
	【Ⅲ商工業振興】 魅力ある商業地域の形成	・中心商店街活性化のためにも、単純に新規出店に補助するだけでなく顧客を県外と地元の両方に持つ業種を増やす観点から、出店した店舗の業態に踏み込んで、例えば、県外取引が一定以上あるなどの場合に、優遇措置を設けるなどの取り組みを検討するなど拡充とすべき。 ・伝統工芸品に関しては、近年、若い世代で活躍している人たちもいることから、市としての支援策をさらにアピールすることで、支援の活用も促され、雇用増加につながる。

No.	施策	意見・提言内容
分野別政策 なりわいづくり	【Ⅲ商工業振興】 販売力の強化	・「弘前」ブランドとは、具体的に何なのかという整理がなければ、新しいものが出てこない。 ・地域外での販路拡大に対する取り組みについては資源配分を拡充すべき。 ・販売に関して、パッケージはコストでなく、商品開発の一部であり、ブランドを表すもので重要である。「弘前」ブランドというのであれば、ある程度統一されたものがあってもよい。また、実際の販売を見据え、作り手と売り手が良い形で連携できる取り組みが必要。 ・現在、工芸品の販売については旧紺屋町消防屯所でクラフト村として運営しているが、立地が不便であり、立ち寄りやすい人の流れの多い場所に展示販売拠点を整備する必要がある。
	【Ⅲ商工業振興】 創業・起業への支援	・起業へ向けた取り組みとして、近年ビジネスプランコンテストなどがよく行われているが、ビジネスプランコンテストから直接、起業へはつながりにくいので、例えば起業するためのステップとして、過程を体験できる場や起業をシュミレーションできる場などを企画したほうが、起業にむけた意識の醸成に効果的である。 ・起業に向けた様々な取り組みの情報を若い世代へ提供する、あるいは、起業した人たちとの懇談会の場合若者が参加できるようにする環境づくりなどに取り組んでいく必要がある。
	【Ⅲ商工業振興】 若年者や女性の就職支援	・職業訓練を実施する場所について、例えば大学で実施することができれば近隣の若い世代も参加する可能性もあり、新しい形での職業訓練が出来る。 ・人材育成について、どのような人材のニーズが企業側からあるのかを的確に把握したうえで人材育成すべきであり、教育段階から企業誘致を一体的、戦略的に進めていく必要がある。
	【Ⅲ商工業振興】 出稼労働者の安定就労	・家族を弘前に残したまま、県外へ単身赴任者する場合は、人口の流出を防ぎ、かつ県外から外貨を獲得するという意味で人口減少対策の観点からは非常に有効な取り組みになると思われるので、県外へ単身赴任する際の支援策について積極的に検討してみてはどうか。 ・今後、高齢化に伴い、首都圏での介護従事者の不足が見込まれることから、地方からの介護従事者の流出といった事態が予想されるが、これに対しても、単身赴任を支援することによって、人口減少を一定程度食い止めることができる。 ・東京に直接アクセスできる夜行バスを企業と連携して、うまく活用できれば、観光面においても弘前への人の流れがこれまで以上に活発になる。

No.	施策	意見・提言内容
戦略推進システム	【ビッグデータ・オープンデータを活用した地域経営】 新たな地域経営の推進体制づくり	・市民の声、弘前ならではの特性・データなどしっかりと現状分析に基づいた施策が必要である。弘前の実態を捉えるような調査も組み込んでほしい。 ・各分野（現場）でやるべき施策と総合計画の位置付けた施策とで矛盾が生じていると思う。次期総合計画では下位にある計画や各審議会で審議されている具体的な内容の情報も得た上で評価すべき。
	【Ⅰ オール弘前体制の構築（市民の力と知恵の結集）】 市民主体の地域づくりの推進	「市民参加型まちづくりシステム１％事業」について、補助金という性格上、補助対象経費など制限されるが、市民が活用しやすくなるよう柔軟に対応してほしい。また、採択事業には本来市が実施すべきと思われるものもあるので、担当課へその分の予算を配分するなど、資源配分方針も拡充して検討してほしい。
	【Ⅱ 強い行政の構築】 組織体制の適正化等	・指標を組織の「見直し実施」としているが、大きな組織で毎年見直しを行うのは当然なので適切な指標ではないと思うが、人口当たりの職員数を計画等に記載するなどし、指標を補うことも必要と考える。 ・非正規雇用の労働環境が問題視されている中、労働契約法の改正により、契約期間が５年を超える労働者は無期転換となったが、公務員は適用外ではあるものの、市雇用の非常勤職員についても雇用安定や適正管理のため実施を検討してはどうか。また、取り組むにあたり予算が伴うなら拡充としても良いと考える。

区分	施策	意見・提言内容
弘前市まち・ひと・しごと創生総合戦略	移住対策	・県外大学生など若者のUIターン対策は当市の人口減少対策上、最重要課題と考えられるが、現行の経営計画には対策が明確に位置づけられていない。県内に戻りたくても、就職情報の発信が少ないなど、戻るシステムがないことが課題でもあるため、経営計画に明確に記載し取り組む必要がある。 ・教育現場でも進路指導として市内へ就職することの意義を示すなど市の取組みだけではなくトータルで考えていく必要がある。

3 平成 27 年度の弘前市総合計画審議会からの意見・提言

※各年度の審議会において意見に対する対応状況を説明し承認していただいた意見の欄のみ黄色

区分	施策	意見・提言内容
分野別政策 ひとづくり	【Ⅰ 子育て】 保育サービスの拡充	子どもの保育環境について、国では５年以内に幼稚園、保育所を認定こども園へ移行させようとしており、徐々に移行する施設が増えていく見込みとなっている。現在、給付費や幼保小連携に関する部署が子育て支援課と教育委員会に分かれているため、将来的には一本化させ、新しい部署を作ることも必要である。
		児童館、なかよし会等の必要性は高い。少子化が進行しているが、夫婦共働き家庭は増加しており、利用者は増えている状況であるため、その充実を今後も図っていく必要がある。夜間も含め市がこれまで対応してきたことについては、保護者からも評価されているので、施設の人員配置も含めて、今後もその体制を維持する必要がある。
	【Ⅱ 子どもの学び】 豊かな情操と夢を育む事業の展開	ブックスタート事業については、引き換え率が低いことが課題なのではなく、その理念に従い、母子保健、子育て支援と連携し、親教育を含めて実施していくことが課題であり、関係する部課等との連携を意識して取り組んでいく必要がある。
	【Ⅲ 多様な学び】 社会教育施設等の整備と効果的な運営	社会教育施設等への指定管理者制度導入について、経費削減を目的として制度を導入する動きは強いが、この制度はそもそも「機能を高めるために有効と思われる場合」に導入するというものであり、県内であっても制度を運用しながら予算を確保するなど、直営で機能を充実することで地域住民の自治能力を高めようとする自治体もある。
		社会教育施設等への指定管理者制度の導入を考えると、社会教育と生涯学習を一体のものとしてしまうと間違った考え方になってしまう。多様な学びには、社会教育の分野と、生涯学習の分野とあり、それぞれ目的は違う。行政として、それをどう考えてこれからの多様な学びの環境をどうしていくのか考えていただきたい。

分野別政策 ひとづくり	【Ⅲ 多様な学び】 文化・芸術活動の推進	資源配分方針は、「縮小」となっているが、先人たちが築いてきた当市の芸術・文化をさらに高めていくことは必要である。特定の事業を適正な規模とする趣旨で「縮小」とはいえ、文化・芸術活動のレベルは維持するという考え方で取り組みを進めて欲しい。
	【Ⅲ 多様な学び】 スポーツ・レクリエーション活動の推進	スポーツ少年団の活動に参加したくても参加できない子どもが、現状で相当数いる。夫婦共働き家庭が増加しており、子どものためにスポーツ少年団に入れてやりたくても、親に係る負担が大きく入れてやれない場合が多くなっているため、今後は、親への支援も必要である。 スポーツ少年団に関して、地域によっては野球チームも作れなくなっているところもある。今後も人口減少とともに少子化が進むことが想定される中なので、子どものために資源を振り向けて取り組んでいって欲しい。
	ひとづくり全般	例えば、婚活であれば出会いの場だけを用意しても仕事で参加できない場合もあり、その場合は、働き方の問題にも対応する必要もある。人づくりの分野全般に言えることだが、施策間の横のつながりも考えて取り組みを進める必要がある。

区分	施策	意見・提言内容
分野別政策 くらしづくり	【Ⅰ 健康】 ヘルスリテラシー（健康教養）の醸成	市町村合併後10年になるが、現在もまだ岩木地区のみ相馬地区のみという事業がある。10年の区切りがいい見直しのチャンスと思う。この機運を全市に広めて欲しい。
		健康増進に関しては、やっとスタートラインに立ったという感じで、今後より一層推進していかなければならない。
	【Ⅱ 福祉】 高齢者の社会参加・生きがいの推進	まちなか花いっぱい事業に関しては、老人クラブだけの活動として行っていくには非常に困難で、高齢者の生きがいに繋がっていない。例えば、近隣の町会や商店街と協力して行くなど、地域全体での活動としていくべきである。
		まちなか花いっぱい事業に関して、市民参加型まちづくり1%システムでも、似たような花を題材とした事業もあり、同じような予算が重複しているので整理が必要である。
		まちなか花いっぱい事業に関して、高齢者の主体性が大切であり、高齢者側からのこれをやりたいというものに対して支援すべきであって花にこだわる必要はない。

分野別政策 くらしづくり		まちなか花いっぱい事業を高齢者の社会参加・生きがいに寄与させる具体像が見えない。（事中評価では、緑化を通じた景観づくりのように受け止められる。）事業目的・内容から考えても、生涯学習などとの連携も必要である。
	【Ⅱ 福祉】 地域ケアの推進	認知症サポーターの数が指標となっているが、施策の内容としては認知症サポーターだけが重要なわけではないので指標の見直しが必要である。
	【Ⅱ 福祉】 障がい者の日常生活支援	障がい児の支援に関しては教育委員会との関わりも不可欠なので、教育委員会とも連携して推進して欲しい。
	【Ⅱ 福祉】 生活保護世帯の自立・就労支援	生活困窮者の働き方を、分業やワークシェアリングなどで工夫していく必要がある。商工会議所や、社会福祉協議会などとも連携して、働ける人を支援していく仕組みが必要である。
	【Ⅲ 安全・安心】 地域防災力の強化	自主防災組織を新しく組織することに対しては支援を行ってきたと思うが、今後は、組織した後の支援も推進していく必要がある。
		自主防災組織にしる、それ以外の町会活動にしる、市民の側の自主性が重要である。

区分	施策	意見・提言内容
分野別政策 まちづくり	【Ⅰ 雪対策】 雪対策全般	町会に小型の除雪機を貸与しているが、操作に不慣れな方もいるので、オペレーターの養成も課題である。また、空き地の活用など、掘り下げた議論も必要である。
		雪問題の中で、市民の一番の不満は間口の寄せ雪なので、間口除雪の対応をしっかりと行う必要がある。
		雪対策に関して、市民の行政に対する依存度が高いのも課題であり、地域でやれることは地域でやるべきという意識の醸成も大切である。
		融雪については、それに適した地区もあれば適さない地区もある。雪問題は地区ごとに考えなければ解決にならない。
	【Ⅱ 都市環境】 弘前公園周辺等の魅力向上	文化財の保存と整備という政策の方向性とも合わせて考えていくべきである。
		仲町の伝統的建造物群保存地区は保存が目的なのか、それとも観光が目的なのか、整理して進めるべきである。
		文化財に対するアピールを市内外に対してもっとすべきである。市民が生まれ育った地域の文化財を知らなければ利活用も望むことができない。
	【Ⅳ エネルギー・環境】 ごみ減量化・資源化の強化	ごみ問題は市民と行政との信頼関係によるところも大きい。ごみの分別方法について、しばしば変わる印象がある。一貫性がないと、市民も混乱し、結果的にごみが減らないということにもなるので、そういう部分での改善も必要ではないか。

区分	施策	意見・提言内容
分野別政策 なりわいづくり	【Ⅰ 農林業振興】 りんご以外の主要農産物の生産力の強化	戦略性をもって進めていく必要がある。農作物を作ることだけでなく、将来的に就農の可能性が高い人材をもつ農業高校や大学と連携するなど、就農者を増やす政策と連携することで効果が高まる。
	【Ⅰ 農林業振興】 国内における農産物の消費拡大及び販路開拓	指標が店舗数となっている点が、これで良いのかどうか疑問がある。また、りんごの取扱店数と売上の関係が不明であり、ここも考える必要がある。米に関しては、地元米の贈呈が米の消費量につながるとは思えず、必要性について検討する必要がある。
	【Ⅰ 農林業振興】 農家等の収益体質の向上及び経営安定化に向けた支援	米について、弘前地域は県の中でも特に良質なコメができる地域。しかし、りんごへの力の配分が強く、米農家に対する支援が遅れている。弘前市として米に対するPRを推進していった、米農家の所得向上に向けて取り組む必要がある。
		大規模農家への支援が主になっていると思うが、兼業農家も多い。実際に小規模農家に対する支援が少ないのが現状なので、小規模農家が意欲的に農業に取り組むためにも支援する必要がある。
	【Ⅰ 農林業振興】 農林業振興全般	農業を基幹産業とする都市として、経営計画だけでは農林業の振興に資する具体的な施策が薄い。林業も含めた個別の農林業振興計画を策定し、その中で具体的な生産性向上の施策を定め取り組んでいく必要がある。
	【Ⅱ 観光振興】 弘前らしい魅力ある観光コンテンツの企画推進	弘前は多彩な観光資源を持つ。従来はその多彩さから1点に絞れず、パンチに欠ける感があったが、観光形態が多様化している今日ではセールスポイントになる。全国的な万人受けするコンテンツではなく、街の特徴、ポテンシャルをもう一度検証し、「あるもの活かし」の観点でコンテンツの掘り起こしによるブランディングが必要である。
		CSV事業については本施策との関連性も弱く、1年程度継続して効果があるかどうか不明だと考える。別の方向性を考えても良いのではないかと。感交劇場については、定着していないというよりも、そろそろ新しいステージ「感交劇場 2.0」のような展開も必要ではないか。
		弘前感交劇場の取り組みは、他の地域からもうらやましがられる取り組みである。その考え方が、市民に浸透・定着していないというのであれば、そのあり方を官民一体となって考えていく必要がある。

区分	施策	意見・提言内容
分野別政策 なりわいつくり	【Ⅱ 観光振興】 観光情報の効果的な発信	近年、旅行形態は団体旅行から個人旅行へシフトしているが、当地においてはエスコート型の団体旅行者もまだまだ多く、それぞれのニーズに合わせた情報発信が必要である。市の情報発信は遅くマッチングしていない側面もあるが、個人客に対しては、SNS で感度の高い旅行者の情報が効果的であるので、影響力の強いネットユーザー(インフルエンサー)等を招聘し、弘前の魅力を拡散するなどの施策が有効である。
		北海道新幹線が来年3月に開業することを考えるともう少し積極的に事業展開を行うべきである。
	【Ⅱ 観光振興】 滞在型・通年観光の推進	「白神山地」や「田んぼアート」など、中南地域の観光コンテンツが充実し集客力が向上している。弘前を宿泊拠点とした観光プランで滞在型の観光客を増やし、それぞれの地域の弱点(閑散期)を補い合う協力体制を構築する必要がある。
		観光面において、弘前市の最大の弱点は通過型観光であるということ。既存の公共施設(ロマンピアなど)を活用するなどして、宿泊客数を増加させる取組みも検討してはどうか。
	【Ⅱ 観光振興】 観光ホスピタリティの向上	観光(ボランティア)ガイド組織が誕生し、それぞれが役割分担しながら観光客を案内しており、他地区と比較しても観光案内人が多い。ガイドを生業としていない NPO 法人、企業等であっても、それぞれの分野の専門性(りんご産業、物産、樹木等)により、観光ホスピタリティの向上の一翼を担うことが出来る団体も多いことから、これらの団体の活用も市全体のホスピタリティ向上につながると思われる。
		また、外国人観光客が増加しているため、通訳ボランティアはもちろん、外国人観光客に対しても怯まず向き合える人材の育成が必要であると考ええる。
		ガイドを育てるだけでなく、観光客を受け入れるお店のサービスの質の向上、生産性の向上、支払カードを使えるようにするなど観光地なら当たり前のような利便性の向上も必要である。ガイドも人だけでなく携帯・タブレット端末などを使って機械式ガイドも検討してみてもどうか。

区分	施策	意見・提言内容
分野別政策 なりわいづくり	【Ⅱ 観光振興】 観光施設等の整備・維持管理	整備に係る財源確保のための取り組みを積極的に行う必要がある。また、施設の補修等、維持管理に要する経費の確保だけは確実に言い、イメージ低下に努めることも必要である。
		りんご公園は、外国人観光客の誘客に力を入れており、りんごもぎ体験などのプログラムがセールスの主軸となっているため、りんご公園の具体的な整備計画スケジュールも明確にしてほしい。また、弘前市立観光館も建設から20年が経過しており、施設、展示物の経年劣化が激しく、出来る範囲でマイナーチェンジを施す必要がある。
	【Ⅱ 観光振興】 広域圏の観光施策の充実と観光情報発信の強化	津軽広域観光圏協議会は、津軽一帯を網羅しているがエリアの範囲が広すぎ現実的に連携がとれていないのではないかと。生活圏、青森県との連携も考慮するならば、県民局に準じた単位(中南、西北等)での広域連携が自然であると考えます。
		広域的な取り組みとしているものの、白神に対象が限られているのは疑問がある。もう少し広域の意味を考え、津軽広域連合と連携しながら魅力的な観光推進策に取り組むことも必要である。
	【Ⅱ 観光振興】 国外への情報発信及び受け入れ環境の整備促進	外国人宿泊者数の数値が上昇している中で、今後も外国人旅行者の誘致を確実に進めるためには、計画事業の体系的な組み立てが必要である。情報発信と外国語表示が主となっているようであるが、外国人旅行者をどのように回遊させるかの手段に関する事業計画が弱いように受け取れる。オール弘前体制でインバウンドに取り組むのであれば、体系的な施策の提示を行うべきである。
		外国人観光客の誘客については、ターゲットとなる地域、誘客形態(団体、FIT)、受入体制の整備を戦略的に進める必要がある。
		外国人観光客それぞれの国民性に合わせたセールス、受入体制の整備と、積極的な受入を促す啓蒙、バックアップ体制も必要であり、他県の状況に惑わされない弘前の事業を踏まえた弘前らしい整備を戦略的に行うべきである。
		インバウンドの場合、もう少し対象を絞り込んだ対策を考える必要がある。東南アジアと言っても国によってニーズが異なり、旅行商品の組み立て方も異なります。弘前市としてはどの国にターゲットを絞るのか。また、中国、台湾、韓国などは各地が狙っているところでもあるので、競争が激しくない国をターゲットとすることも必要ではないか。

分野別政策 なりわいづくり	【Ⅱ 観光振興】 広域圏の観光施策の充実と観光情報発信の強化	サインナビゲーションやパンフレットの外国語表記も重要だと思うが、人と人とのコミュニケーションになるので通訳の整備体制も早急に取り組んでいくべき。 国内の人気観光地として函館がトップに立っているが、函館の観光資源の何が人気なのか明確に分析できていない。函館、弘前の強み・弱み、さらには現在の観光におけるトレンドを的確に把握し、良好な関係にある関係団体とも連携して、計画・立案に努めてほしい。
	【Ⅱ 観光振興】 国外への情報発信及び受入環境の整備促進	禅林街の空間は外国人にとって、非常に魅力的である。禅林街からりんご公園まで観光客を誘導するような具体的な取り組みを行って欲しい。 街歩きをする観光客が少しずつ増えているので、飲食店などに対しても街歩きに対する案内や表示方法を広めていく施策が必要。街全体で街歩きや外国人に対する意識を向上させる施策を進めていくべき。
	【Ⅲ 商工業振興】 重点３分野の強化	中長期的な視点が必要であり、重点３分野の強化のための人材育成を図っていくというような施策間のつながりを持ったほうが良いのではないか。 ※「雇用・就労者への支援の充実」に対する意見を再掲

分野別政策 なりわいづくり	【Ⅲ 商工業振興】 雇用・就労者への支援の充実	女性の就労支援と一口に言っても就労を阻害する様々なケースがあると想定される。現状では、働きたいが働けていないという実態が多くあると思うので、就労阻害要因をしっかりと分析し、それに対応した支援が必要と考える。
		企業側と求職者側とのミスマッチが課題。それを解消するためには、それぞれのニーズに対する徹底したデータ分析が必要であり、行政には、データ分析とともに、そういった各種データの公開を進めていくべき。
		中長期的な視点が必要であり、重点３分野の強化のための人材育成を図っていくというような施策間のつながりを持ったほうが良いのではないか。
		それぞれのライフステージに合った働き方があるので、働き方のニーズを把握し、それをもとに企業側へワークシェアリングなどの働き方に対する理解を高めていくことも重要。

区分	施策	意見・提言内容
戦略推進システム	【Ⅰ オール弘前体制の構築】 市民協働・官民連携の推進	エリア担当制度があるが、それ以外にも市職員がもっと町会活動等に積極的に参加していくべきである。そのことによって、地域からの意見の吸い上げも促進され、また職員力の向上にもつながる。
	【Ⅱ 強い行政の構築】 岩木地区・相馬地区の活性化の推進	市町村合併後 10 年になるが、現在もまだ岩木地区のみ相馬地区のみという事業がある。10 年の区切りがいい見直しのチャンスと思う。この機運を全市に広めて欲しい。 ※分野別政策くらしづくりの施策「ヘルスリテラシー（健康教養）の醸成」に対する意見を再掲
	【Ⅱ 強い行政の構築】 公共施設の適正管理	理論は理解できる。住民に対して、一つの方法を提示したら、平均値で考えられる人たちの意見を（地域の実情とファシリティマネジメントの考え方をあわせて議論できるように）聞きながら進める必要がある。

平成30年度 弘前市地域経営アンケート

集計結果報告書（速報）

平成30年6月

ひろさき未来戦略研究センター
情報分析・行革・連携担当

1. 調査目的

弘前市では、近年の急激な社会経済環境の変化に対応し、地域の持続的な成長・発展を実現するため、平成26年5月に弘前市経営計画を策定しました。

この目標の実現に向けて、関連する様々な取り組みの成果を把握し、今後の施策の企画立案・改善のため、政策評価をするための基礎資料を得るために本調査を行った

2. 調査項目

- | | |
|------------|--|
| (1) 属性 | (10) 生活基盤 |
| (2) 子育て | (11) 環境・エネルギー |
| (3) 子どもの学び | (12) 農林業振興 |
| (4) 多様な学び | (13) 観光振興 |
| (5) 健康 | (14) 商工業振興 |
| (6) 福祉 | (15) 確かな証拠（エビデンス）と
進取の気質・多様性による地域経営 |
| (7) 安全・安心 | (16) 市民力を活かしたまちづくりの推進 |
| (8) 雪対策 | (17) 強い行政の構築 |
| (9) 都市環境 | |

3. 調査設計

- | | |
|----------|----------------------------|
| (1) 調査地域 | 弘前市内全域 |
| (2) 調査対象 | 市内在住の16歳以上の男女（平成30年4月1日時点） |
| (3) 対象者数 | 2,540人 |
| (4) 抽出方法 | 住民基本台帳から無作為抽出 |
| (5) 調査時期 | 平成30年4月18日～5月14日 |

4. 回収結果

対象者数	回答者数	回収率	未回答者数
2,540	2,276	89.6%	264

5. 集計の見方

- (1) 集計対象件数は、2,540です。
- (2) 構成比は、集計対象件数を母数とした百分率（％）で示しています。
小数点第2位を四捨五入しているため、構成比の合計が100.0%にならない場合があります。

1 ひとづくり

(1) 子育て

上段: 回答数 下段: 回答比率		年度	1 そう思う	2 どちらかとい えばそう思う	3 どちらとも いえない	4 どちらかとい えばそう思わ ない	5 そう思わ ない	無回答	1+2 思う	3 どちらとも いえない	4+5 思わない
問1	子育てに係る負担が軽減されていると思いますか(単一回答)	H30	123	343	1,027	260	336	187	466	1,027	596
			5.4	15.1	45.1	11.4	14.8	8.2	20.5	45.1	26.2
		H29	91	340	944	254	305	168	431	944	559
			4.3	16.2	44.9	12.1	14.5	8.0	20.5	44.9	26.6
		H28	114	366	979	322	403	112	480	979	725
			5.0	15.9	42.6	14.0	17.6	4.9	20.9	42.6	31.6
		H27	125	305	793	238	333	168	430	793	571
			6.4	15.5	40.4	12.1	17.0	8.6	21.9	40.4	29.1

※問1で「1. そう思う」「2. どちらかとい えばそう思う」を回答した方のみ 上段: 回答数 下段: 回答比率		年度	保育料等 の軽減に 関する取 組みがな されている	医療費の 軽減に 関する取 組みがな されている	多子家族 世帯への 優遇に 関する取 組みがな されている	子育て支 援サービ スや施設 の数が充 実している	その他
問1-1	そう思った理由をお答えください(複数回答)	H30	157	262	118	126	28
			33.7	56.2	25.3	27.0	6.0

※問1-1に対する回答の構成比については、母数を問1で「1. そう思う」「2. どちらかといえばそう思う」と回答した件数(466)とします。

※問1で「4. どちらかとい えばそう思わ ない」「5. そう思わ ない」を回答した方 のみ 上段: 回答数 下段: 回答比率		年度	保育料等 の軽減に 関する取 組みが不 十分	医療費の 軽減に 関する取 組みが不 十分	多子家族 世帯への 優遇に 関する取 組みが不 十分	子育て支 援サービ スや施設 の数が不 十分	子育ての負 担軽減に 関する取 組みがな されてい るかわ からない	その他
問1-2	そう思った理由をお答えください(複数回答)	H30	211	242	127	175	260	54
			35.4	40.6	21.3	29.4	43.6	9.1

※問1-2に対する回答の構成比については、母数を問1で「4. どちらかといえばそう思わない」「5. そう思わない」と回答した件数(596)とします。

上段: 回答数 下段: 回答比率		年度	1 そう思う	2 どちらかとい えばそう思う	3 どちらとも いえない	4 どちらかとい えばそう思わ ない	5 そう思わ ない	無回答	1+2 思う	3 どちらとも いえない	4+5 思わない
問2	子育てしやすいまちだと思いますか(単一回答)	H30	204	661	945	142	142	182	865	945	284
			9.0	29.0	41.5	6.2	6.2	8.0	38.0	41.5	12.5
		H29	192	669	776	153	145	167	861	776	298
			9.1	31.8	36.9	7.3	6.9	7.9	41.0	36.9	14.2
		H28	208	680	861	214	232	101	888	861	446
			9.1	29.6	37.5	9.3	10.1	4.4	38.7	37.5	19.4
		H27	190	520	752	166	188	146	710	752	354
			9.7	26.5	38.3	8.5	9.6	7.4	36.2	38.3	18.0

上段: 回答数 下段: 回答比率		年度	1 そう思う	2 どちらかとい えばそう思う	3 どちらとも いえない	4 どちらかとい えばそう思わ ない	5 そう思わ ない	無回答	1+2 思う	3 どちらとも いえない	4+5 思わない
問3	幼児教育や保育サービスが整っていると思いますか(単一回答)	H30	167	600	972	188	157	192	767	972	345
			7.3	26.4	42.7	8.3	6.9	8.4	33.7	42.7	15.2

(2) 子どもの学び

上段: 回答数 下段: 回答比率		年度	1 そう思う	2 どちらかとい えばそう思う	3 どちらとも いえない	4 どちらかとい えばそう思わ ない	5 そう思わ ない	無回答	1+2 思う	3 どちらとも いえない	4+5 思わない
問4	弘前市の子どもにとって学習しやすい教育環境(教育に関する取り組みや学校施設など)だと思いますか(単一回答)	H30	214	668	921	156	126	191	882	921	282
			9.4	29.3	40.5	6.9	5.5	8.4	38.8	40.5	12.4
		H29	191	649	833	150	109	170	840	833	259
			9.1	30.9	39.6	7.1	5.2	8.1	40.0	39.6	12.3
		H28	230	715	898	173	178	102	945	898	351
			10.0	31.1	39.1	7.5	7.8	4.4	41.2	39.1	15.3
		H27	195	606	742	141	122	156	801	742	263
			9.9	30.9	37.8	7.2	6.2	8.0	40.8	37.8	13.4

上段: 回答数 下段: 回答比率		年度	参加した ことがある	参加した ことがない	無 回 答
問5	青少年の健全育成活動※に参加したことがありますか(単一回答)※子どものための体験活動やラジオ体操などの育成活動・地域行事をいいます	H30	573	1,559	144
			25.2	68.5	6.3
		H29	567	1,398	137
			27.0	66.5	6.5
		H28	622	1,596	78
			27.1	69.5	3.4
		H27	465	1,374	123
			23.7	70.0	6.3

上段: 回答数 下段: 回答比率		年度	している	していない	無 回 答
問6	学校や地域の子どもの活動に協力していますか(単一回答)	H30	602	1,529	145
			26.4	67.2	6.4

(3) 多様な学び

上段: 回答数 下段: 回答比率		年度	している	してい ない	無 回 答
問7	生涯学習活動(習い事や趣味、ボランティアなど)をしていますか(単一回答)	H30	523	1,652	101
			23.0	72.6	4.4
		H29	445	1,566	91
			21.2	74.5	4.3
		H28	547	1,700	49
			23.8	74.0	2.1
		H27	444	1,452	66
			22.6	74.0	3.4

上段: 回答数 下段: 回答比率		年度	よく参加 している	ときどき 参加してい る	あまり参 加してい ない	参加して いない	無回答	1+2 参加して いる	3+4 参加して いない
問8	町会や公民館、PTA・NPO・ボランティア団体などの地域活動や行事に参加していますか(単一回答)	H30	205	492	329	1,169	81	697	1,498
			9.0	21.6	14.5	51.4	3.6	30.6	65.8
		H29	161	465	283	1,120	73	626	1,403
			7.7	22.1	13.5	53.3	3.5	29.8	66.7
		H28	171	476	389	1,222	38	647	1,611
			7.4	20.7	16.9	53.2	1.7	28.2	70.2
		H27	177	438	357	935	55	615	1,292
			9.0	22.3	18.2	47.7	2.8	31.3	65.9

上段: 回答数 下段: 回答比率		年度	感じてい る	感じてい ない	無回答
問9	郷土弘前の歴史と文化遺産に親しみを感じていますか(単一回答)	H30	1,527	669	80
			67.1	29.4	3.5
		H29	1,353	662	87
			64.4	31.5	4.1
		H28	1,510	725	61
			65.8	31.6	2.7
		H27	1,304	586	72
			66.5	29.9	3.7

上段: 回答数 下段: 回答比率		年度	している	していない	無回答
問10	文化・芸術に係る活動への参加や文化・芸術公演等の鑑賞をしていますか(単一回答)	H30	601	1,601	74
			26.4	70.3	3.3
		H29	536	1,490	76
			25.5	70.9	3.6
		H28	220	2,027	49
問11	月1回以上軽スポーツ、競技スポーツ、レクリエーションをしていますか(単一回答)	H30	183	1,712	67
			9.3	87.3	3.4
		H29	495	1,717	64
			21.7	75.4	2.8
		H28	499	1,533	70
			23.7	72.9	3.3
		H27	555	1,697	44
			24.2	73.9	1.9
		H27	476	1,428	58
			24.3	72.8	3.0

上段: 回答数 下段: 回答比率		年度	参加したことがある	参加したことがない	無回答
問12	文化財の公開・活用イベントなどに参加したことがありますか(単一回答)	H30	437	1,772	67
			19.2	77.9	2.9

2 くらしづくり

(1) 健康

上段: 回答数 下段: 回答比率		年度	1 そう思う	2 どちらかといえばそう思う	3 どちらともいえない	4 どちらかといえばそう思わない	5 そう思わない	無回答	1+2 思う	3 どちらともいえない	4+5 思わない
問13	社会福祉・サービスが充実し、障がい者が安心して生活できるまちであると思いますか(単一回答)	H30	119	461	1,122	278	220	76	580	1,122	498
			5.2	20.3	49.3	12.2	9.7	3.3	25.5	49.3	21.9
		H29	112	460	984	241	209	96	572	984	450
			5.3	21.9	46.8	11.5	9.9	4.6	27.2	46.8	21.4
		H28	107	447	1,063	313	318	48	554	1,063	631
問14	自分の健康状態をどう思いますか(単一回答)	H30	4.7	19.5	46.3	13.6	13.9	2.1	24.1	46.3	27.5
			110	396	885	263	243	65	506	885	506
			5.6	20.2	45.1	13.4	12.4	3.3	25.8	45.1	25.8
		H27	96	407	946	286	170	57	503	946	456
			4.9	20.7	48.2	14.6	8.7	2.9	25.6	48.2	23.2

上段: 回答数 下段: 回答比率		年度	1 とても健康である	2 健康である	3 ふつう	4 病気がちである	5 病気でである	無回答	1+2 健康	3 ふつう	4+5 病気
問14	自分の健康状態をどう思いますか(単一回答)	H30	118	473	1,234	229	174	48	591	1,234	403
			5.2	20.8	54.2	10.1	7.6	2.1	26.0	54.2	17.7
		H29	116	480	1,077	228	162	39	596	1,077	390
			5.5	22.8	51.2	10.8	7.7	1.9	28.4	51.2	18.6
		H28	104	523	1,186	265	181	37	627	1,186	446
問15	習慣的※にたばこを吸っていますか(単一回答)※習慣的に吸っているとは、毎日吸う、または時々吸う日があることをいいます	H30	4.5	22.8	51.7	11.5	7.9	1.6	27.3	51.7	19.4
			96	407	946	286	170	57	503	946	456
			4.9	20.7	48.2	14.6	8.7	2.9	25.6	48.2	23.2
		H27	473	1,750	53						
			20.8	76.9	2.3						

上段: 回答数 下段: 回答比率		年度	吸っている	吸っていない	無回答
問15	習慣的※にたばこを吸っていますか(単一回答)※習慣的に吸っているとは、毎日吸う、または時々吸う日があることをいいます	H30	473	1,750	53
			20.8	76.9	2.3
		H29	459	1,593	50
			21.8	75.8	2.4
		H28	492	1,760	44
問16	月1回以上軽スポーツ、競技スポーツ、レクリエーションをしていますか(単一回答)	H30	21.4	76.7	1.9
			408	1,491	63
			20.8	76.0	3.2
		H27	473	1,750	53
			20.8	76.9	2.3

(2) 福祉

上段: 回答数 下段: 回答比率		年度	感じている	感じていない	無回答
問16	生きがいを感じていますか(単一回答)	H30	1,477 64.9	678 29.8	121 5.3
		H29	1,425 67.8	577 27.5	100 4.8
		H28	1,513 65.9	687 29.9	96 4.2
		H27	1,277 65.1	571 29.1	114 5.8

(3) 安全・安心

上段: 回答数 下段: 回答比率		年度	1 満足	2 どちらかといえば満足	3 どちらともいえない	4 どちらかといえば不満	5 不満	無回答	1+2 満足	3 どちらともいえない	4+5 不満
問17	休日や夜間などの緊急時に適切な救急医療が受けられることについて(単一回答)	H30	298 13.1	943 41.4	709 31.2	182 8.0	75 3.3	69 3.0	1,241 54.5	709 31.2	257 11.3
		H29	204 9.7	786 37.4	745 35.4	174 8.3	56 2.7	137 6.5	990 47.1	745 35.4	230 10.9
		H28	245 10.7	850 37.0	716 31.2	196 8.5	65 2.8	224 9.8	1,095 47.7	716 31.2	261 11.4
		H27	195 9.9	683 34.8	583 29.7	189 9.6	66 3.4	246 12.5	878 44.8	583 29.7	255 13.0
問18	災害等に対する取り組み(防災訓練、市民への防災啓発等)について(単一回答)	H30	115 5.1	512 22.5	1,295 56.9	203 8.9	66 2.9	85 3.7	627 27.5	1,295 56.9	269 11.8
		H29	63 3.0	455 21.6	1,225 58.3	205 9.8	77 3.7	77 3.7	518 24.6	1,225 58.3	282 13.4
		H28	85 3.7	407 17.7	1,391 60.6	256 11.1	92 4.0	65 2.8	492 21.4	1,391 60.6	348 15.2
		H27	71 3.6	381 19.4	1,151 58.7	189 9.6	74 3.8	96 4.9	452 23.0	1,151 58.7	263 13.4
問19	都市基盤の災害対策(浸水対策等)について(単一回答)	H30	106 4.7	446 19.6	1,344 59.1	232 10.2	62 2.7	86 3.8	552 24.3	1,344 59.1	294 12.9
		H29	56 2.7	429 20.4	1,236 58.8	223 10.6	77 3.7	81 3.9	485 23.1	1,236 58.8	300 14.3
		H28	77 3.4	410 17.9	1,374 59.8	261 11.4	103 4.5	71 3.1	487 21.2	1,374 59.8	364 15.9
		H27	70 3.6	352 17.9	1,110 56.6	222 11.3	90 4.6	118 6.0	422 21.5	1,110 56.6	312 15.9
問20	防犯や交通安全など、安全・安心な生活環境について(単一回答)	H30	125 5.5	671 29.5	1,147 50.4	193 8.5	59 2.6	81 3.6	796 35.0	1,147 50.4	252 11.1
		H29	75 3.6	581 27.6	1,081 51.4	213 10.1	79 3.8	73 3.5	656 31.2	1,081 51.4	292 13.9
		H28	103 4.5	565 24.6	1,188 51.7	269 11.7	103 4.5	68 3.0	668 29.1	1,188 51.7	372 16.2
		H27	87 4.4	485 24.7	995 50.7	210 10.7	77 3.9	108 5.5	572 29.2	995 50.7	287 14.6

3 まちづくり

(1) 雪対策

上段: 回答数 下段: 回答比率		年度	1 満足	2 どちらかといえば満足	3 どちらともいえない	4 どちらかといえば不満	5 不満	無回答	1+2 満足	3 どちらともいえない	4+5 不満
問21	冬期間において安心・快適な生活が送れていることについて(単一回答)	H30	88 3.9	507 22.3	640 28.1	636 27.9	354 15.6	51 2.2	595 26.1	640 28.1	990 43.5
		H29	38 1.8	345 16.4	589 28.0	656 31.2	412 19.6	62 2.9	383 18.2	589 28.0	1,068 50.8
		H28	63 2.7	394 17.2	643 28.0	771 33.6	381 16.6	44 1.9	457 19.9	643 28.0	1,152 50.2
		H27	60 3.1	270 13.8	497 25.3	610 31.1	461 23.5	64 3.3	330 16.8	497 25.3	1,071 54.6

上段: 回答数 下段: 回答比率		年度	感じている	感じていない	無回答
問22	雪対策について新しい取り組み(地下水や温泉水などを利用した道路融雪など)が行われていると感じていますか(単一回答)	H30	430 18.9	1,776 78.0	70 3.1
		H29	394 18.7	1,638 77.9	70 3.3
		H28	460 20.0	1,766 76.9	70 3.0
		H27	364 18.6	1,523 77.6	75 3.8

(2) 都市環境

上段: 回答数 下段: 回答比率		年度	住みよいと思う	住みにくいと思う	どちらともいえない	無回答
問23	弘前市は住みよいまちだと思いますか(単一回答)	H30	1,192 52.4	222 9.8	798 35.1	64 2.8
		H29	1,044 49.7	237 11.3	764 36.3	57 2.7
		H28	1,292 56.3	176 7.7	767 33.4	61 2.7
		H27	976 49.7	161 8.2	756 38.5	69 3.5

※問23で「1. 住みよいと思う」を回答した方のみ 上段: 回答数 下段: 回答比率		年度	子どもの教育環境が整っている	子育てに対する支援が充実している	医療施設が整っている	福祉施設、福祉サービスが充実している	芸術性・文化性が高い	文化・スポーツ施設が充実している	観光資源・特産物が豊富である	商業施設が多く、買い物に便利である	豊かな自然、みどりに恵まれている
問23-1	住みよいと思う理由をお答えください(3つまで)	H30	118 9.9	58 4.9	499 41.9	98 8.2	195 16.4	76 6.4	348 29.2	254 21.3	624 52.3
		年度	騒音・悪臭などの環境保全やごみの収集など生活環境が整っている	交通事故や犯罪が少ない	道路や上下水道、居住環境などの基盤整備が整っている	まちづくりやボランティア活動などの住民の自主的な活動が活発である	人情が厚く、近所づきあいがあ	特にな	その他		
		H30	189 15.9	240 20.1	114 9.6	18 1.5	181 15.2	29 2.4	30 2.5		

※問23-1に対する回答の構成比については、母数を問23で「1. 住みよいと思う」と回答した件数 (1,192)とします。

※問23で「2. 住みにくいと思う」を回答した方のみ 上段: 回答数 下段: 回答比率		年度	子どもの教育環境が不十分である	子育てに対する支援が不十分である	夜間、休日などの救急医療体制が不十分である	福祉施設、福祉サービスが充実していない	芸術性・文化性が低い	文化・スポーツ施設が充実していない	観光資源・特産物が十分生かされていない	商業施設が少なく、買い物に不便である	働く場が少ない
問23-2	住みにくいと思う理由をお答えください(3つまで)	H30	28 12.6	49 22.1	39 17.6	33 14.9	14 6.3	18 8.1	17 7.7	68 30.6	97 43.7
		年度	雪対策、除雪が不十分である	交通事故や犯罪が多い	道路や上下水道、居住環境などの基盤整備が不十分である	まちづくりやボランティア活動などの住民の自主的な活動が活発でない	人情が薄く、近所づきあいがあ	特にな	その他		
		H30	129 58.1	9 4.1	38 17.1	4 1.8	8 3.6	6 2.7	24 10.8		

※問23-2に対する回答の構成比については、母数を問23で「2. 住みにくいと思う」と回答した件数 (222)とします。

上段: 回答数 下段: 回答比率		年度	1 満足	2 どちらかといえば満足	3 どちらともいえない	4 どちらかといえば不満	5 不満	無回答	1+2 満足	3 どちらともいえない	4+5 不満
問24	弘前の景観の魅力について(単一回答)	H30	346 15.2	1,078 47.4	569 25.0	78 3.4	19 0.8	186 8.2	1,424 62.6	569 25.0	97 4.3
		H29	358 17.0	1,005 47.8	544 25.9	70 3.3	24 1.1	101 4.8	1,363 64.8	544 25.9	94 4.5
		H28	485 21.1	1,085 47.3	544 23.7	81 3.5	28 1.2	73 3.2	1,570 68.4	544 23.7	109 4.7
		H27	390 19.9	847 43.2	557 28.4	67 3.4	28 1.4	73 3.7	1,237 63.0	557 28.4	95 4.8

上段: 回答数 下段: 回答比率		年度	1	2	3	4	5	無回答	1+2	3	4+5
			重要だと思 う	どちらかとい えば重要だと思 う	どちらとも いえない	どちらかとい えば重要でな い	重要でな い		重要	どちらとも いえない	重要でな い
問25	弘前の景観保全の取り組みについて重要だと思いますか(単一回答)	H30	868 38.1	837 36.8	401 17.6	40 1.8	29 1.3	101 4.4	1,705 74.9	401 17.6	69 3.0

上段: 回答数 下段: 回答比率		年度	1	2	3	4	5	無回答	1+2	3	4+5
			そう思う	どちらかとい えばそう思う	どちらとも いえない	どちらかとい えばそう思わ ない	そう思わ ない		思う	どちらとも いえない	思わない
問26	市内の公園が適切に管理されていると感じますか(単一回答)	H30	603 26.5	872 38.3	518 22.8	126 5.5	72 3.2	85 3.7	1,475 64.8	518 22.8	198 8.7

(3) 生活基盤

上段: 回答数 下段: 回答比率		年度	1	2	3	4	5	無回答	1+2	3	4+5
			満足	どちらかとい えば満足	どちらとも いえない	どちらかとい えば不満	不満		満足	どちらとも いえない	不満
問27	道路整備について(単一回答)	H30	129 5.7	662 29.1	759 33.3	442 19.4	193 8.5	91 4.0	791 34.8	759 33.3	635 27.9
		H29	88 4.2	618 29.4	690 32.8	466 22.2	159 7.6	81 3.9	706 33.6	690 32.8	625 29.7
		H28	128 5.6	697 30.4	827 36.0	414 18.0	163 7.1	67 2.9	825 35.9	827 36.0	577 25.1
		H27	118 6.0	596 30.4	671 34.2	361 18.4	140 7.1	76 3.9	714 36.4	671 34.2	501 25.5
		H30	116 5.1	670 29.4	858 37.7	386 17.0	145 6.4	101 4.4	786 34.5	858 37.7	531 23.3
問28	道路の安全・安心について(単一回答)	H29	87 4.1	589 28.0	820 39.0	372 17.7	138 6.6	96 4.6	676 32.2	820 39.0	510 24.3
		H28	124 5.4	651 28.4	909 39.6	391 17.0	146 6.4	75 3.3	775 33.8	909 39.6	537 23.4
		H27	101 5.1	577 29.4	739 37.7	342 17.4	124 6.3	79 4.0	678 34.6	739 37.7	466 23.8
		H30	104 4.6	482 21.2	860 37.8	500 22.0	234 10.3	96 4.2	586 25.7	860 37.8	734 32.2
		H29	69 3.3	437 20.8	792 37.7	481 22.9	236 11.2	87 4.1	506 24.1	792 37.7	717 34.1
問29	通勤、通学、買い物などのための公共交通手段が整っていることについて(単一回答)	H28	137 6.0	580 25.3	825 35.9	455 19.8	217 9.5	82 3.6	717 31.2	825 35.9	672 29.3
		H27	112 5.7	509 25.9	701 35.7	388 19.8	166 8.5	86 4.4	621 31.7	701 35.7	554 28.2

上段: 回答数 下段: 回答比率		年度	1	2	3	4	5	無回答
			16回以上	11～15回	6～10回	1～5回	0回	
問30	あなたは、通勤・通学以外で市中心部※へ1ヶ月あたり何回程度外出していますか(単一回答)※市中心部とは、主に弘前駅前、土手町を指します	H30	181 8.0	83 3.6	295 13.0	1,226 53.9	396 17.4	95 4.2
		H29	214 10.2	135 6.4	439 20.9	1,080 51.4	160 7.6	74 3.5
		H28	250 10.9	147 6.4	438 19.1	1,170 51.0	200 8.7	91 4.0
		H27	—	—	—	—	—	—
		H30	—	—	—	—	—	—

上段: 回答数 下段: 回答比率		年度	1	2	3	4	5	6	無回答
			路線バス	電車	タクシー	自動車 (送迎含む)	自転車	徒歩	
問31	市の中心部へ外出する時の移動手段について(単一回答)	H30	179 7.9	22 1.0	66 2.9	1,644 72.2	162 7.1	78 3.4	125 5.5
		H29	187 8.9	19 0.9	52 2.5	1,541 73.3	141 6.7	82 3.9	80 3.8
		H28	187 8.1	19 0.8	70 3.0	1,646 71.7	194 8.4	105 4.6	75 3.3
		H27	—	—	—	—	—	—	—
		H30	—	—	—	—	—	—	—

上段: 回答数 下段: 回答比率		年度	1	2	3	4	5	無回答	1+2	3	4+5
			満足	どちらかといえは満足	どちらともいえない	どちらかといえは不満	不満		満足	どちらともいえない	不満
問32	安全な水道水をいつでも利用できることについて(単一回答)	H30	1,030	838	270	42	13	83	1,868	270	55
			45.3	36.8	11.9	1.8	0.6	3.6	82.1	11.9	2.4
		H29	903	796	280	35	20	68	1,699	280	55
			43.0	37.9	13.3	1.7	1.0	3.2	80.8	13.3	2.6
		H28	1,024	868	279	35	22	68	1,892	279	57
			44.6	37.8	12.2	1.5	1.0	3.0	82.4	12.2	2.5
		H27	627	842	328	63	29	73	1,469	328	92
			32.0	42.9	16.7	3.2	1.5	3.7	74.9	16.7	4.7
問33	下水道により衛生的で快適な生活が送れることについて(単一回答)	H30	962	830	339	32	17	96	1,792	339	49
			42.3	36.5	14.9	1.4	0.7	4.2	78.7	14.9	2.2
		H29	788	802	342	38	28	104	1,590	342	66
			37.5	38.2	16.3	1.8	1.3	4.9	75.6	16.3	3.1
		H28	945	858	352	34	32	75	1,803	352	66
			41.2	37.4	15.3	1.5	1.4	3.3	78.5	15.3	2.9
		H27	568	823	384	60	51	76	1,391	384	111
			29.0	41.9	19.6	3.1	2.6	3.9	70.9	19.6	5.7

(4) 環境・エネルギー

上段: 回答数 下段: 回答比率		年度	1	2	3	4	5	無回答	1+2	3	4+5
			満足	どちらかといえは満足	どちらともいえない	どちらかといえは不満	不満		満足	どちらともいえない	不満
問34	市が行っている街なかカラス対策について(単一回答)	H30	78	335	1,064	431	285	83	413	1,064	716
			3.4	14.7	46.7	18.9	12.5	3.6	18.1	46.7	31.5
		H29	74	317	953	407	279	72	391	953	686
			3.5	15.1	45.3	19.4	13.3	3.4	18.6	45.3	32.6
		H28	85	348	1,044	457	290	72	433	1,044	747
			3.7	15.2	45.5	19.9	12.6	3.1	18.9	45.5	32.5
		H27	55	265	891	399	262	90	320	891	661
			2.8	13.5	45.4	20.3	13.4	4.6	16.3	45.4	33.7
問35	公害、ごみ、害虫など、日常生活における生活環境について(単一回答)	H30	137	681	958	313	100	87	818	958	413
			6.0	29.9	42.1	13.8	4.4	3.8	35.9	42.1	18.1
		H29	135	685	864	260	93	65	820	864	353
			6.4	32.6	41.1	12.4	4.4	3.1	39.0	41.1	16.8
		H28	157	692	950	312	110	75	849	950	422
			6.8	30.1	41.4	13.6	4.8	3.3	37.0	41.4	18.4
		H27	109	575	808	241	131	98	684	808	372
			5.6	29.3	41.2	12.3	6.7	5.0	34.9	41.2	19.0

4 なりわいづくり

(1) 農林業振興

上段: 回答数 下段: 回答比率		年度	1	2	3	4	5	無回答	1+2	3	4+5
			満足	どちらかといえは満足	どちらともいえない	どちらかといえは不満	不満		満足	どちらともいえない	不満
問36	農産物等の生産力・販売力の強化、担い手の育成、農道等の生産基盤の整備など、市の農林業振興について(単一回答)	H30	85	425	1,346	233	75	112	510	1,346	308
			3.7	18.7	59.1	10.2	3.3	4.9	22.4	59.1	13.5
		H29	56	417	1,224	228	57	120	473	1,224	285
			2.7	19.8	58.2	10.8	2.7	5.7	22.5	58.2	13.6
		H28	79	423	1,381	238	71	104	502	1,381	309
			3.4	18.4	60.1	10.4	3.1	4.5	21.9	60.1	13.5
		H27	57	331	1,171	210	67	126	388	1,171	277
			2.9	16.9	59.7	10.7	3.4	6.4	19.8	59.7	14.1

(2) 観光振興

上段: 回答数 下段: 回答比率		年度	1	2	3	4	5	無回答	1+2	3	4+5
			満足	どちらかといえは満足	どちらともいえない	どちらかといえは不満	不満		満足	どちらともいえない	不満
問37	弘前らしい魅力ある観光資源を活かした取り組みなど、市の観光振興について(単一回答)	H30	189	898	899	161	40	89	1,087	899	201
			8.3	39.5	39.5	7.1	1.8	3.9	47.8	39.5	8.8
		H29	192	852	787	130	50	91	1,044	787	180
			9.1	40.5	37.4	6.2	2.4	4.3	49.7	37.4	8.6
		H28	252	875	886	146	62	75	1,127	886	208
			11.0	38.1	38.6	6.4	2.7	3.3	49.1	38.6	9.1
		H27	174	682	759	182	62	103	856	759	244
			8.9	34.8	38.7	9.3	3.2	5.2	43.6	38.7	12.4

(3) 商工業振興

上段: 回答数 下段: 回答比率		年度	1	2	3	4	5	無回答	1+2	3	4+5
			満足	どちらかといえは満足	どちらともいえない	どちらかといえは不満	不満		満足	どちらともいえない	不満
問38	地域産業の活性化、中心市街地等の賑わい創出や地元生産品の消費拡大等、市の商工業振興について(単一回答)	H30	68	376	1,294	338	91	109	444	1,294	429
			3.0	16.5	56.9	14.9	4.0	4.8	19.5	56.9	18.8
		H29	68	367	1,188	266	93	120	435	1,188	359
			3.2	17.5	56.5	12.7	4.4	5.7	20.7	56.5	17.1
		H28	68	410	1,319	306	108	85	478	1,319	414
			3.0	17.9	57.4	13.3	4.7	3.7	20.8	57.4	18.0
		H27	48	328	1,055	299	111	121	376	1,055	410
			2.4	16.7	53.8	15.2	5.7	6.2	19.2	53.8	20.9
問39	雇用の創出や労働環境の充実が図られていることについて(単一回答)	H30	51	218	1,255	451	193	108	269	1,255	644
			2.2	9.6	55.1	19.8	8.5	4.7	11.8	55.1	28.3
		H29	38	202	1,122	396	180	164	240	1,122	576
			1.8	9.6	53.4	18.8	8.6	7.8	11.4	53.4	27.4
		H28	40	204	1,199	520	231	102	244	1,199	751
			1.7	8.9	52.2	22.6	10.1	4.4	10.6	52.2	32.7
		H27	27	160	981	455	215	124	187	981	670
			1.4	8.2	50.0	23.2	11.0	6.3	9.5	50.0	34.1

5 戦略システム

(1) 確かな根拠(エビデンス)と進取の気質・多様性による地域経営

上段: 回答数 下段: 回答比率		年度	1	2	3	4	5	無回答	1+2	3	4+5
			満足	どちらかといえは満足	どちらともいえない	どちらかといえは不満	不満		満足	どちらともいえない	不満
問40	「市長車座ミーティング」、「アイデアポスト」、「市政懇談会」など市民から広く意見を聞く広聴活動について(単一回答)	H30	86	423	1,440	126	51	150	509	1,440	177
			3.8	18.6	63.3	5.5	2.2	6.6	22.4	63.3	7.8
		H29	71	489	1,239	113	70	120	560	1,239	183
			3.4	23.3	58.9	5.4	3.3	5.7	26.6	58.9	8.7
		H28	96	516	1,402	116	56	110	612	1,402	172
			4.2	22.5	61.1	5.1	2.4	4.8	26.7	61.1	7.5
		H27	128	503	1,063	88	41	139	631	1,063	129
			6.5	25.6	54.2	4.5	2.1	7.1	32.2	54.2	6.6
問41	「広報ひろさき」、「市ホームページ」、「フェイスブック」、「出前講座」など市民に広く市政情報を提供する広報活動について(単一回答)	H30	236	851	923	78	40	148	1,087	923	118
			10.4	37.4	40.6	3.4	1.8	6.5	47.8	40.6	5.2
		H29	187	744	929	82	48	112	931	929	130
			8.9	35.4	44.2	3.9	2.3	5.3	44.3	44.2	6.2
		H28	222	881	966	84	48	95	1,103	966	132
			9.7	38.4	42.1	3.7	2.1	4.1	48.0	42.1	5.7
		H27	241	786	717	52	38	128	1,027	717	90
			12.3	40.1	36.5	2.7	1.9	6.5	52.3	36.5	4.6

		年度	広報ひろさき	町内会などの回覧板	弘前市ホームページ	弘前市フェイスブック	弘前市ツイッター	新聞	公共施設等に配置されているチラシ等	町内会などの掲示版	ラジオ
問42	市から発信される情報はどこから入手していますか(3つまで)	H30	1,749 76.8	1,152 50.6	209 9.2	62 2.7	36 1.6	796 35	190 8.3	115 5.1	244 10.7
		年度	テレビ	その他	興味がないので調べない						
		H30	416 18.3	49 2.2	143 6.3						

		年度	1 そう思う	2 どちらかといえばそう思う	3 どちらともいえない	4 どちらかといえばそう思わない	5 そう思わない	無回答	1+2 思う	3 どちらともいえない	4+5 思わない
上段: 回答数 下段: 回答比率	問43 広報活動による情報が役立ちましたか(単一回答)	H30	458 20.1	1,006 44.2	562 24.7	72 3.2	72 3.2	106 4.7	1,464 64.3	562 24.7	144 6.3

		年度	1 満足	2 どちらかといえば満足	3 どちらともいえない	4 どちらかといえば不満	5 不満	無回答	1+2 満足	3 どちらともいえない	4+5 不満
上段: 回答数 下段: 回答比率	問44 国内外の人々との交流が増え、生活の向上や人材の育成が図られていることについて(単一回答)	H30	61 2.7	395 17.4	1,501 65.9	129 5.7	48 2.1	142 6.2	456 20.0	1,501 65.9	177 7.8
		H29	52 2.5	319 15.2	1,455 69.2	93 4.4	42 2.0	141 6.7	371 17.6	1,455 69.2	135 6.4
		H28	78 3.4	446 19.4	1,490 64.9	126 5.5	47 2.0	109 4.7	524 22.8	1,490 64.9	173 7.5
		H27	58 3.0	301 15.3	1,281 65.3	140 7.1	55 2.8	127 6.5	359 18.3	1,281 65.3	195 9.9

(2) 市民力を活用したまちづくりの推進

		年度	1 満足	2 どちらかといえば満足	3 どちらともいえない	4 どちらかといえば不満	5 不満	無回答	1+2 満足	3 どちらともいえない	4+5 不満
上段: 回答数 下段: 回答比率	問45 市民と行政がパートナーとして、まちづくりに取り組んでいることについて(単一回答)	H30	85 3.7	432 19.0	1,407 61.8	145 6.4	65 2.9	142 6.2	517 22.7	1,407 61.8	210 9.2
		H29	48 2.3	341 16.2	1,369 65.1	136 6.5	59 2.8	149 7.1	389 18.5	1,369 65.1	195 9.3
		H28	85 3.7	430 18.7	1,434 62.5	179 7.8	60 2.6	108 4.7	515 22.4	1,434 62.5	239 10.4
		H27	70 3.6	325 16.6	1,190 60.7	167 8.5	78 4.0	132 6.7	395 20.1	1,190 60.7	245 12.5
	問46 職場や家庭、地域社会において男女共同参画が進んでいることについて(単一回答)	H30	82 3.6	392 17.2	1,421 62.4	155 6.8	70 3.1	156 6.9	474 20.8	1,421 62.4	225 9.9
		H29	38 1.8	309 14.7	1,351 64.3	191 9.1	59 2.8	154 7.3	347 16.5	1,351 64.3	250 11.9
		H28	62 2.7	378 16.5	1,456 63.4	213 9.3	80 3.5	107 4.7	440 19.2	1,456 63.4	293 12.8
		H27	61 3.1	283 14.4	1,177 60.0	213 10.9	87 4.4	141 7.2	344 17.5	1,177 60.0	300 15.3

		年度	同感する	同感しない	どちらともいえない	無回答
上段: 回答数 下段: 回答比率	問47 「男は仕事、女は家庭」という考え方についてどう思いますか(単一回答)	H30	135 5.9	1,266 55.6	772 33.9	103 4.5
		H29	113 5.4	1,145 54.5	777 37.0	67 3.2
		H28	169 7.4	1,272 55.4	793 34.5	62 2.7
		H27	147 7.5	979 49.9	733 37.4	103 5.2

上段: 回答数 下段: 回答比率		年度	1	2	3	4	無回答	1+2	3+4
			よく参加 (活用)する	ときどき参加 (活用)する	ほとんど 参加(活用)しない	参加(活用)しない		参加(活用)する	参加(活用)しない
問48	大学が実施する公開講座や学園祭等への参加、教員や学生との交流、図書館等の施設を活用していますか(単一回答)	H30	68	329	648	1,126	105	397	1,774
			3.0	14.5	28.5	49.5	4.6	17.4	77.9
		H29	50	285	578	1,104	85	335	1,682
			2.4	13.6	27.5	52.5	4.0	15.9	80.0
		H28	60	290	630	1,245	71	350	1,875
			2.6	12.6	27.4	54.2	3.1	15.2	81.7
		H27	45	265	534	1,021	97	310	1,555
			2.3	13.5	27.2	52.0	4.9	15.8	79.3

(3) 強い行政の構築

上段: 回答数 下段: 回答比率		年度	1	2	3	4	5	無回答	1+2	3	4+5
			満足	どちらかといえば満足	どちらともいえない	どちらかといえば不満	不満		満足	どちらともいえない	不満
問49	市が進めている施策や事業、各種市民サービスなどを総合的に見た場合、満足していますか(単一回答)	H30	89	519	1,275	199	65	129	608	1,275	264
			3.9	22.8	56.0	8.7	2.9	5.7	26.7	56.0	11.6
		H29	80	555	1,120	163	66	118	635	1,120	229
			3.8	26.4	53.3	7.8	3.1	5.6	30.2	53.3	10.9
		H28	107	682	1,155	187	74	91	789	1,155	261
			4.7	29.7	50.3	8.1	3.2	4.0	34.4	50.3	11.4
		H27	109	501	998	171	78	105	610	998	249
			5.6	25.5	50.9	8.7	4.0	5.4	31.1	50.9	12.7
問50	市役所職員の仕事ぶりに満足していますか(単一回答)	H30	178	563	970	284	164	117	741	970	448
			7.8	24.7	42.6	12.5	7.2	5.1	32.6	42.6	19.7
		H29	127	510	919	295	142	109	637	919	437
			6.0	24.3	43.7	14.0	6.8	5.2	30.3	43.7	20.8
		H28	148	550	966	408	148	76	698	966	556
			6.4	24.0	42.1	17.8	6.4	3.3	30.4	42.1	24.2
		H27	142	489	738	351	142	100	631	738	493
			7.2	24.9	37.6	17.9	7.2	5.1	32.2	37.6	25.1

上段: 回答数 下段: 回答比率		年度	職員の応対・態度が悪い	仕事が遅い・待たされる	職員の仕事が行き当たり解	職員にコスト意識がない	職員の説明がわかりにくい	仕事のやり方に柔軟性がない	職員の責任感が足りない	無駄な仕事をして、必要な仕事をしていない	その他
問50-1	それは、どうしてですか(複数回答)	H30	230	154	154	145	147	189	170	107	85
			51.3	34.4	34.4	32.4	32.8	42.2	37.9	23.9	19.0
		H29	237	128	145	121	136	186	142	95	46
			54.2	29.3	33.2	27.7	31.1	42.6	32.5	21.7	10.5
		H28	219	153	171	145	129	229	175	102	94
			39.4	27.5	30.8	26.1	23.2	41.2	31.5	18.3	16.9
		H27	217	148	162	143	124	185	167	90	99
			44.0	30.0	32.9	29.0	25.2	37.5	33.9	18.3	20.1

※問50-1に対する回答の構成比については、母数を問50で「4. どちらかといえば不満」または「5. 不満」と回答した件数(448)とします。

上段: 回答数 下段: 回答比率		年度	1	2	3	4	5	無回答	1+2	3	4+5
			満足	どちらかといえば満足	どちらともいえない	どちらかといえば不満	不満		満足	どちらともいえない	不満
問51	近隣市町村との連携・協力による地域活性化について	H30	79	397	1,477	129	45	149	476	1,477	174
			3.5	17.4	64.9	5.7	2.0	6.5	20.9	64.9	7.7
		H29	64	421	1,306	98	38	175	485	1,306	136
			3.0	20.0	62.1	4.7	1.8	8.3	23.1	62.1	6.5
		H28	89	466	1,463	117	46	115	555	1,463	163
			3.9	20.3	63.7	5.1	2.0	5.0	24.2	63.7	7.1
		H27	100	428	1,164	88	42	140	528	1,164	130
			5.1	21.8	59.3	4.5	2.1	7.1	26.9	59.3	6.6

各種市民意見交換会意見一覧

本資料は次期弘前市総合計画策定に向け実施した

- ・Myひろさき創生市民会議(平成28年度 7回 のべ161人参加)
- ・市民意見交換会(平成29年度 26地区、614人参加)
- ・各種団体意見交換会(平成29年度 全15分野 のべ164団体、316人参加)

の意見を各分野ごとに取りまとめたものです。

各種市民意見分野別一覧
【ひとづくり】

No.	政策	会議名	年月日	意見	団体名
1	I 子育て	第2回Myひろさき創生市民会議	H28.8.27	【話し合いテーマ:こんな弘前になったらいいな！】 【グループ発表タイトル:社会全体で子どもを支える街づくり】 社会人が小・中・高・大学と連携した活動をしたり、高齢者が指導者となる子ども会を実施する。町会でのイベントを増やすなど、皆で楽しみながら子どもを支えていく。	
2		第2回Myひろさき創生市民会議	H28.8.27	【話し合いテーマ:こんな弘前になったらいいな！】 【グループ発表タイトル:子どもをもつ親へのサポート】 子どもに対する施策に目を向けがちだが、子育てをしている親への配慮も大事。	
3		第2回Myひろさき創生市民会議	H28.8.27	【話し合いテーマ:こんな弘前になったらいいな！】 【グループ発表タイトル:活気ある地域づくり】 社会全体で子どもを支える街づくり、子どもをもつ親へのサポートを達成するには、活気ある地域づくりが必須。	
4		第2回Myひろさき創生市民会議	H28.8.27	【話し合いテーマ:こんな弘前になったらいいな！】 【グループ発表タイトル:安心・安全なまちをつくらうぜ！】 子どもは親と普段から会話して、コミュニケーションを交わし、様々な経験をして、自然にあいさつができるような人間に成長していく。あいさつが飛び交うまちはそんな人がたくさんいる安心・安全なまちなので、あいさつを通してみんなで安心・安全なまちをつくっていく。	
5		市民意見交換会 城西地区	H29.6.18	市が生き残るには、住宅費の補助など若者や子育て世帯への支援が必要と思う。また、市の特例による高校・大学生への奨学金制度なども検討して欲しい。	
6		市民意見交換会 東目屋地区	H29.6.20	西目屋のように保育料の無償化について検討して欲しい。	
7		市民意見交換会 相馬地区	H29.7.20	保育所では子どもの熱が少しでも上がると保護者に子どもを戻すので、医師や看護師が常駐している病院附設の施設などで病児保育してもらえば、預ける保護者も安心して仕事に集中できるようになるのではないかな。	
8		市民意見交換会 相馬地区	H29.7.20	町会内には農家やサラリーマンに関わらず、50代で親が高齢な独身者が結構おり、将来1人暮らしになってしまうので心配になる。この年代になると婚活するのも勇気が出てこないの、もっと気軽に婚活に参加できる方法を考えていただければと思う。	
9		市政懇談会 桔梗野地区	H29.8.10	児童館は、児童が集団下校で来て、縦割り班で様々なことを行い、地域とのふれあいもある大切な場所なので、なかよし会の活動場所のように校舎内とするのではなく、学校の校舎とは別に場所を設ける必要があるのではないかな。	
10		市民意見交換会 清水地区	H29.8.18	桜ヶ丘町会では、10年前から町会内で子どもが生まれた世帯に出産祝いをあげているが、思いきって出産費用を全額、市で負担してはどうか。	
11		市政懇談会 石川地区	H29.8.22	ひろさき広域出愛サポートセンターに登録しているが、なかなかまとまらない。市ももっと情報を得てサポートするなどもっと踏み込んだ対応をしてみたいのではないかな。	
12		団体意見交換会 子育て分野	H29.7.4	フィンランドでは「ネウボラ」という、妊娠期から一貫して母親をケアできるシステムがあり、全国的にも取組に向けた動きが出てきた。現在、当市では妊娠期または産後のケアが行き届かないといった状況であり、一貫したケアという部分ではなされていない現状であると思う。	弘前市要保護児童対策地域協議会
13		団体意見交換会 子育て分野	H29.7.4	切れ目のない支援をするためには、ネウボラに学ぶべき。今の親御さんは支援を受けて当たり前といった感覚でいるため主体性がない。親御さんが自分たちで考えてアクションを起こし、それを応援するという方法に変えていく必要がある。	弘前市子ども・子育て会議
14		団体意見交換会 子育て分野	H29.7.4	保育現場では、利用者は増加しているが、利用者の意識、家庭での子育て力は低下していると感じている。保育施設において就学に向けた支援をどのようにしていくかが課題と感じている。	弘前市子ども・子育て会議
15		団体意見交換会 子育て分野	H29.7.4	子育て支援に関しては、様々な親御さんの状況や現状に対して、1ヶ所では対応しきれない状況にあるので、様々な制度を上手く活用して対応することが大切。4ヶ月までの乳児に対する保健師の訪問があるが、その後も継続して訪問できるシステムがあれば良い。	キッズネットクラス運営委員会
16		団体意見交換会 子育て分野	H29.7.4	虐待については、継続した支援、見守りが非常に大事。4ヶ月まででなく、同じ人が対応し、小学校を卒業するくらいまで継続したサービスであればお母さん方も安心だと思う。	弘前市母子寡婦福祉会
17		団体意見交換会 子育て分野	H29.7.4	健診等の体制整備で発達障がいの診断を受ける子どもが増えたが、例えば放課後デイサービスは日曜が休みのところが多く、平日に比べて土日に受けられるサービスが少ないと感じる。様々な相談機関があるが区別がはっきりしないことで、いろいろなアドバイスによりサービス難民となることが危惧されるので、統括する機関が必要ではないかな。	—
18		団体意見交換会 子育て分野	H29.7.4	手続きでいろいろな窓口に行くが、スムーズに手続きできないことがあるので、総合案内みたいなものがあるのもいいのではないかな。	弘前市母子寡婦福祉会
19		団体意見交換会 子育て分野	H29.7.4	幼保連携型認定こども園が市内に増えてきているが、子育て支援機能については、行政からの支援がない中、地域子育て支援を担うため、一生懸命頑張っている。行政は「子育てのことは子育て、教育は別。」と考えるのではなく、一緒に子どもの将来を考える場所(部署)を作って欲しい。	弘前地区私立幼稚園PTA連合会
20		団体意見交換会 学校教育分野	H29.6.26	私立幼稚園、認定こども園についての取組を、子育て支援課と教育委員会で分けてしまうのではなく、一緒に連携して取り組んで欲しい。	ひろさき教育創生市民会議

各種市民意見分野別一覧
【ひとづくり】

No.	政策	会議名	年月日	意見	団体名
21	Ⅰ 子育て	団体意見交換会 子育て分野	H29.7.4	公的な場につながりにくい人こそ支援が必要。幼保連携型認定こども園の役割は地域の子育て支援と地域活性化。認定こども園はこれ以上増やす必要はない。各園の質の向上やネウボラのような役割ができるような取組や支援を共にして欲しい。	弘前地区私立幼稚園PTA連合会
22		団体意見交換会 学校教育分野	H29.6.26	幼保連携型認定子ども園は、家庭力が弱まっている地域や子育ての仕方が分からない親、貧困家庭の子どもにも等しく質の高い教育保育を提供するもので、保育所とは全く別の教育施設なので、幼保連携型認定子ども園をうまく利用して欲しい。	ひろさき教育創生市民会議
23		団体意見交換会 子育て分野	H29.7.4	教育分野との連携が必要なので、教育分野と一緒に会合を開催して欲しい。妊娠―出産―産後の一貫した支援が必要。勉強・学ぶことで認識を共有することができると考えるので、このような会合の他に学習の場(機会)を作って欲しい。	弘前市要保護児童対策地域協議会
24		団体意見交換会 子育て分野	H29.7.4	木育の事業を実施した経験から、様々な体験活動であったり、心の栄養をつけるということ、経済的支援と同様の位置づけに捉えて欲しいと思う。成果は数値では表せないものもあるので、このようにところに焦点をあてた支援をして欲しい。また、「いたれりつくせり」は子育て支援ではなく、自分たちで考えて子育てできる母親・父親をつくるのが大事。「子育て支援＝ひとづくり」という観点を持って進んで欲しい。	弘前こどもコミュニティびーふる
25		団体意見交換会 子育て分野	H29.7.4	児童館の運営が何ヶ所かに分かれて指定管理になったことで、児童館の先生同士のコミュニティがなくなり、活動をするうえで戸惑うこともある。今の子育てを知ってもらうため、おじいちゃん・おばあちゃん世代を対象とした子育てに関する教室を開いて欲しい。	母親クラブ連絡協議会
26		団体意見交換会 子育て分野	H29.7.4	学習支援において、お兄さん・お姉さん世代、一般の方など幅広い世代に関わることによって学ぶことがたくさんあるので、母子家庭の子どもたちに限らず、弘前市の子どもたちへ学習支援を受けることができる機会をつくって欲しい。	弘前市母子寡婦福祉会
27		団体意見交換会 子育て分野	H29.7.4	市では多く事業に取り組んでいるが、周知方法をチラシだけではなく、若いお母さんがどういった方法で情報を収集しているのかなどを検討した方がよいのではないか。	子育て支援員連絡協議会
28		団体意見交換会 子育て分野	H29.7.4	福祉分野以外の人を加えて福祉に関することを考えて欲しい。	弘前市地域自立支援協議会
29		団体意見交換会 子育て分野	H29.7.4	人口減少の中、サービスを提供するための財源の確保は厳しくなるため、福祉で福祉を支えるというより、企業、商工などを交えたかたちで新しい仕組み・やり方を考えなければならないと思う。障がいをもっと知ってもらえる機会をもっと自然なかたちで、精神的にも参加しやすい環境を整えることが大事ではないか。	弘前市地域自立支援協議会
30		団体意見交換会 子育て分野	H29.7.4	認定こども園を拠点に移住の取組をしてはどうか。行政や商業界も一緒になって、子どもを産める人たちにたくさん弘前に来てもらうことを子育て支援の一環として考えていければいいと思う。	弘前地区私立幼稚園PTA連合会
31		団体意見交換会 子育て分野	H29.7.4	青少年の健全育成を図るためには、家庭と地域が健全でなければならない。地域の活動を支えている様々な団体が存在しているが、ネットワークづくりをしていかなければならないと考える。行政においても、役所の横の連携も不足しているので、横の連携を深めて欲しい。	県青少年健全育成推進員弘前地区協議会
32		団体意見交換会 子育て分野	H29.7.4	地域の力がこれからますます大事になっていくので、地域包括ケアみたいなかたちで、妊婦さん・貧困家庭での子育てなども地域で見守っていくことが必要ではないか。	弘前市民生委員児童員協議会
33		団体意見交換会 子育て分野	H29.7.4	笑顔あふれる子育て環境づくりには、家庭と地域のネットワークづくりが大切であり、今回の意見交換会のような場があればいいと思う。	弘前市子育て支援員連絡協議会
34		団体意見交換会 子育て分野	H29.7.4	青森イクボス宣言企業やイクメン企業など様々な取組をしている企業を増やし、また、その取組を検証していく必要があると思う。病院病後児保育について、弘前市の独自事業として予算を確保して対策を強化して欲しい。	連合青森津軽地域協議会
35		団体意見交換会 子育て分野	H29.7.4	子育ての大変さは、自分の経験からも皆さんの意見は良くわかるが、企業とすれば子育て中の制約のある社員を雇用するジレンマで苛まれることもある。この会のように、いろいろな団体がこのように集まって横のつながりができることは良いことであり、弘前市を良くする基だと思うので、これからもこのような会を開催してはどうか。	弘前商工会議所女性会
36		団体意見交換会 子育て分野	H29.7.4	小学校はどうしても学力に重点が置きがちであり、トータルで考えると子育ての視点で学校教育を見直していかなければならないのかなと感じた。発達障がいを抱えたお子さんが増えているので、マンパワーとして支援に関わってくれる方を学校現場に増やして欲しい。	弘前市子ども・子育て会議
37		団体意見交換会 子育て分野	H29.7.4	これから子育てしようとするひと、子育て中のひとの思いやニーズをしっかり捉えて欲しい。「ひとづくり」「くらしづくり」「まちづくり」「なりわいづくり」の各部局の連携・協力が大切だと思う。	弘前市子ども・子育て会議
38		団体意見交換会 子育て分野	H29.7.4	それぞれの分野の専門家を雇って、広報(宣伝・周知)やフィードバックを活かす仕組みをつくって欲しい。	弘前市地域自立支援協議会
39	Ⅱ 子どもの学び	第2回Myひろさき創生市民会議	H28.8.27	【話し合いテーマ:こんな弘前になったらいいな！】 【タイトル:自然…体験(つぼみ)】 ヒロロなど屋内でのイベントが多いが、自然とふれあって子どものうちから危険なことを学んでおかなければならないので、自然を体験できる場所をもっと増やす。	
40		第2回Myひろさき創生市民会議	H28.8.27	【話し合いテーマ:こんな弘前になったらいいな！】 【グループ発表タイトル:伝統…体験、伝承(つぼみ)】 ごぎん刺しやりんごなど、津軽の文化の体験を子どものうちからしておき、伝承できる人を増やす。体験といっても、ごぎん刺しをお店で購入し体験した気になりがちだが、そうではなく、きちんとプロから教わって製作してみることが大事。	

各種市民意見分野別一覧
【ひとづくり】

No.	政策	会議名	年月日	意見	団体名
41	Ⅱ 子どもの学び	第2回Myひろさき創生市民会議	H28.8.27	【話し合いテーマ:こんな弘前になつたらいいな！】 【グループ発表タイトル:心で・・・意欲 なりたい自分→なれる自分】 自然と伝統の体験から、こういうような大人になりたいという意欲を生み出させる。そしてこれらのつぼみが、なりたい自分からなれる自分という花を咲かせていく。なれる自分というのも、都会でないとない自分ではなく、弘前でなれる自分というのが作りだされるとよい。	
42		第2回Myひろさき創生市民会議	H28.8.27	【話し合いテーマ:こんな弘前になつたらいいな！】 【グループ発表タイトル:若者を活躍させようぜ！】 弘前には大学生が大勢いるのに、小学生が大学生と一緒に将来の夢や展望を考える機会があまりない。学都である弘前だからこそ、小学生が大学生と交流して、将来の夢を考える機会をもっとたくさん設ける。それによってみんなが考えていける機会をつくる。	
43		第3回Myひろさき創生市民会議	H28.10.8	【話し合いテーマ:「ひとづくり」での新たな「はな」(新たな価値・魅力・資源等)は？】 【グループ発表タイトル:居場所づくり×助っ人づくり】 ハンデのある子どもや、不登校の子どもなどが継続的に集まれる場が必要。そういう子をサポートする専門的な人の配置が必要。子どもの学びを大人が手助けすることによって大人の学びにもつながる。	
44		第3回Myひろさき創生市民会議	H28.10.8	【話し合いテーマ:「ひとづくり」での新たな「はな」(新たな価値・魅力・資源等)は？】 【グループ発表タイトル:地域を学ぶ機会】 市民でも弘前についてよく知らないという人が多いので、小学生など小さい時から地域の歴史などについて学ぶ機会をつくる。	
45		市民意見交換会 時敏地区	H29.7.13	時敏小学校の全校生徒は360人を切る状態で、来年以降も約40人ずつ減っていく。北小も生徒数が減っている、学区の再編・見直しによる、子どもたちの適正な配置を総合計画で検討して欲しい。	
46		市民意見交換会 新和地区	H29.7.14	常盤野小学校の小規模特認校制度を市全体でやって、全国展開したらどうか。まずは義務教育から、都会で疲れ切った親に、「弘前で、少年時代を過ごしてみませんか」と誘いかけたり、「心がおだやかな子どもを育てられるのは弘前しかない」等とPRし、地元小中学校のニーズが増えるような取組を考えてはどうか。	
47		市民意見交換会 新和地区	H29.7.14	新和地区の3小学校を統合しようという構想があるが、子どもの教育環境を考えると、やはり条件が整ったところで学び、遊び、研鑽して欲しいので、積極的に進めていくべきではないかと思う。	
48		市政懇談会 朝陽地区	H29.7.27	学校は地域の宝といっても、学校単体で見たときにある程度の規模は確保して欲しい。複式学級が必要な規模の学校は除いて、ある程度小さな規模の学校は統廃合を進めてもよいと思う。	
49		市政懇談会 石川地区	H29.8.22	平成30年度から小中一貫校になるにあたり、石川小学校・中学校は市内で一番古いので、なんとか新しい校舎を建てて欲しい。	
50		市政懇談会 千年地区	H29.8.24	大和沢小学校は、大自然を活かした小規模特認校である常盤野小中学校と同じような環境にあると思う。大和沢小と豊学校は長年交流しているので、豊学校と小学校を同じエリアで一緒にすることを検討してもらいたい。	
51		市政懇談会 三大地区	H29.8.28	教育問題でも、心の教育は重要視されているが、倫理観が喪失しつつあるのではないかと感じることがある。昔は自分達でやってできないことを市にお願いしていたが、今はなんでも市に願います。教員も長時間労働という状況であるので、言葉は愛、愛は寛容という思いで教育問題を十分考えて欲しい。	
52		市政懇談会 藤代地区	H29.8.29	教育現場で、動物などとの触れ合いがなくなっているのではないか。市として、全国に先駆けて、動物との触れ合う教育を積極的にやるべきではないか。	
53		市政懇談会 藤代地区	H29.8.29	河西地区には教育施設や高校がない。高校に遠距離通学している生徒の支援を総合計画で考えて欲しい。教育に力を入れながら人づくりを進めて欲しい。	
54		団体意見交換会 学校教育分野	H29.6.26	学力が低い子拾い上げ、学力が向上するような環境づくりを推進して欲しい。	ひろさき教育創生市民会議
55		団体意見交換会 学校教育分野	H29.6.26	アンダーアチーバー(持てる力を十分に発揮できていない児童・生徒)への働きかけは大いにやって欲しい。	学校評議員
56		団体意見交換会 学校教育分野	H29.6.26	高等教育まで受けていても、大人になって町会や地域に関する取組に参加することをすべて断る人がいる。学力も大事だが、コミュニケーション力の育成も必要ではないか。	学校評議員
57		団体意見交換会 学校教育分野	H29.6.26	「学力」というと、勉強面での印象があるが、心身の成長が必要だと思う。今の子どもは自己中心的で心が成長しておらず、体力面も劣っていると思うので、道徳面(精神)や運動神経なども一緒に成長できるように取り組んで欲しい。	学校評議員
58		団体意見交換会 学校教育分野	H29.6.26	インプロヴィゼーション(即興演劇)を小・中学校へ取り入れて欲しい。	ひろさき教育創生市民会議
59		団体意見交換会 学校教育分野	H29.6.26	答えに達すれば「○」ということを小・中学校で繰り返し、その状態で社会にでるが、社会に出た後は問題に対する答えがなく、知恵や狡さが必要である。学問の目的は人格の形成であり、魂の入った教育をして欲しい。	学校評議員
60		団体意見交換会 学校教育分野	H29.6.26	家庭や地域が子どもの力になれる仕組みづくりが大切ではないか。地域では色々なイベント等を行っているが、来て欲しい人たちに来てもらえないため、子どもの育ちの力になっていないので、まずは家庭が地域に入ってくる環境づくりが重要ではないか。	ひろさき教育創生市民会議

各種市民意見分野別一覧
【ひとづくり】

No.	政策	会議名	年月日	意見	団体名
61	Ⅱ 子どもの学び	団体意見交換会 学校教育分野	H29.6.26	色々な行事やスポーツ少年団などで子どもも忙しく、農家も農繁期は参加できないので、イベントも時期を考えて企画して欲しい。	学校評議員
62		団体意見交換会 学校教育分野	H29.6.26	行事への参加については全てが親の裁量にあるため、PTAやボランティア活動に参加するように若い親を教育するような取組があってもいいのではないかなと思う。	学校評議員
63		団体意見交換会 学校教育分野	H29.6.26	地域活動について、以前は学校の先生の協力もあり参加人数が多く、中学生と一緒にやってきたが最近はない。中学生については地域活動を部活動と同等の位置づけにして欲しい。	学校評議員
64		団体意見交換会 学校教育分野	H29.6.26	学校に地域の情報がないので、掲示板を活用して周知するなどしてはどうか。情報を見せ、経験させることで楽しいと感ずることができるので、どんどん情報を出して欲しい。	ひろさき教育創生 市民会議
65		団体意見交換会 学校教育分野	H29.6.26	学校・家庭・地域が共に支える環境づくりの実現に向けて、それぞれをつなげるコーディネーターの組織的・継続的な育成と活用が必要だと思う。	ひろさき教育創生 市民会議
66		団体意見交換会 学校教育分野	H29.6.26	障がい者に対する理解はまだ薄く、施策としての成果が上がっていないと感じる。各学校に特別支援に対するエキスパート教員が1人はいないといけなと思う。	学校評議員
67		団体意見交換会 学校教育分野	H29.6.26	自分の子どもに障がいがあるとわかったときの保護者へのケアに精力的に時間を使っており、保護者に対するカウンセリングが必要と思っている。	学校評議員
68		団体意見交換会 学校教育分野	H29.6.26	私の娘が障がいのある子と一緒に過ごすことで、どうしたらコミュニケーションを取れるかということ学んだ。受け入れることはとてもいいことだと思う。その子から理解や学ぶこともいっぱいあるので、障がいのある子とない子がふれあう時間は大切だと思う。	学校評議員
69		団体意見交換会 学校教育分野	H29.6.26	スマホによるいじめがある中で、これからは保護者への啓発が重要だと思う。保護者は自分の子どもの実態を把握できていないので、保護者をどう啓発するかが課題ではないか。	学校評議員
70		団体意見交換会 学校教育分野	H29.6.26	「勉強が好きか」というアンケートよりも「学校が好きか」(ハード・ソフト含め)というアンケートをすべきではないか。学校が好きであればその後勉強が好きになると思う。子どもたちの本音をやわらかく引き出すことが必要ではないか。	学校評議員
71		団体意見交換会 学校教育分野	H29.6.26	少子化対策で、都会で働く親元を離れ、おじいちゃん、おばあちゃんの元で過ごし、弘前で学ぶ子どもに手当てを支給してみてはどうか。高齢者も生きがいを感じ子どもが増えるのではないかな。	学校評議員
72		団体意見交換会 学校教育分野	H29.6.26	大人がわかっているようでわかっていないことがたくさんあるので、大人というよりは、先輩や大学生などその子の兄・姉的な年齢の子が悩みを聞くことで解決に結びつくのではないかな。	学校評議員
73		団体意見交換会 学校教育分野	H29.6.26	以前私が東京に行ったときに、笑顔づくりに取り組んでいた。1日5回は笑いましょうと運動している学校もあり、笑顔はとても大事なことだと思う。	ひろさき教育創生 市民会議
74		団体意見交換会 学校教育分野	H29.6.26	植物の一生を観察することが心の育成にいいと思う。	ひろさき教育創生 市民会議
75		団体意見交換会 学校教育分野	H29.6.26	学校教育において、道徳教育の推進、コミュニケーション力の向上、親の心の豊かさを育むプログラムをぜひ進めて欲しい。	ひろさき教育創生 市民会議
76		団体意見交換会 学校教育分野	H29.6.26	今回の会議のように世代の違う意見もためになるかなと思うが、小・中学生の現役の保護者の生の声を聞いて欲しい。	ひろさき教育創生 市民会議
77		団体意見交換会 商工会議所女性会	H29.10.12	自然を満喫できる小学校という点で、常盤野小学校は大変魅力的だと思う。自然体験をさせることが重要ではないか。	弘前商工会議所 女性会
78		団体意見交換会 商工会議所女性会	H29.10.12	「子どもの笑顔あふれるまち」に対して、子どもだけでなく、家族で笑顔になろうよと感じている。家族が笑顔なら子供も恩恵を受けるのではないかな。	弘前商工会議所 女性会
79		団体意見交換会 弘前ユースサミット	H29.10.16	どんどん地域の方々を巻き込んで、小学校の小さいうちから若いお父さんお母さんだけでなくおじいちゃんおばあちゃんも巻き込み、先生に任せるのではなく地域のみんなで子育てするという意識が大事だと思う。それがコミュニティスクールであり、教育自立圏の自立という考え方ではないかな。	弘前ユースサミット
80		団体意見交換会 農業団体女性	H29.10.19	婦人会や町会もどんどん高齢化が進んでおり、老人クラブ等も少なくなっており、認知症の高齢者が増えてきているように感じている。町会には、小学生が集まるなかよし会があるので、そこで地域の高齢者と何かやることができればいいと思う。	農業団体女性

各種市民意見分野別一覧
【ひとづくり】

No.	政策	会議名	年月日	意見	団体名
81	Ⅲ 豊かな学び	第3回Myひろさき創生市民会議	H28.10.8	【話し合いテーマ:「ひとづくり」での新たな「はな」(新たな価値・魅力・資源等)は?】 【グループ発表タイトル: 鹿内さん(NPO法人スポネット弘前)と頑張る!】 学生の帰宅部が多いのではないかと。東京オリンピックなど競技スポーツが注目されてしまって、スポーツが苦手な人がないがしろになっているのではないかと。クラブと教育の連携がまだきちんとしていない中で、競技スポーツに目が行ってしまっているのは問題。競技スポーツもいいが、鹿内さんのように、全ての人がスポーツを楽しめるような土台をしっかりとつくる。	
82		第3回Myひろさき創生市民会議	H28.10.8	【話し合いテーマ:「ひとづくり」での新たな「はな」(新たな価値・魅力・資源等)は?】 【グループ発表タイトル: 多世代の交流】 津軽人は温かみがある。交流スペースや町内会でのつながりから、若い人とお年寄りのつながりが欲しい。	
83		第3回Myひろさき創生市民会議	H28.10.8	【話し合いテーマ:「ひとづくり」での新たな「はな」(新たな価値・魅力・資源等)は?】 【グループ発表タイトル: ライフステージ×世代】 大人の学びをライフステージごとに分けて、世代ごとに集まれる場と、多世代間交流できる場の両方の創出。	
84		第3回Myひろさき創生市民会議	H28.10.8	【話し合いテーマ:「ひとづくり」での新たな「はな」(新たな価値・魅力・資源等)は?】 【タイトル: 伝統・文化・工芸の伝承】 弘前にあるものを活かしながら他の人に伝えていき、伝統行事に子どもを参加させたりすることで、若い世代と上の世代の交流を図る。	
85		第3回Myひろさき創生市民会議	H28.10.8	【話し合いテーマ:「ひとづくり」での新たな「はな」(新たな価値・魅力・資源等)は?】 【グループ発表タイトル: ぶっとんんでいる人を探す!】 弘前には保守的な人が多く、思い切った大胆な政策ができないことがあるので、ぶっとんんでいる人を探して、他の自治体で取り組んでいることをアレンジさせる。	
86		第3回Myひろさき創生市民会議	H28.10.8	【話し合いテーマ:「ひとづくり」での新たな「はな」(新たな価値・魅力・資源等)は?】 【タイトル: 興味・関心・好奇心】 ぶっとんだ人についていく人を見つけて取組を発展させる。ついていける人を増やすため、興味・関心・好奇心が豊かな人づくりをする。	
87		第3回Myひろさき創生市民会議	H28.10.8	【話し合いテーマ:「ひとづくり」での新たな「はな」(新たな価値・魅力・資源等)は?】 【グループ発表タイトル: 伝統の発展】 行事や伝統芸能が今日でも守られている。弘前を好きな小中学生は多いので、行事に関わる人をもっと増やしていく。ねぶた、津軽塗、ブナコなどがあるが、これをつくる過程を見て弘前をもっと知るようにする。小中学生だけでなく、高校生も弘前が好きになるような取組が必要。	
88		第3回Myひろさき創生市民会議	H28.10.8	【話し合いテーマ:「ひとづくり」での新たな「はな」(新たな価値・魅力・資源等)は?】 【グループ発表タイトル: 市民力の向上】 海外や県外の人に、市民がねぶたやブナコなどのことを説明できるように、市民が弘前の事をもっと知って、自分が弘前のために何ができるのかということを知り、周囲の人に還元できるようにする。	
89		第3回Myひろさき創生市民会議	H28.10.8	【話し合いテーマ:「ひとづくり」での新たな「はな」(新たな価値・魅力・資源等)は?】 【タイトル: 必要とされる場所づくり】 大人の遊びが少ない。外で遊ぶ子どもが少ないので、ひろさきアフタースクールのように親業を学んだり考えながら、異業種交流できるような場所をつくる。	
90		第3回Myひろさき創生市民会議	H28.10.8	【話し合いテーマ:「ひとづくり」での新たな「はな」(新たな価値・魅力・資源等)は?】 【グループ発表タイトル: 子どもの活動の場づくり】 子どもたちが部活動ができる場が少なかったり、公園などの遊ぶ施設が少ないということから、子どもが遊べる場を拡大する。	
91		第3回Myひろさき創生市民会議	H28.10.8	【話し合いテーマ:「ひとづくり」での新たな「はな」(新たな価値・魅力・資源等)は?】 【グループ発表タイトル: 若者総活躍をめざす】 弘前が好きな小・中・高校生を大きく育てる。子どもたちを地域のイベントにただ参加させてあげるのではなく、ねぶたやさくらまつり、宵宮など既存のイベントで子どもたち主役の何かを考える。もしくは子どもたちがのびのびやれるようなイベントを何か考える。また、若い人が起業しやすいよう周知を拡充したり費用面でも支援してあげる。ぶっとんんでいる人を嫌わないで受け入れてあげる。	
92		第3回Myひろさき創生市民会議	H28.10.8	【話し合いテーマ:「ひとづくり」での新たな「はな」(新たな価値・魅力・資源等)は?】 【グループ発表タイトル: 小さなつながりを大切に】 今住んでいる我々が、新しい考えを受け入れていくように変わっていく必要がある。まずは身近なこととして、地味だけど近所の方と仲良くなり、他人がやっていることに興味をもつことから始める。もっとみんなで一緒に雪かきをやるとか。	
93		第6回Myひろさき創生市民会議	H29.3.11	【話し合いテーマ:「まちづくり・なりわいづくり」での新たな「はな」(新たな価値・魅力・資源等)は?】 【グループ発表タイトル: 「あるもの活かし」市民の意識改革】 市民性として郷土に対する興味関心は高いが、学習意欲には差がある。地域の歴史・文化等を市民が学ぶことに対するインセンティブを与えることで郷土に対する市民の知識や関心を向上させる。	
94		第6回Myひろさき創生市民会議	H29.3.11	【話し合いテーマ:「まちづくり・なりわいづくり」での新たな「はな」(新たな価値・魅力・資源等)は?】 【グループ発表タイトル: 「ぬくもり(趣)のあるまち弘前」協奏(あなたの楽器は?)】 歴史や文化、農業・商工分野での技術などを教える側、教わる側それぞれの役割があるので、お互いに話し合いながら協力して進めていくことで人材育成が図られる。後継者の育成、建物や歴史・文化などをみんなで共有することで子どもから高齢者まで多様な人材が参画することでひとづくりが図られる。	
95		第6回Myひろさき創生市民会議	H29.3.11	【話し合いテーマ:「まちづくり・なりわいづくり」での新たな「はな」(新たな価値・魅力・資源等)は?】 【グループ発表タイトル: スポーツでひとあつめ】 中心市街地にスポーツ施設を設置する。県外からの集客力もあり、健康増進にもつながることから、スポーツイベントを積極的に開催する。	
96		第6回Myひろさき創生市民会議	H29.3.11	【話し合いテーマ:「まちづくり・なりわいづくり」での新たな「はな」(新たな価値・魅力・資源等)は?】 【グループ発表タイトル: 歴史・文化DE体験イベント】 歴史や建物など観光資源となるものが数多くある反面、市民の認知度は低い体験イベントを行うことで市民の認知度向上を図る。	
97		市民意見交換会 城西地区	H29.6.18	芸術家、アーティストが育ちやすいまち、高い文化のまちとなつてほしい。芸術家やアーティストが集まるよう、空き家の提供や安い家賃で住めるなどの取組をすべきではないか。城西地区をその最たる町として、特区にしてもいいのではと思う。	
98		市民意見交換会 東目屋地区	H29.6.20	はるか夢球場で野外フェスやコンサート開催したり、冬でもイベントを開催するなどして利活用を図って欲しい。	
99		市民意見交換会 高杉地区	H29.6.29	プロ野球一軍戦について、来年以降も、12球団すべてを対象(特にジャイアンツ中心)に、ぜひとも誘致活動を進めて欲しい。	
100		市民意見交換会 高杉地区	H29.6.29	今後、プロ野球一軍戦を誘致する際はぜひ年間2試合開催を目指して欲しい。	

各種市民意見分野別一覧
【ひとづくり】

No.	政策	会議名	年月日	意見	団体名
101	Ⅲ 豊かな学び	市民意見交換会 高杉地区	H29.6.29	プロ野球一軍戦が開催され、一時的には盛り上がっているが、実際には多額の税金を投入しているのに、長期的な稼働状況や具体的な活用方法をしっかりと示すべきではないか。	
102		市民意見交換会 和徳地区	H29.7.7	プロ野球一軍戦、巨人戦は難しいかもしれないが、1回だけでなく引き続き誘致して欲しい。	
103		市民意見交換会 和徳地区	H29.7.7	以前も公民館の建替えを要望したが、市では予算がないという回答だった。冷房もないので扇風機だけでも置いて欲しい。	
104		市民意見交換会 和徳学区	H29.7.18	はるか球場を3万人くらい入るようにしないと巨人戦はできないが、せめてセリーグと交流試合ができるよう、スタンドを大きくして欲しい。球場の環境はすごくよいので、もっと予算をかけて、3万人くらい入るようにすれば、別のスポーツも開催できるようになるのではないかな。	
105		市民意見交換会 和徳学区	H29.7.18	長野県のように、岩木のスポーツセンターに各大学のスポーツクラブをもっと誘致する方法を検討して欲しい。よその若い人たちが色々なイベントをできるようになればいいと思うので、そのようなことに予算をつかって欲しい。	
106		市民意見交換会 相馬地区	H29.7.20	地区の伝統行事の担い手不足のため、昔から伝わってきた伝統を継続することが難しくなっており、若い人も参加しやすい祭りにしたいと考えている。	
107		市民意見交換会 北地区	H29.7.25	昨年、県・市と空き教室を地域に開放するという話になり、期待して待っていた。施設の有効活用にもなるので、是非空き教室を地域に開放して欲しい。	
108		市政懇談会 朝陽地区	H29.7.27	旧第八師団長官舎の中に、全国的にも珍しいどこでも止まる、中に鍾が入っているバランス型の窓があるので、小学生に見学させればよいのではないかな。	
109		市政懇談会 桔梗野地区	H29.8.10	よくジョギングする人を見かけるが、冬にジョギングするところがないので藤田記念庭園を活用してはどうか。	
110		市政懇談会 石川地区	H29.8.22	はるか夢球場でプロ野球一軍戦の楽天戦や高校野球をして盛況だった。球場はきれいだが、少し狭いと感じたので、内野スタンドを拡張してはどうか。	
111		市政懇談会 千年地区	H29.8.24	築城400年祭で能と狂言の公演を3年連続でやった。3年で終わったのが残念だったので、能と狂言に限らず、公演を続けて欲しい。	
112		市政懇談会 三大地区	H29.8.28	運動公園の多目的運動広場は、トイレに行くのに、遠回りして行かなくてはいけないので、トイレの鉄柵に開閉式のドアをつけてもらいたい。また、河川敷に野球場が4つあり、ソフトボールの大会をしたいと考えているがトイレがなく大会を開催出来ないの、すぐにはできないと思うが、改善して欲しい。	
113		団体意見交換会 社会教育分野	H29.7.11	地域活動への子どもの参加について、行事を平日に行うとなると、学校の理解が必要となるので、学校は子どもたちを行事に積極的に参加させるように取り扱うべきだと思う。	社会福祉協議会
114		団体意見交換会 社会教育分野	H29.7.11	子どもはスポーツ少年団への参加で土日休みがなく、文化活動まで参加できない。また、参加したいと思っても、親が仕事の都合で連れて行くことができない現状であり、活動に参加できるような環境をつくる必要があるが、このような実態を市は理解していないと思う。まず現状を確認し、その原因を突き止めるべきではないか。	一般社団法人弘前文化財保存技術協会
115		団体意見交換会 社会教育分野	H29.7.11	都会ではスポーツ少年団活動は広域であるため文化活動にも参加してくれるが、地方では各学校単位であることから、スポーツ少年団を休んでまで他の活動に参加してくれないのが実態である。	ガールスカウト弘前地区委員会
116		団体意見交換会 社会教育分野	H29.7.11	子どもの文化活動やスポーツ活動を活発にしたいのであれば、大会や事業に参加するための費用を軽減したり、補助金を手厚くしたりして欲しい。	一般社団法人弘前文化財保存技術協会
117		団体意見交換会 社会教育分野	H29.7.11	各事業を単発で終わらせるのではなく、弘前市・太田市青少年交流事業に参加した子どもが翌年、子ども会リーダー養成講座や子どもの祭典実行委員に参加するなど、次の事業の参加に結びつけていくように取り組むべきと思う。子どもたちが自ら考えて実行していくこととなり、成長に結びつくと思う。	弘前地区女性会
118		団体意見交換会 社会教育分野	H29.7.11	子どもを取り巻くのは大人であり、実際は大人の感覚、モチベーションが変わらなければ変化しない。東大に入る子は確かにすばらしいが、社会教育活動に参加する子たちも良い子であるという親への教育が必要だと思うが、現状では当たり前のことを伝えきれていないと感じる。	弘前地区女性会
119		団体意見交換会 社会教育分野	H29.7.11	指標の数値だけでは人がどう変わったか見えず、実態が分からない。まず、子どもたちの学校生活、社会生活の充実を図るために、子どもたちの生の声を聞くべきではないか。どんなことを悩んでいるか、人に対してどのようにしたいかを聞き、先生達とのかかわりや大人たちの事業展開を話し合っていくことで笑顔あふれるまちを市民全体でつくっていくのではないかな。	ひろさき教育創生市民会議
120		団体意見交換会 社会教育分野	H29.7.11	指標を参加者数や講座開催回数ではなく、人の力を伸ばす視点で捉えるべきではないか。主体的に学習に携わる人間の増加を指標にするという考え方もできる。学区まなびの講座数が減ったとしても、運営の担い手が年度の始めと終わりを比較して増えればいいという指標であったり、公民館へのアドバイザーが対応した時間を指標にすることで、公民館の充実化を評価することもできるのではないかな。複数の指標とすることで職員の資質の伸びが期待できると思う。	ひろさき教育創生市民会議

各種市民意見分野別一覧
【ひとつくり】

No.	政策	会議名	年月日	意見	団体名
121	Ⅲ 豊かな学び	団体意見交換会 社会教育分野	H29.7.11	子どもと高齢者の参加人数が増えているが、子どもを育てている年代を育てていかないと社会教育が先細りしてしまう。講座の時間を夕方・夜などの時間とすれば幅広い年代の人が参加できると思う。	一般社団法人弘前文化財保存技術協会
122		団体意見交換会 社会教育分野	H29.7.11	中学校においてキャリア教育や生き方教育をして欲しい。	弘前市社会教育委員
123		団体意見交換会 社会教育分野	H29.7.11	社会教育は何を確にしているかといえば市の広報である。広報をより一層充実させるために行事に参加した感想や写真を入れて広報をより一層充実させることで、参加してみようという気持ちや関心を持ってもらえることができると思う。	弘前市社会教育委員
124		団体意見交換会 社会教育分野	H29.7.11	各公民館で講演会や講座を実施しているが、公民館の職員は少ない手当てでボランティアに近い状態で事業実施に取り組んでいる。事業を実施するためには研修会等でのノウハウや企画力を伝授し、職員をサポートすることが大事だと考える。	弘前市社会教育委員
125		団体意見交換会 社会教育分野	H29.7.11	文化財を公開することになったとき、町会へ周知を依頼したことがあるが、政教分離の関係で実現できなかったため、町会と市が連携して文化財の意義について、なぜ大事なのか、市民に理解させて欲しい。(皆に周知して欲しい)	弘前市重要文化財所有者連絡協議会
126		団体意見交換会 社会教育分野	H29.7.11	文化財の公開に二の足を踏むところがある。良いところをより理解してもらう一方で、秘伝や公開しないことを旨とする本尊等もあって公開できないものもあるが、文化財の公開については、教育委員会と膝を交えて最善な方法を話し合っていきたい。	弘前市重要文化財所有者連絡協議会
127		団体意見交換会 社会教育分野	H29.7.11	歴史的文化遺産を守るために、大石武学流庭園のように広域連携を考えて欲しい。全県、北東北などで考えていかないと将来文化遺産自体が失われていくのではないかと危惧している。面なり線なりで考えて、広域での景観条例を考えるなど、次期総合計画に枠組みを入れて欲しい。	一般社団法人弘前文化財保存技術協会
128		団体意見交換会 社会教育分野	H29.7.11	市・県指定の文化財の管理が限界に近付きつつあると感じている。弘前市重要文化財所有者連絡協議会を市・県指定の文化財に広げる、あるいは新しい団体を設立するといったことができないだろうか。	一般社団法人弘前文化財保存技術協会
129		団体意見交換会 社会教育分野	H29.7.11	弘前市仲町地区伝統的建造物群について、空き家条例を活用することで全市的に取り組んでいくことになるかと思うが、行政だけでなく民間でできることは民間でやっていきたいと考えているので、総合計画には行政と民間団体が連携する文言を入れ込んで欲しい。負担金を随いながら所有者の協議会、支援する団体、企業によってオール弘前体制で弘前市の文化財を保護していければよいのではないかと。	弘前市仲町地区伝統的建造物群保存会
130		団体意見交換会 文化芸術分野	H29.7.3	団体単体でイベントを開催するよりも、他団体とのコラボレーションや子どもから高齢者まで参加するなど、イベントを立体的に開催することで新たなメンバーを発掘できるのではないかと。	文化団体協議会
131		団体意見交換会 文化芸術分野	H29.7.3	地元大学とタイアップし、学生への技術指導を行っても、4年後には転出してしまふのが現状(就職先が地元でない)であり、人材の確保が課題である。	弘前オペラ
132		団体意見交換会 文化芸術分野	H29.7.3	音楽の中でも、吹奏楽は強化されているが、高校生等の合唱部や演劇部が存在せず、いずれはなくなると危惧している。	弘前市民文化祭実行委員会
133		団体意見交換会 文化芸術分野	H29.7.3	子どもから高齢者まで年齢を問わず触れ合える将棋は、高齢者の生きがいになり、子どもの眠っている才能を目覚めさせることもあるため、2025年問題に貢献できると思う。将棋のために青年がUターンする例も増えているので、弘前で将棋教室や段位がとれる大会等を増やすことで参加者が増え、市の活性化につながるのではないかと。	青森県将棋連盟
134	Ⅲ 豊かな学び	団体意見交換会 文化芸術分野	H29.7.3	文化施設の利用料金設定が、午前・午後・夜間となっているため、午後の時間帯で催し物が終了しても、片づけの時間でいくらか延長した場合、夜間の時間帯も利用料金を支払うことになるため、活動費の工面に苦慮している。	音楽ネットワーク弘前
135		団体意見交換会 文化芸術分野	H29.7.3	楽器の保管場所が練習会場から遠く、運搬費がかかるため、活動資金を圧迫している要因になっている。公共施設に打楽器等を置かせていただけないだろうか。	弘前交響楽団
136		団体意見交換会 文化芸術分野	H29.7.3	生徒数減少により、学校を練習場として使用できなくなる可能性があることを危惧している。	弘前地区吹奏楽連盟
137		団体意見交換会 文化芸術分野	H29.7.3	文化施設の利用料金を、一般市民が使いやすい設定として欲しい。	音楽ネットワーク弘前
138		団体意見交換会 文化芸術分野	H29.7.3	広報ひろさきを活用した各種文化団体情報の発信を強化して欲しい。また、今回のように団体から、いろんな企画を吸い上げる機会、場面があればよいと思う。	音楽ネットワーク弘前
139		団体意見交換会 文化芸術分野	H29.7.3	博物館等でのコンサートの実施などの企画について、市や施設側から働きかければ、応える団体があるのではないかと。	音楽ネットワーク弘前
140		団体意見交換会 文化芸術分野	H29.7.3	ピアノは弾かれないといい音がでないので、市民会館のピアノ(スタインウェイ)を良くするためにも、子どもや大人にもっとリーズナブルに開放してもらいたい。また、市民が使いやすいホールとするため、施設利用の際、片付けの時間を料金から除くなどして欲しい。	音楽ネットワーク弘前
141		団体意見交換会 文化芸術分野	H29.7.3	こういう会議の場だけでなく、ホームページや広報を活用し、色々な市民の声を吸い上げ、その意見を市発信で団体に協力をお願いする形であれば、より多くの意見を集約でき、多くの協力が得られると思う。	弘前交響楽団
142		団体意見交換会 文化芸術分野	H29.7.3	これまで個別に開催されている音楽イベントを一つにまとめて、市民音楽祭として1～2週間に凝縮して開催してはどうか。市民会館や文化センター、吉野町美術館など、近くにある施設を活用しながら、屋外でバレード等開催し、イベントを集中して行うなどしてはどうか。	弘前地区吹奏楽連盟
143		団体意見交換会 文化芸術分野	H29.7.3	豊田の一輪車と津軽三味線のコラボなど、文化団体同士がコラボすることで総合的なものや予想を超えたものができるので、そのような弘前ならではのイベントを市が積極的に行ってはどうか。	文化団体協議会
144		団体意見交換会 文化芸術分野	H29.7.3	団体間で情報共有、情報交換する機会があれば、団体同士での交流が生まれると思う。	岩木文化協会
145		団体意見交換会 文化芸術分野	H29.7.3	2025年問題として、表現活動をする担い手だけでなく、鑑賞活動をする担い手も減っていくため、中等教育から生涯学習の中で鑑賞力をつけていく取組が必要と考える。	百石町展示館指定管理者
146		団体意見交換会 スポーツ分野	H29.7.25	少子化に対応するにはスポーツ少年団の広域化しかないと思うが、広域化による送迎の問題に対応するため、エリアバスを導入して欲しい。	NPO法人スポネット弘前

各種市民意見分野別一覧
【ひとづくり】

No.	政策	会議名	年月日	意見	団体名
147	Ⅲ 豊かな 学び	団体意見 交換会 スポーツ分 野	H29.7.25	共働き世帯や核家族の増加により、子どものスポーツ活動に対する世話を保護者ができないとなると、地域で運営するしかない考えるが、ボランティアではなかなか進まないため、地域でマネジメントできる人材を育成するなど、総合的にやっていく必要があるのではないか。	NPO法人スポ ネット弘前
148		団体意見 交換会 スポーツ分 野	H29.7.25	勝利至上主義の傾向に歯止めをかけるため、大会の回数等に規制をかける必要があると思う。	NPO法人スポ ネット弘前
149		団体意見 交換会 スポーツ分 野	H29.7.25	この意見交換会のように、弘前市のスポーツや子どもたちの現状を、色々な団体で話し合う機会があることはとてもいいと思う。スポーツは子どもたちを苦しめるものではなく、楽しむスポーツもあるということ、スポーツ少年団の指導者が知ることによって意識が変わるかもしれない。	弘前市スポーツ 少年団
150		団体意見 交換会 スポーツ分 野	H29.7.25	スポーツを好きになるためには、実際にスポーツをやることだけではなく、見て楽しいと思うこともあるので、子どもたちのために、各種団体が色々な形で連携を図っていく必要があると思う。	弘前市スポーツ 少年団
151		団体意見 交換会 スポーツ分 野	H29.7.25	学校の体育で、スポーツ嫌いになる子もいるため、スポーツ指導ができる地域等の人材の支援を受けながら体育の授業を行うなど、学校体育のあり方を検討して欲しい。	NPO法人スポ ネット弘前
152		団体意見 交換会 スポーツ分 野	H29.7.25	小学校の運動がスポーツ少年団の活動ではなく、運動の楽しさを経験させることができるのは、学校の教育の場であり、その部分をしっかりやって欲しい。	弘前市スポーツ 少年団
153		団体意見 交換会 スポーツ分 野	H29.7.25	幼稚園や小学校の教育の中で、休み時間等でも、色々な遊びを通して、スポーツはおもしろいものだと 思ってもらえるようにして欲しい。	弘前市スポーツ 少年団
154		団体意見 交換会 スポーツ分 野	H29.7.25	市主導で、色々なスポーツを体験できる教室を、学校を利用して開催して欲しい。	NPO法人リペロ スポーツクラブ
155		団体意見 交換会 スポーツ分 野	H29.7.25	学校の施設開放について、現状は校長の裁量によるため、統一した方針を市(教育委員会)で示し、 もっと地域に貸せる状況を作って欲しい。	NPO法人リペロ スポーツクラブ
156		団体意見 交換会 スポーツ分 野	H29.7.25	働き盛りや子育て世代に、急にスポーツをやろうと言っても、無理があるのではないかな。小・中学校の 段階で、スポーツが楽しいということを伝えられるかどうかだと思う。それを、継続的に中高年まで続け られるかどうかを、行政がどこまで手入れできるかどうかであり、スポーツ団体だけにまかせる話では ないと思う。	弘前市体育協会

各種市民意見分野別一覧
【ひとづくり】

No.	政策	会議名	年月日	意見	団体名
157	Ⅲ 豊かな学び	団体意見交換会 スポーツ分野	H29.7.25	サッカーに関して言うと、会場が取れず、練習などがほとんどできていない現状があるため、やれる環境の場を提供するうえで、学校開放も含め、市の施設の利用を均一化できるような形になればベストだと思う。	NPO法人弘前Jスポーツプロジェクト
158		団体意見交換会 スポーツ分野	H29.7.25	障がい者のスポーツを取り巻く環境も、健常者と同じで、子どもたちにスポーツの楽しさを知ってもらうための事業を展開しているが、それぞれの学校や施設で行われている情報の共有ができていないという課題があり、広がりを感じられない。また、学校を卒業した後に、障がい者がスポーツを続けられる環境が整っていないという課題もある。	弘前大学教育学部附属特別支援学校
159		団体意見交換会 スポーツ分野	H29.7.25	市と津軽地区の特別支援学校が連携して、岩木山総合公園などを拠点とした、スポーツ教室などのプログラムイベントを開催してはどうか。	弘前大学教育学部附属特別支援学校
160		団体意見交換会 スポーツ分野	H29.7.25	市のほうで、当団体の活動をわかっているなかったり、色々なイベントをやっている、情報をうまく発信できていない現状がある。	スペシャルオリンピックス日本・青森
161		団体意見交換会 スポーツ分野	H29.7.25	弘前の特徴である学生のカヤ、スポーツをしている高齢者と障害者をつないでいけないうか。ボランティア活動をしたら、ポイントが貯まるような制度を検討して欲しい。	スペシャルオリンピックス日本・青森
162		団体意見交換会 スポーツ分野	H29.7.25	障がい者スポーツの現状を把握することで、団体同士をつないだり、場を集約することからスタートできれば、もっともっと前向きなスポーツ全般の活動に繋がると思う。	スペシャルオリンピックス日本・青森
163		団体意見交換会 スポーツ分野	H29.7.25	障がい者が体育館を使用する場合は、利用料金を減免してはどうか。	岩木振興公社
164		団体意見交換会 スポーツ分野	H29.7.25	障がい者と健常者が一緒にできるようなスポーツイベントを開催してはどうか。	岩木振興公社
165		団体意見交換会 スポーツ分野	H29.7.25	スポーツツーリズムは経済効果が見込まれる大事な分野であることから、スポーツコミッションの設立も視野に入れた仕組みを検討してほしい。	NPO法人スポネット弘前
166		団体意見交換会 スポーツ分野	H29.7.25	スポーツ推進員が活躍する場を作してほしい。	NPO法人スポネット弘前
167		団体意見交換会 スポーツ分野	H29.7.25	各種団体の紹介やイベント情報を市のホームページから発信し、市主催の事業や各種団体のイベント情報をチラシにして、学校へ配布してほしい。	NPO法人リベロスポーツクラブ
168	豊かな学び	団体意見交換会 弘前ユースサミット	H29.10.16	「Jリーグを目指す」ということに舵を切ってみてはどうか。サッカーはホーム＆アウェイの方式なので交流人口も増えるので、サッカーによる「スポーツを通じたまちづくり」に舵を切っても良いのではないかとと思う。	弘前ユースサミット
169		団体意見交換会 農業団体女性	H29.10.19	地域の活性化は、各地区の公民館の館長の腕にかかっていると思う。それにつながっていくのが、子どもであり大人である。町会長も町会のためとってくれる人がなってくれるといいと思う。公民館がしっかりしていれば、地域が活性化するのではないかと。	農業団体女性

自動計算

169

自動計算→

各種市民意見分野別一覧
【くらしづくり】

No.	政策	会議名	年月日	意見	団体名
170	I 健康	第2回Myひろさき創生市民会議	H28.8.27	【話し合いテーマ:こんな弘前になったらいいな！】 【グループ発表タイトル:健康サポート】 各世代が集まる第3の場所で、健康の情報を共有したり健康診断を一緒にやったりしてサポートする。	
171		第4回Myひろさき創生市民会議	H28.10.22	【話し合いテーマ:「くらしづくり」での新たな「はな」(新たな価値・魅力・資源等)は？】 【グループ発表タイトル:教育関係者等との連携】 健康づくりについて、学校教育との連携や各年齢層に対しての教育がまだ足りない。学校教育、社会教育、生涯教育の各分野において相互に連携した教育とすべき。	
172		第4回Myひろさき創生市民会議	H28.10.22	【話し合いテーマ:「くらしづくり」での新たな「はな」(新たな価値・魅力・資源等)は？】 【グループ発表タイトル:健康づくりの場を広めていく】 市内のあちこちに運動できる場が欲しい。駅前に集中させるのではなく、岩木地区など色々な地区で気軽に運動できる場が欲しい。また、フリースペースを設けて、高齢者の健康づくりのサポートや、地域交流が出来る場があればよい。	
173		第4回Myひろさき創生市民会議	H28.10.22	【話し合いテーマ:「くらしづくり」での新たな「はな」(新たな価値・魅力・資源等)は？】 【グループ発表タイトル:安心・安全のための教育】 一般的に、くらしづくりは一番関心が低い分野である。弘前は学都であり教育機関が多く、医療・保健・福祉について教育する機会が多く非常に恵まれている地域であるが市民はそういった教育機関の恩恵を受け、医療・保健・福祉に対して知識を蓄えて判断していくことがあまりない。こういったことが培われていかないと、税金に対する価値やお金の使い方、この政策にこれだけお金を使うのが正しいかどうかの判断が適切にできなくなってしまうので、そういった教育が大事。がんの罹患率は実は弘前は平均的だが見つかるのが遅く死亡率が高いということもあるので、そういう教育や意識付けをきちんとすることで、罹患率は平均的だけれども最終的には死亡率を下げる事ができるかもしれないので、そういった意味からも教育は必要。	
174		第4回Myひろさき創生市民会議	H28.10.22	【話し合いテーマ:「くらしづくり」での新たな「はな」(新たな価値・魅力・資源等)は？】 【グループ発表タイトル:施設×制度】 学んで身につけた知識を施設やこれからできてくる制度の利用の際に、上手くミックスしてつかっていくことが必要。わたしたちは既存の制度やサービスのお客様であり、意外と自発的でない。医師に薬を出されると、そのまま飲むだけの方もいるのではないかと。しかしそうではなく、きちんとした教育や自分で学びを深めることによって、適切な判断や自分に合った判断ができてくる。上手く制度をつかうことができ、施設の利用も適切になってくる。そういったうまいミックスができればよい。	
175		第4回Myひろさき創生市民会議	H28.10.22	【話し合いテーマ:「くらしづくり」での新たな「はな」(新たな価値・魅力・資源等)は？】 【グループ発表タイトル:「まんずいいっきゃ、医療機関」】 弘前にはどこの市よりも誇れるほど医療機関がたくさんあるが、夜間や休みの日などの急患に弱い部分はもう少し考えなければならぬ。	
176		第4回Myひろさき創生市民会議	H28.10.22	【話し合いテーマ:「くらしづくり」での新たな「はな」(新たな価値・魅力・資源等)は？】 【グループ発表タイトル:運動をはじめるきっかけづくり(報酬+ロコミ)】 取上町会では、朝6時半になると高齢者が公園でラジオ体操をやっているの、そういう良い活動を普及させる。子どもであれば夏休みにラジオ体操をしてスタンプを集めてお菓子をもらう。そういうように、一回運動したらポイントをもらって報酬がもらえたり、健診の結果が良くなったら市内の温泉の旅のチケットがもらえるなどのサービスを提供すれば市も活性化していくのではないかと。	
177		市民意見交換会 堀越地区	H29.6.27	国保料の滞納者は人間ドッグ・検診が原則として受けられない状況であるが、滞納者であっても人間ドッグを受けられるように要望したい。滞納者にこそ検診が必要と考える。	
178		市民意見交換会 和徳地区	H29.7.7	弘前にはせつかく立派な病院があるのだから、これからの少子高齢化社会を考えれば、市立病院が老人福祉のための機能や小児科、産婦人科を備えた病院となって、それを大きく掲げられれば、色々な市町村から人が来るようになるのではないかと。	
179		市民意見交換会 和徳地区	H29.7.7	健康診断のときに、健康づくりサポーターも頑張っているが、農繁期等の関係でタイミングが合わず、全体的な受診率が上がっていないと考える。少しでも受診率を上げていくため、市で健診巡回車などを増やしていけばよいのではないかと。	
180		市民意見交換会 相馬地区	H29.7.20	健康づくりの一環として、体を鍛えたいが、サンライフ弘前への行き来であれば疲れてしまうので、地元の温泉施設内(ロマンビアや御所温泉)などに、トレーニングマシンを設置してもらい、30分前後で100円くらいの利用料で体を鍛えてから温泉で汗を流したい。相馬中学校体育館2階にあった設備が活かされていないと思う。	
181		市政懇談会 東地区	H29.7.24	健康寿命を延ばすために生きがいが必要で、生涯学習をもっと大きく取上げて市民ひとりひとりに生きがいを持たせる方が市の総合計画に必要なと思う。	
182		市民意見交換会 豊田地区	H29.7.28	国民健康保険について、市からの持ち出しは仕方がないと思うので、いろいろ工夫して、安定した運営を今後も継続してほしい。	
183		市政懇談会 桔梗野地区	H29.8.10	健康のために運動する場がないので、旧一大小学校の跡地を競技スポーツ以外の健康と運動の場としてはどうか。	
184		団体意見交換会 健康分野	H29.6.23	子どもは吸収が早く、児童生徒に教えると、親子で話をする事で親にも影響があるので、親の健康や食生活への意識を変えるうえでも、家庭での会話が大事ではないかと。	弘前養護教員会、弘前市食生活改善推進員会
185		団体意見交換会 健康分野	H29.6.23	健康教育によって、子どもたちが大きくなる頃には、健康に対する意識が高まっているのではないかと。	弘前養護教員会
186		団体意見交換会 健康分野	H29.6.23	低学年のうちから学校で健康教育を行うことが大事だと思う。	ひろさき健康増進リーダー会
187		団体意見交換会 健康分野	H29.6.23	お酒、たばこなどについて、子どもの頃からしっかりと話をしていくことで次の世代につなげることができるので大切にしている。	弘前薬剤師会
188		団体意見交換会 健康分野	H29.6.23	40代50代の健康を考えると、会社で健康診断に行かなければならないように、健康講座にも行かなければならないようにできないかと思う。仕方なくでも話を聞いて、知識・情報を得られる仕組みを検討してはどうか。	弘前市食生活改善推進員会

各種市民意見分野別一覧
【くらしづくり】

No.	政策	会議名	年月日	意見	団体名
189	Ⅰ 健康	団体意見交換会 健康分野	H29.6.23	2次検診は個人負担となるので、2次検診の受診を促進するため企業に対する補助があれば受診率の向上につながるのではないか。	ひろさき健やか企業
190		団体意見交換会 健康分野	H29.6.23	農家は日中の健診には行きづらい。冬の受診率は良いので、例えば、夜間に受診できるようななどがあればいいと思う。	つがる弘前農業協同組合青年部
191		団体意見交換会 健康分野	H29.6.23	おいらせ町が実施した胃、大腸、肺がん検査の「無料招待券」を40代に配布したところ受診率が前年の5倍となったとの新聞を見た。弘前市でも検討してはどうか。職場での健診は一般的な健康診断が多いように思うので、各会社で補助を出すことで、がん検診の受診率が上がるのではないかな。	弘前市健康づくりサポーター協議会
192		団体意見交換会 健康分野	H29.6.23	40歳以下の農業就農者の健診があまりないのが現状であり、健診への意識も低い。受診率を上げることも大切だが、受診後のフォローも大事だと思う。歯周病や歯槽膿漏の早期治療によって内科的健康も保たれるのではないかと、組合員の健康を守る活動に携わって感じる。また、改めて健診の開催時間を考えて欲しい。	つがる弘前農業協同組合女性部
193		団体意見交換会 健康分野	H29.6.23	特定健診受診率については職業別で分析し、低いところに特化した対策をすべきではないか。健診は面倒でも献血ならハードルが下がると思う。献血である程度の血液検査結果が分かるので、献血を推奨してはどうか。	ひろさき健やか企業
194		団体意見交換会 健康分野	H29.6.23	働き盛り世代というのは40代・50代かもしれないが、これから40代になっていく、今の20代・30代を含めて健康づくりについて考えてはどうか。	つがる弘前農業協同組合青年部
195		団体意見交換会 健康分野	H29.6.23	様々な取組の経験から、普段、受けられない検査に関しては興味がある。健康に関心はあるが検診等に行けない人に対してのきっかけづくりが大事ではないか。	ひろさき健やか企業
196		団体意見交換会 健康分野	H29.6.23	イベントを呼び水にして、そこで身体・体力測定を実施し、そこにリーダー会が協力をするというような場を設定してはどうか。	ひろさき健康増進リーダー会
197		団体意見交換会 健康分野	H29.6.23	パーセントではなく実数で考えるべき。紙を配布して「やりました」ではなく、人と人の対応をすべきであり、保健師の数をもっと増やす必要があると思う。50歳未満の人、若い人が何で亡くなっているかを分析することも必要ではないか。糖尿病のことなどいろいろあるが、健診が重要だと考える。	弘前市医師会
198		団体意見交換会 健康分野	H29.6.23	地域の方から依頼があれば健康講座に出かけている。薬局は、薬という治療の手助けをしているが、その一歩手前の、薬を使わないようにという気持ちでの活動を大切にしている。	弘前薬剤師会
199		団体意見交換会 健康分野	H29.6.23	今、働く人の4割は非正規労働者であり年収200万円以下のワーキングプアと言われる方も日本には1,000万人いると言われている。働いているからといって必ず健康診断を受けているという状況ではないので、このことについても市で取り組んで欲しい。	連合青森津軽地域協議会
200	Ⅱ 福祉	団体意見交換会 健康分野	H29.6.23	人集めは大変。参加してほしい人(若い人)は、平日の参加は難しく、土日となると会場費が有料になり経費の面で課題になっている。保健センターを土日に借りられるように規制緩和するなど市でももう少し協力して欲しい。	弘前市食生活改善推進員会
201		団体意見交換会 健康分野	H29.6.23	健康意識は人によって感じ方に差があり、指標としたときの評価が難しい。健康意識の向上ではなく健康知識(健康教養)の取得という方が政策として有効な手段ではないか。中路先生の健康物語を暗記できるくらい学べる機会が子どもだけでなく大人にも必要だと思う。これらのことは健康増進リーダーに伝えるべきであり、大学任せではなく、弘前市の意向も伝えて欲しい。	ひろさき健やか企業
202		第4回Myひろさき創生市民会議	H28.10.22	【話し合いテーマ:「くらしづくり」での新たな「はな」(新たな価値・魅力・資源等)は?】 【グループ発表タイトル:高齢者の支援】 認知症の方のための徘徊・見守りセンターが欲しい。雪片付けの負担が厳しい。認知症にも脳梗塞からくるものやアルツハイマー型など色々あり、お年寄りに多い病気に対してまだまだ市民の知識が足りずよく理解していないところもあるので、市民全体で理解していくことも必要。	
203		第4回Myひろさき創生市民会議	H28.10.22	【話し合いテーマ:「くらしづくり」での新たな「はな」(新たな価値・魅力・資源等)は?】 【グループ発表タイトル:地域力の創出・創造】 医療・保健・福祉どの分野でもそうだが、今は地域での生活が基盤になっている。病院でも、2〜3週間で退院させて地域で生活していただきたいとなっている。福祉の分野でも、児童・高齢・障がい、どの分野でも地域での生活がベースになっている。そのために何が必要かという点、地域でその人の生活を支えるための地域力が必要になってくる。実際、地域の力の中で、町内会組織は高齢化して地縁組織が弱くなってきているが、代替的な組織もできてきている。そういった地縁に頼らない組織が地域にどんどん出ていくことによって、地域力そのものを創り出していく。あるいは地域の人も巻き込んで、自発的な活動を巻き起こしていくことにもつながるかもしれない。	
204		市民意見交換会 城西地区	H29.6.18	高齢者のみの世帯が増加し、地域防災や冬期生活に対する不安や負担、地域商店街が消滅していることで、買い物に不便になっており、高齢者世帯の生活環境の整備をどうするべきなのかが課題だと思う。	
205		市民意見交換会 高杉地区	H29.6.29	単身高齢世帯等の買い物弱者をなくすように、企業が特定の日に地域を訪問し、日用品等を売りこくるようなサービスがあればよいのではないかな。	
206		市民意見交換会 時敏地区	H29.7.13	高齢者の独り暮らしがどんどん増えていくと思うので、近所同士のネットワーク構築が大事であり、自分の事として捉える意識が重要と考える。その意識や姿勢を学校や地域との関わりの中で子どもたちにも見せ、広い心を持つようにしていくべきではないか。	
207		市民意見交換会 和徳学区	H29.7.18	町会独自でおしゃべり会をつくって、平日頃の悩み、ストレスを相談するコミュニティがあるが、そのように老人にやさしいまちになって欲しい。	
208		市民意見交換会 相馬地区	H29.7.20	生活保護を受けている、または一人暮らしで町会費捻出も厳しく、町会に加入登録していないような住民の住宅が壊れても修理できないのはもちろんだが、生垣や雑木が道路に伸びてきても勝手に切ることも出来ず、普通に食事をしているかも不明なので空き家よりも心配と感じている。	

各種市民意見分野別一覧
【くらしづくり】

No.	政策	会議名	年月日	意見	団体名
209	Ⅱ 福祉	市民意見交換会 下町地区	H29.7.22	子どもが減っているにも関わらず、高齢者の単身世帯が増えていることが問題だと思う。	
210		市民意見交換会 下町地区	H29.7.22	高齢者対策については、近年行政だけでは手が回らず、地域福祉という方向にシフトしてきており、この流れ自体は非常にいいことだと思うが、残念ながら、民生委員だけでは対応できず、地域内でボランティアをお願いしている状況だが限界があるように感じる。 現在、社協からボランティア等に対して助成金が出ているが、報酬としては支払えないことになっており、手続きも煩雑。報酬として支払えるよう仕組みを変えて、かつ手続きも簡素にするなど、地域福祉のために検討して欲しい。	
211		市政懇談会 朝陽地区	H29.7.27	車椅子で行動するのに弘前は優しい街ではないと気づいた。健康者だけではなく、みんなが来て良かったなと思える市になったら嬉しい。	
212		市民意見交換会 豊田地区	H29.7.28	町会連に加入せず、民生委員も出していない町会があり、不都合が生じている。町会の民生は町会で行うべきであり、手当はいらないので、各町会に窓口となる民生委員や市の民生担当者を配置して欲しい。	
213		市民意見交換会 豊田地区	H29.7.28	社会福祉協議会が始めた「地域ほのぼの交流事業」という高齢者への声掛けをする取組を長年やっているが、見守る側も高齢になっているので、「ほのぼの」や民生委員の交代のタイミングを作って欲しい。また、民生委員、「ほのぼの」、子育てメイトなど、町会単位に行政等で色々やるのはいいが、それぞれの役割の線引きが無いような気がする。福祉について、弘前ならではの取組を期待したい。	
214		市民意見交換会 豊田地区	H29.7.28	福祉政策について、新たな取組を急に始めるよりも、既にある社協のほのぼのの事業をもっと活用して、施策を推進していけばいいのではないかな。	
215		市民意見交換会 清水地区	H29.8.18	孤独死をなくする仕組みが必要であり、仮に孤独死の場合でも早期に発見されるような仕組みが必要ではないかな。	
216		市政懇談会 千年地区	H29.8.24	みんな一生懸命やっているので、敬老大会で敬意を表したいが補助金がない。市が各地区にもう10万くらい出してくれたら、もっと色々やれると思うので、もう少し、市が社会福祉協議会を指導して欲しい。	
217		市政懇談会 千年地区	H29.8.24	民生委員はお手伝いをするだけで決定権はない。以前、民生委員をしていたが、負担が大きくなり辞めたが、そのため、町会に民生委員がいなくなりました。民生委員の制度を含め、負担が大きいため、システムを変えていくべきだと思う。	
218		団体意見交換会 福祉分野	H29.7.6	居場所づくりは、地域に帰るということが大切。老人クラブ、婦人会等の減少は、地域住民の絆が弱まっていることも一因ではないかな。 民生委員は、一人暮らしの高齢者を見守っているが、認知症世帯、老々介護世帯などには入り込めていないのが現状。その辺りも地域の人たちと一緒にやっていければ、上手く進むのではないかな。 高齢者の居場所づくりということで、元気な高齢者は色々な事業、老人クラブや公民館、町会の行事に参加するが、周知方法はほとんどが口コミという状況なので、町会で事業を組むにあたって情報の提供が必要ではないかな。	弘前市民生委員 児童委員協議会
219		団体意見交換会 福祉分野	H29.7.6	地域での居場所は今後必要になってくると思う。規模としては町会もしくは高齢者が歩いて参加できる範囲で、気軽に集まれる自由な居場所が効果的ではないかな。	弘前市社会福祉協議会
220		団体意見交換会 福祉分野	H29.7.6	日本は長寿国といわれているが、単に長寿ではなく、健康寿命の延伸が非常に大事。高齢者には生きがいが必要だが、歳を取ると、人付き合いが減り閉じこもり気味になるので、同じ趣味を持つ仲間を紹介するような組織づくりをして欲しい。	NPO法人アセット
221		団体意見交換会 福祉分野	H29.7.6	退職した方々にボランティアとして活躍してもらいたい。高齢者が身近に集まることができる組織づくりと寄り添える住民・市職員の人材育成が必要だと思う。	弘前地区精神障害者家族会いずみの会
222		団体意見交換会 福祉分野	H29.7.6	高齢者の居場所づくりとして、シルバー人材センターの役割は大きいと認識している。 意見交換会で話題になった教員退職者が活躍する学習塾の設置に関し、全国では、学習塾事業を行っている事例もある。このほか、学習に工作や遊びを加えた子どもの居場所づくりにつながるものや、高齢者が高齢者にパソコンを教える教室など、多くの事例がある。 高齢者の居場所づくり、よりよい地域社会づくりのための事業実施に向けた支援もお願いしたい。	シルバー人材センター
223		団体意見交換会 福祉分野	H29.7.6	高齢者の居場所づくりについて、シニアパソコンクラブの事例を見ると、パソコンを覚えるという本来の目的とは別に、決まった曜日に同じ目的の人(仲間)と会うことを楽しみにしていると感じる。講習をきっかけに、同じ趣味の人が仲良くなったり、交流を深めたりする光景を見ている。	弘前市母子寡婦福祉会
224		団体意見交換会 福祉分野	H29.7.6	障がいも様々であるため、何に困っているのかを聞き、想像することが大事。 これまでは、ハード面に力を注いできたように感じるが、障がい者にとって住みやすい社会は、健康者にとっても住みやすい社会。心のバリアフリーということを考えて政策を立てて欲しい。障がい者の意見を聞いて欲しい。 例えば、障がいのある人とスポーツを一緒にやると、バリアがなくなり、意識改革につながるの、スポーツ、音楽などを通じて一緒にできる場、組織ができればいいのではないかな。 情報提供は大事であるが、例えば、行政のホームページでよく使われるPDFは音声ソフトに対応していないので、目の見えないの人がパソコンでPDFの情報を得ることができない。目の見えない人への情報提供の大切さをどのくらい認識しているか疑問に感じる。 福祉政策について、障がいのある人は、自分でできることは自分でしたいと常々考えている。地域の共同体の構築は大事だが、地域住民任せになることを危惧する。 障がい種別の特性に十分留意して欲しい。フィールドワークを含めて、もう少し当事者とのコミュニケーションをとって、福祉政策にも反映させて欲しい。	弘前市身体障害者福祉連合会
225		団体意見交換会 福祉分野	H29.7.6	「親なき後」というのが課題。 就労に関しては、軽度の知的障がい者は働けるので、将来的には重度の知的障がい者の面倒を見たり、あるいは老人の介護をしたりすることも必要なのではと考える。	弘前地区心身障害児者父母の会連合会

各種市民意見分野別一覧
【くらしづくり】

No.	政策	会議名	年月日	意見	団体名
226	Ⅱ 福祉	団体意見交換会 福祉分野	H29.7.6	知的障がいといわれる生徒の数よりも発達障がいを含ませ有する生徒が大変増えている。発達障がいのある人は、特別支援学校だけではなく大学生、企業にもおり、支援方法も考えていかなければならないと思う。	つがる地区障害者就労支援連絡会
227		団体意見交換会 福祉分野	H29.7.6	重度の障がい、就労まで結びつかないような障がいの施設は、市内では定員がいっぱいになりつつある。重度の子の行き場がなかなか厳しく、施設から次にどう移行していくかが進んでいない現状なので、受け皿の広がりといったことも市の方で検討して欲しい。 就労につなげるには、実習が重要であり、仕事を理解し、自分の力を発揮するには、日数が必要であるため、市庁舎での実習の期間をもう少し長くして欲しい。	つがる地区障害者就労支援連絡会
228		団体意見交換会 福祉分野	H29.7.6	数字だけでなく、現場で何が起きているか、子どもたちにとって何が必要であるかということを見て、福祉サービスの充実を図って欲しい。	つがる地区障害者就労支援連絡会
229		団体意見交換会 福祉分野	H29.7.6	全国的に農福連携が取り組まれているが、農地が山間部であったりと交通の便が悪いことが多いので、交通手段の支援についても検討を進めて欲しい。	つがる地区障害者就労支援連絡会
230		団体意見交換会 福祉分野	H29.7.6	子ども食堂は、募金で運営しているため、継続するには財政的な支援も重要と考える。全国にフードバンクはたくさんあるが、ボランティアには届かない。外国では、賞味期限が近いものを市役所で集めて提供していると聞くので、弘前市が先駆けてやれば良いと思う。	子ども食堂すこやかプロジェクト
231		団体意見交換会 福祉分野	H29.7.6	学習支援は学生ボランティアで行っているということだが、学生は卒業後に市外に転出することが多いので、継続性ということで考えれば、生きがいを含めて考えて、教職員のOBを活用してはどうか。母子家庭の学習支援、貧困世帯の学習支援に教職員OBをマッチングさせることを自治体も一緒に考えていければと思う。	NPO法人アセット
232		団体意見交換会 福祉分野	H29.7.6	今日参加して、学習支援、就労支援、子育て支援を色々な団体でやっていることを知り、この意見交換会での情報は参考となった。情報提供がいかに大切かを再認識した。	弘前市民生委員児童委員協議会
233		団体意見交換会 社会教育分野	H29.7.11	2025年問題を課題としてあげているが、高齢者教育への取組が計画に掲載されていない。どうしても生きがいを持って生活できるか、あるいは、医療費の削減等といった高齢者教育に焦点を当てていくことも必要と考える。	ひろさき教育創生市民会議
234	Ⅲ 安全・安心	団体意見交換会 商工会議所女性会	H29.10.12	お年寄り、車のない人が買い物に行けない。タクシーも色々な取組を行っているが、年金暮らしの人は、使えない。100円バスの停留所も遠かったりして使えない人もいるので、地域で買い物をお届けしてくれる制度を検討して欲しい。	弘前商工会議所女性会
235		第4回Myひろさき創生市民会議	H28.10.22	【話し合いテーマ：「くらしづくり」での新たな「はな」(新たな価値・魅力・資源等)は？】 【グループ発表タイトル：良くなるべし、「防災意識」】 地震があった時への防災意識が弘前市民はあまり高くない。岩木山がもし噴火したらどうするかというのもあり考えていない人が多いので、方がーの時にどうしたらいいかについて、防災意識の向上が必要。	
236		第4回Myひろさき創生市民会議	H28.10.22	【話し合いテーマ：「くらしづくり」での新たな「はな」(新たな価値・魅力・資源等)は？】 【グループ発表タイトル：地区ごとの防犯・防災対策】 街灯の設置数は地区によって差があるので、防犯の面からも対策が必要。歩行者・障がい者が優しい道路の整備も必要。冬になると道路がすり鉢状になって車が通るので精いっぱいだったりするので、防災・防犯の面からも対策が必要。また、監視カメラが少ないので、カメラの配置も考えるべき。	
237		第7回Myひろさき創生市民会議	H29.3.26	【話し合いテーマ：「オール弘前体制」でまちづくりを進めるための新たな「はな」(新たな価値・魅力・資源等)は？】 【グループ発表タイトル：「津軽イノベーション」学生の力を開放】 市民総参加の防災訓練(火山、洪水)。	
238		市民意見交換会 城西地区	H29.6.18	茜通りは交通量が多く、朝夕は道路が飽和状態なので、児童の登下校の安全を確保するためにも交通安全所に「交通安全指導員」の配置して欲しい。	
239		市民意見交換会 東目屋地区	H29.6.20	昨今、ミサイル問題などもあり防災訓練を行う地域もあるが、当地区は農協の有線放送しかないため、農協と連携して防災無線の設置を検討して欲しい。	
240		市民意見交換会 和徳地区	H29.7.7	今後、和徳公民館を災害に対応できる施設にして欲しい。川の近くなので水害も考えられるため、公民館の移転も含めて検討して欲しい。	
241		市民意見交換会 和徳地区	H29.7.7	和徳公民館は老朽化で災害のときも避難できないことになっているが、稼働率はいいし、場所も便利なので、サブの防災拠点としても、住民の安全を確保できる場所にして欲しい。	
242	Ⅳ 環境・文化	市民意見交換会 和徳地区	H29.7.7	自主防災組織を作ろうと思っているが、公民館を中心に作ればいいのか、あるいは町会ごとに作ればいいのかを検討している。宝くじ助成もあるそうなので、情報提供して欲しい。	
243		市民意見交換会 時敏地区	H29.7.13	高齢化に伴い、自主防災組織の活動の活性化を地区として頑張らなければならないことと考える。地域の共助を市民協働の範囲の中で、謳うべきではないか。お互いに助け合うことで地域を支えていくという考え方を計画に記載してみてもどうか。	
244		市民意見交換会 和徳学区	H29.7.18	PTA、地域の人々の協力によって通学路の見守りを行っているが、児童の安全を考慮すれば、緑のおばさんの復活や歩車完全分離信号機の設置など、一刻も早い抜本的対策が必要だと思う。市内には通学に危険な場所がこの地区に限らず色々あるので、子どもたちの安全を守って欲しい。	

各種市民意見分野別一覧
【くらしづくり】

No.	政策	会議名	年月日	意見	団体名
245	Ⅲ 安全・安心	市政懇談会 二大地区	H29.7.19	高齢化に伴い、自主防災組織が作れない。6月に会議で、町会に自主防災組織を作って欲しいと話していたが、当地区では反対の声があった。	
246		市政懇談会 二大地区	H29.7.19	防災行政無線の放送が聞こえづらいとの申し出が多数寄せられているので、もっと高い位置に設置するなどの改善策を検討して欲しい。	
247		市民意見交換会 相馬地区	H29.7.20	相馬中学校から前相馬に続く通学路周辺は、水田と果樹園だけで民家が一軒もなく、「腕つかみ」や「声かけ」の事例が以前にも起きているため、一番の弱者である児童を守るという観点からも、様々な犯罪等の抑止力になるであろう防犯カメラを設置して欲しい。	
248		市民意見交換会 豊田地区	H29.7.28	Jアラートのスピーカーの設備が貧弱なのではないか。農協のスピーカーははっきり聞こえるが、市のアナウンスは聞いたことがないので、設備や仕組みについてしっかりと検討して欲しい。また、Jアラートについての周知が足りないので、市民にしっかりと早く周知すべきではないか。	
249		市民意見交換会 豊田地区	H29.7.28	岩木山を自転車で登る観光客などに対して、安全・安心(災害)についての対応はどうなっているのか。観光客を守るためには、農村部の人への意識啓発も必要なのではないか。	
250		市政懇談会 桔梗野地区	H29.8.10	桔梗野は高台で水害の被害もなく非常にいい土地だが、集会所が座敷で、トイレも古く、周辺も交通量が多いので、立地はいいが使い勝手が悪いと感じている。車椅子も入りづらいので、この場所に防災教育施設としても活用できる避難場所を作ってはどうか。観光客、留学生のためにも、ここに避難すれば大丈夫という場所をつくって欲しい。	
251		市政懇談会 石川地区	H29.8.22	防災無線が薬師堂にない。農協の有線を使っているが農協なので誰でも使えるわけではなく、あまり聞こえないので、万が一の時にはしっかりと避難できるように防災無線の設置などを検討してほしい。	
252		市民意見交換会 一大地区	H29.8.23	町会ごとに自主防災組織を作るのは非常に難しいと思う。道具を町会で準備したり、数年ごとに資材を入れ替えたり、本当に町会で出来るのか心配している。資機材保管する場所もない。	
253		市政懇談会 蔵代地区	H29.8.29	交通巡視員は、子どもの犯罪予防の監視や地域の防犯と不審者の監視など多目的に必要と考えるので、交通巡視員制度(緑のおばさん)を復活して欲しい。	

自動計算
→

84

自動計算→

各種市民意見分野別一覧
【まちづくり】

No.	政策	会議名	年月日	意見	団体名
254	I 雪対策	第6回Myひろさき創生市民会議	H29.3.11	【話し合いテーマ:「まちづくり・なりわいづくり」での新たな「はな」(新たな価値・魅力・資源等)は?】 【グループ発表タイトル:雪・カラス×100円バス・優しい市民】 雪問題やカラス対策などの課題もあるが、いい面も多くあり、いい面も悪い面もあわせてトータルで市民に理解してもらう。	
255		市民意見交換会 堀越地区	H29.6.27	除雪業者と地域住民が密接に話し合いをする場があれば住みよいまちづくりにつながるのではないかな。	
256		市民意見交換会 時敏地区	H29.7.13	市の雪対策は、色々と進められていると思うが、市全体で見るとまだまだ市民の満足度が高まっているとは思えない。また、通学路の排雪はなかなか手が回っていないと感じるので、対策について検討して欲しい。	
257		市民意見交換会 新和地区	H29.7.14	河西、新和地区には雪置き場がなく、以前から設置をお願いしている。樋ノ口や悪戸の雪置き場へは、混んでいる時は午前中に1、2回しか行けず、すごく時間がかかるので、新たな雪置き場を設置して欲しい。	
258		市民意見交換会 下町地区	H29.7.22	住民として、一番問題になるのが雪対策。融雪溝を利用できない世帯が同じ町会内でも半分近くあるため、将来、市街地の各地区でいつ頃、融雪溝が整備されるのか、見通しを示して欲しい。	
259		市民意見交換会 下町地区	H29.7.22	機械除雪は安眠を妨害するだけでなく、道路施設の破損も激しいため、今後は、機械除雪ではなく排雪と融雪を重点的に行って欲しい。	
260		市民意見交換会 下町地区	H29.7.22	道路の片側にのみ流雪溝がある場所では、流雪溝がない側の住民で一切除雪しない人がいるので、除雪条例を制定し除雪するような意識付けが必要だと思う。	
261		市政懇談会 東地区	H29.7.24	8年前他県から来たが、弘前に住んでいて、毎年雪に困るが、抜本的な対策がなく、お年寄りも困っている。雪対策が良くならないのに税金ばかりが高いと感じる。	
262		市民意見交換会 北地区	H29.7.25	横手や湯沢など豪雪地帯に住んでいたことがあるが、当地区(青山)は除雪が悪いと感じる。他の豪雪地帯は除雪がいい。市では、融雪を進める計画のようだが、郊外に住む人がいる限り除雪しなければならないわけで除雪費は減らない。むしろ、除雪の予算を増やし、余ったら基金にして繰越すなどの対応を検討して欲しい。雪対策は、医療・介護と同じで費用がかかるものだというように考える必要があるのではないかな。年間の3分の1が雪に埋もれる地域だからこそ、いかに冬期間快適に暮らせるかが重要であり、快適に暮らせれば人も残ると思う。	
263		市民意見交換会 北地区	H29.7.25	交差点に寄せ雪を置いて行かれると片づけるのが非常に大変なので、交差点の除雪については、特に注意してやって欲しい。	
264		市政懇談会 東地区	H29.7.24	空き地の固定資産税を安くして雪捨て場として活用するという政策があると思うが、もう少し周知して欲しい。手続きに身構えてしまう人も多いため、町会へ市から積極的に情報提供して、市が間に入って取り組みやすいようにして欲しい。	
265		市民意見交換会 豊田地区	H29.7.28	流雪溝が整備されていても、流雪溝に雪を投げ入れることができない高齢者もいるので、流雪溝を利用して除排雪を行うといった町会活動に補助金を出すなどの対応を検討してみてもどうか。	
266		市政懇談会 桔梗野地区	H29.8.10	排雪のトラックについて、自衛隊にも出動してもらってはどうか。	
267		市民意見交換会 清水地区	H29.8.18	雪対策について、幹線道路の除雪は市で行い、生活道路の除雪は予算も分けて町会に任せなどの対応はどうだろうか。まずモデル地区を決めて実施し、効果があれば徐々に広げていってはどうか。	
268		市民意見交換会 清水地区	H29.8.18	除雪が追い付かない狭い道路については、一方通行にしてはどうか。	
269		市民意見交換会 清水地区	H29.8.18	除雪作業オペレーターの技術向上を図るため、技術センターなどを設置して研修を行い、一定レベルに達したところに委託するのはどうか。	
270		市政懇談会 文京地区	H29.8.21	流雪溝を設置する予算を付けて計画的にどんどん進めて欲しい。また、幹線道路には、12～13億円の予算を最初から盛り込み、除排雪をしっかりできる予算をつけて、住みよい弘前を作って欲しい。	
271		市政懇談会 石川地区	H29.8.22	今後、地域の少子高齢化の時代に対応していくための冬場の雪対策として、「沢水を有効活用した消雪」をモデル案として実施してみてもどうか。	
272		市民意見交換会 一大地区	H29.8.23	一番大事だと思うのは、冬に住みやすい街にして欲しい。雪対策、除排雪に一番力を入れて、「弘前は除雪がすごい」と言われるような街にして欲しい。そうならば、他県から戻ってくる人もいるのではないかな。特に、硬い雪を削ったときは、あわせて排雪などの対応を考えて欲しい。	
273		団体意見交換会 雪対策分野	H29.7.10	高齢化社会では、職人が減りオペレーターもいないという状況になるので、人材確保が必要と考える。スマートシティの新しい取組なども踏まえて考えていきたい。	弘前建設業協会

各種市民意見分野別一覧
【まちづくり】

No.	政策	会議名	年月日	意見	団体名
274	I 雪対策	団体意見交換会 雪対策分野	H29.7.10	行政の手が行き届かない細い道路の除雪などは住民自らがやっていくべきと思う。町会への除雪機の貸付けなども非常に良いことであり、これに再生エネルギーを活用した融雪などを組み合わせながら、地域ぐるみの体制を作れば良いと思う。	弘前建設業協会
275		団体意見交換会 雪対策分野	H29.7.10	県道除雪の契約方法や重機の借上・払下など、県の仕組みの良い部分は市でも吸収して欲しい。	弘前建設業協会
276		団体意見交換会 雪対策分野	H29.7.10	一番の問題は寄せ雪と間口の苦情なので、業者や行政だけで解決するのではなく、官民及び町会が一体となって対応していくことが必要だと思う。	弘前建設業協会
277		団体意見交換会 雪対策分野	H29.7.10	除雪のための基金の創設など、市の除雪予算についても工夫して欲しい。	弘前建設業協会
278		団体意見交換会 雪対策分野	H29.7.10	市の雪対策は機械除雪と消流雪溝、融雪の三本柱だが融雪が一番良いのではないかと。一番問題となるのが間口の苦情であり、苦情対応の苦勞をなくすために融雪が必要かと思う。	弘前建設業協会
279		団体意見交換会 雪対策分野	H29.7.10	空き家と高齢者の一人暮らしも増えているため、消流雪溝が家の前にあっても投雪できず活用されていない実態もある。投雪時間も決まっているので、仕事を休んで投雪しなければならず非常に苦勞している。	弘前建設業協会
280		団体意見交換会 雪対策分野	H29.7.10	最近、異常気象により一度にもすごい量の雪が降り、融雪もほとんど効果がない場合がある。4年先を考えるのも大事だが、最低限、機械除雪の体制だけは準備しなければ救急車も通れない状況がくるかもしれないので、その点は考慮しながら進めて欲しい。	弘前建設業協会
281		団体意見交換会 雪対策分野	H29.7.10	下町では、家庭用のポンプで水をくみ上げて融雪している人が多いと思うので、その実態を調査し融雪に活用したらどうか。	青森県宅地建物取引業協会
282		団体意見交換会 雪対策分野	H29.7.10	市内の宅地は50坪前後が多く、雪のやり場がなく苦情が多いのが実情かと思う。雪の置き場所を確保するため、地熱により道路の端を1mだけでも融雪するのがよいのではないかと。	青森県宅地建物取引業協会
283		団体意見交換会 雪対策分野	H29.7.10	開発行為の制度的な要望に関して、弘前市では区画に関して最低でも165㎡という規制になっているが、融雪を設置した宅地については、もっと小さくしても良いと思う。	青森県宅地建物取引業協会
284		団体意見交換会 雪対策分野	H29.7.10	空き家・空き地の管理に一番苦慮している。 空き家の場合、必ず雪下ろしが必要で、さらにその雪をどう処理するかが問題。空き地の場合は、冬に雪置き場として活用してもよいという地主もいるが、年配の方はそれさえできない。	青森県宅地建物取引業協会
285		団体意見交換会 雪対策分野	H29.7.10	建物も道路の雪と無関係ではないので、無落雪屋根などに対する優遇措置を考えてみてはどうか。	青森県宅地建物取引業協会
286		団体意見交換会 雪対策分野	H29.7.10	夏や秋のうちに空き地を調査して、排雪する場所として有償で借り受けられるようにしてはどうか。	青森県宅地建物取引業協会
287		団体意見交換会 雪対策分野	H29.7.10	市が助成をして町会に何ヶ所か共同井戸ができれば、雪をとく場所としてかなり助かるのではないかと。	青森県宅地建物取引業協会
288		団体意見交換会 雪対策分野	H29.7.10	幹線道路の除雪は市が行い、町内の中は町会に任せればよいのではないかと。町会に任せ予算も預けて、町会が好きな業者を選べる仕組みにしてはどうか。	弘前地区電気工事業協同組合
289		団体意見交換会 雪対策分野	H29.7.10	既存の雪対策だと財源も限りがあるし人手不足にもなっていく。空き地も借りながら市民を巻き込んだ対策を進め、それを支援していくなど、発注体系なども考えたほうがよいのではないかと。	弘前地区電気工事業協同組合
290	II 都市環境	第2回Myひろさき創生市民会議	H28.8.27	【話し合いテーマ：こんな弘前になったらいい！】 【グループ発表タイトル：各世代のコミュニティ・つながり】 各世代が集まれるような第3の場所、サードプレイスがあればよい。ハコモノをつくるのではなく、空き家を上手く活用して、場所や雇用や事業を生みだしていく。また、街なかに比べ郊外では交通の便も悪く集まりたくても集まれないので、費用対効果を考えながら何らかの対策が必要。	
291		第4回Myひろさき創生市民会議	H28.10.22	【話し合いテーマ：「くらしづくり」での新たな「はな」(新たな価値・魅力・資源等)は？】 【グループ発表タイトル：「あずましい」暮らしがある。】 あずましい暮らしを推進していくためにはどうしたらいいか。弘前は、学生と地域の方が交流する場があるようで意外と少なかったりする。自分の生活がしやすいという面がある一方で車がないと生活しにくいといった面もある。自分たちであずましい暮らしにするにはどうしたらいいかというのをもって考えていく必要がある。	
292		第6回Myひろさき創生市民会議	H29.3.11	【話し合いテーマ：「まちづくり・なりわいづくり」での新たな「はな」(新たな価値・魅力・資源等)は？】 【グループ発表タイトル：「あるもの活かし」資源の有効活用】 町会で利用できるフリースペースとしての空き家の活用。	
293		第6回Myひろさき創生市民会議	H29.3.11	【話し合いテーマ：「まちづくり・なりわいづくり」での新たな「はな」(新たな価値・魅力・資源等)は？】 【グループ発表タイトル：「ぬくもり(趣)のあるまち弘前」カタチのないカタチをつくる】 気持ちいい、快適な空間づくり(ハード以外でも)。	

各種市民意見分野別一覧
【まちづくり】

No.	政策	会議名	年月日	意見	団体名
294	Ⅱ 都市環境	第6回Myひろさき創生市民会議	H29.3.11	【話し合いテーマ:「まちづくり・なりわいづくり」での新たな「はな」(新たな価値・魅力・資源等)は?】 【グループ発表タイトル:「めぐもり(趣)のあるまち弘前」創る⇒活性】 既存のものにひと手間加えたり、非日常を演出することでまちを歩きたくなるような仕掛けやサービス。	
295		第6回Myひろさき創生市民会議	H29.3.11	【話し合いテーマ:「まちづくり・なりわいづくり」での新たな「はな」(新たな価値・魅力・資源等)は?】 【グループ発表タイトル:弘前公園の歴史発信】 弘前公園のにぎわいを創出するための声掛け運動。通年での来園者を確保するため積極的に弘前公園の歴史などを発信する。	
296		第7回Myひろさき創生市民会議	H29.3.26	【話し合いテーマ:「オール弘前体制」でまちづくりを進めるための新たな「はな」(新たな価値・魅力・資源等)は?】 【グループ発表タイトル:「活きた町会」いこいの場をつくる】 空き家の活用(昼間は何か体験できる場、夜は居酒屋など)。	
297		市民意見交換会 岩木地区	H29.6.1	「日本で最も美しい村」の指定を受け岩木地区が一丸となってやっていこうという機運であるので、景観を阻害している物件等については、市として十分な指導をするなどの対応をして欲しい。	
298		市民意見交換会 城西地区	H29.6.18	吉野町の整備は、弘南鉄道や土淵川、レンガ倉庫を活かして、ロータリーをつくるなどして進めて欲しい。住吉町、紺屋町、土手町、鍛冶町などが繋がるように整備し、土淵川も同時に整備して欲しい。奈良美智の犬を飾り、ただの芸術の拠点として整備するだけでは足りないと思う。	
299		市民意見交換会 城西地区	H29.6.18	昔は雨でも雪でも、学校から遠回りしてでもとりあえず土手町に行くという人が多かったが今はそうでない。景観的な問題もあるかもしれないがアーケードが復活すればよいと思う。	
300		市民意見交換会 城西地区	H29.6.18	花が多い、景観の良い街づくりに取組んで欲しい。	
301		市民意見交換会 城西地区	H29.6.18	住宅屋根の色の統一化と垣根の緑化、地域全体に花がある街、歩道に雪がなく歩きやすい街など、特色ある住宅環境を整備して欲しい。	
302		市民意見交換会 城西地区	H29.6.18	町会が弱体化しているため、理想的な公園のあり方を理解していても、市からのお金で町会が管理することは困難になっている。公園はお年寄りや子どものくつろぎの場、憩いの場として大切なので、公園の利用状況を勘案しながら整備して欲しい。	
303		市民意見交換会 東目屋地区	H29.6.20	移住者受入を考えると、危険な空き家については、防火・防災上の危険が懸念される。また、景観・観光上もマイナスと考えることから、市は積極的に対応して欲しい。	
304		市民意見交換会 裾野地区	H29.6.24	廃屋等の処分方法や処分経費の軽減について、市独自の先進的な取組をして欲しい。	
305		市民意見交換会 裾野地区	H29.6.24	もう少し進んだ空き家対策を期待する。	
306		市民意見交換会 裾野地区	H29.6.24	空き家を解体して更地にした場合、固定資産税が高くなる(住宅が建っている方が税が安くなる)ため、相続した人が空き家をそのままにし、町会は空き家対策で苦慮しているので、その点について根本的、総合的に考えて欲しい。	
307		市民意見交換会 裾野地区	H29.6.24	各地域の特性を生かしながら、市で策定している経営計画を反映させた、各地区ごとのミニ経営計画を策定したらどうか。	
308		市民意見交換会 堀越地区	H29.6.27	堀越の雪捨て場は、春になれば黒い山となり景観を損ねている。景観がいいということで移住してきた人もおり、観光地である堀越城の近くにそのようなものがあるのはいかかと思う。	
309		市民意見交換会 和徳地区	H29.7.7	当地区の空き家に子どもたちが中に入ると危ないので適切に管理して欲しい。また、空き家の屋根から雪が落ちて道路が埋まってしまうのが一番困るので、対策を検討して欲しい。	
310		市民意見交換会 船沢地区	H29.7.11	空き家対策が問題と考えるので、空き家対策の状況や実態、対応方法について、どうなっているのか教えてほしい。	
311		市民意見交換会 時敏地区	H29.7.13	弘前は住みやすいが、小さなスーパーがなくなるなど生活環境にも課題があると思う。	
312		市民意見交換会 時敏地区	H29.7.13	追手門側の整備はかなり行われており、亀甲門側も仲町の道路舗装や電線の地中化などの整備も行われてきているが、次期計画においては、弘前公園北側の整備に継続して取り組むよう記載して欲しい。	
313		市民意見交換会 時敏地区	H29.7.13	伝建地区等で空き家が目立ってきているので、空き家条例の中で、景観の問題についてもあわせて進めて欲しい。	
314		市民意見交換会 時敏地区	H29.7.13	空き家については当町会(笹森町会)でもだいぶ目立っている。生垣にサワラを植えている家もあるが、管理が行き届いていないところもあり、危惧している。	

各種市民意見分野別一覧
【まちづくり】

No.	政策	会議名	年月日	意見	団体名
315	Ⅱ 都市環境	市民意見交換会 和徳学区	H29.7.18	弘前は函館と同じく、景観まちづくり刷新モデル地区の10都市に指定されたと聞いたが、それを知らない人がたくさんいるので、弘前は住みやすいところなんだということも含め、もっと大々的に宣伝して欲しい。	
316		市民意見交換会 下町地区	H29.7.22	放置されている空き家の所有者に対して、市から管理を促す等の対応をして欲しい。	
317		市政懇談会 朝陽地区	H29.7.27	市の空き家対策について、非常に心強く感じている。今後も市と協力してやっていけたらと思う。	
318		市政懇談会 朝陽地区	H29.7.27	東北では弘前だけが景観街づくり刷新モデル地区に指定されたので、住民を巻き込んで、協力して取組を進めていって欲しい。	
319		市民意見交換会 豊田地区	H29.7.28	空き家・空き地に関して、持ち主や親族が死亡したことによって相続の関係が非常に複雑になり、売買出来ない状況がある。これは全国的にも問題になっており、今後もますます増えていくと思うので、行政として強力な対応を国と連携するなどして考えて欲しい。	
320		市民意見交換会 豊田地区	H29.7.28	弘前で育った子どもが、ここで学び、活躍し、子育てするような好循環になるまちづくりをやっていかないといけないと思う。働く場を構築し、技術的に確立していないところには慌てて手を挙げたりしないで、弘前の特徴である農業や桜、岩木山、水が活かされたまちづくりを進めて欲しい。	
321		市政懇談会 桔梗野地区	H29.8.10	市全体として子どもたちの遊べるところがなくなっていると思う。野球場もできたのに、公園は遊具使用禁止になっていて、ただのオブジェ化している。公園を他の用途にするのではなくて、遊具を維持するなど、観光よりも今住んでいるところを大事にして欲しい。	
322		市政懇談会 桔梗野地区	H29.8.10	藤田記念庭園の茶室や洋館などの利活用をもっとうまくやって欲しい。市民からいらなくなったお茶道具を寄附してもらい、お茶会をやれば外国人の来場が期待できるのではないかな。	
323		市政懇談会 桔梗野地区	H29.8.10	市内の雑草が生えるところにルピナスを植えてはどうか。	
324		市民意見交換会 清水地区	H29.8.18	樋ノ口、早稲田、安原、樹木など郊外に点在する商業施設を中心とした循環バスと、各商業施設をつなぐ循環バスを通勤・通学に合わせた時間帯に走らせるなど工夫して、免許の返納で増える交通弱者が買い物に困らないようにして欲しい。	
325		市民意見交換会 清水地区	H29.8.18	弘前の豊かな自然、風景を売り物にする施策がないと思う。弘前の大きな柱として、農地などで形成される風景をつくる施策を考えて欲しい。	
326		市民意見交換会 清水地区	H29.8.18	電車は雪にも強いという特性を活かして、弘南鉄道の沿線に賑わいを生むような活性化策を実施すべきではないかな。	
327		市政懇談会 文京地区	H29.8.21	「危険」テープが貼られた遊具については、ほかの公園では、そのまま放置されている状況が見受けられる。できれば、早めに撤去して、同様の遊具を新設して欲しい。「こどもたちの笑顔あふれるまち」を目指すのであれば、ぜひ対処して欲しい。	
328		市民意見交換会 一大地区	H29.8.23	従来の美術館というのは、高価な作品を展示して集客するという性格が強いと思うが、弘前のレンガ倉庫の美術館はそうではなく、若い市民の作品を常に展示したり、緑地では子どもたちが思い切り遊べるよう遊具を設置するなどして、あまりお金をかけないで、子どもたちや若い人たちに負担をかけないように市民の憩いの場として整備して欲しい。	
329		市民意見交換会 一大地区	H29.8.23	弘前公園の植物園の手入れが行き届いておらず、年々荒れていっていると感じる。また、濠の蓮の花もレンコンとして活用できるのではないかな。	
330		市民意見交換会 一大地区	H29.8.23	弘前公園は、日本一の桜の名所であるので、せめて弘前公園の周辺だけでも、電線の地中化やバリアフリーをすすめて、市民も観光客も安心して公園の桜が楽しめる環境を整備して欲しい。	
331		市政懇談会 三大地区	H29.8.28	高齢化が進んでいるが、バス路線も減少している。市内中心部なのに、市役所や大学病院に行くには上土手まで行かないとバスに乗れないので、土手町を走っているようなミニバスを空白時間に回して欲しい。	
332		市政懇談会 三大地区	H29.8.28	公共交通について、診療所やタクシー会社などと連携して、ワンボックスカーで病院やスーパーを循環するような仕組みを作って欲しい。バスよりもよいのではないかな。	
333		市政懇談会 藤代地区	H29.8.29	当地区は人口が10年で2割減少したが、地域を発展させて、人口減少を緩やかにしていくことはできると思うので、次期総合計画で当地区の活性化について検討して欲しい。	
334		市政懇談会 藤代地区	H29.8.29	運転免許を返納しようと思っているが、冬は車が貴重な足になるので、返納した場合、バスの利用券を1年分発行してもらうなどの取組を考えて欲しい。	

各種市民意見分野別一覧
【まちづくり】

No.	政策	会議名	年月日	意見	団体名
335	Ⅱ 都市環境	市政懇談会 藤代地区	H29.8.29	スマートシティ、コンパクトシティを考えているのは非常に良いと思う。高齢化社会ではコンパクトシティが良いと思うが、カントリーシティとしての視点での取組も計画に入れてほしい。	
336		団体意見交換会 住環境分野	H29.7.13	平川市に移り住む傾向があると聞いているが、土地単価に10万ほど差があることが要因ではないか。	不動産協会
337		団体意見交換会 住環境分野	H29.7.13	坪数の小さい建売住宅が最近市内に増えている。また家賃の安い賃貸住宅で、近くに銀行やホームセンターなどがある地域には高齢者が多く住んでいると感じている。	宅建取引業協会
338		団体意見交換会 住環境分野	H29.7.13	最近土地に対する予算を抑えて、建物にお金をかける傾向にあるため、郊外に住宅を求める傾向があると感じている。	宅建取引業協会
339		団体意見交換会 住環境分野	H29.7.13	昂団地のように緑があり、雪対策がしっかりしていれば、市街地でも需要があるのではないか。	宅建取引業協会
340		団体意見交換会 住環境分野	H29.7.13	一町田地区は住人が増えており、住民の希望に沿った町会イベントを実施していて若い参加者も多い。	公共交通会議
341		団体意見交換会 住環境分野	H29.7.13	現在の税制では更地にすると固定資産税があがってしまい、それが原因で空き家の解体が進んでいない面があると考え。	宅建取引業協会
342		団体意見交換会 住環境分野	H29.7.13	郊外地域の空き家は売れずに古く危険になっている物件も多い。また空き地も単価が安くても面積が広いので高額になり売れない場合が多い。	宅建取引業協会
343		団体意見交換会 住環境分野	H29.7.13	早稲田や城西のような学校・スーパー・病院が近く利便性の高い場所を求めていると考える。	宅建取引業協会
344		団体意見交換会 弘前ユースサミット	H29.10.16	人口減少については、お年寄りの世の中になることは現実として受け止めている。60・70歳で引退ではなく、更にその先もあるということが前提となるので、買い物、交通手段対策にもイメージネーションが必要ではないか。公共のバスの整備をしないと住みやすい街とはならない。中距離の移動には、運動もかねて、自転車で回遊してもらうため電動アシストの自転車を普及させるなどはどうか。	弘前ユースサミット
345	Ⅲ 生活基盤	団体意見交換会 住環境分野	H29.7.13	サービス付き高齢者住宅は家賃が高額となってしまう、市中心部では採算性がなく、郊外に建設される傾向にある。また、年金生活である高齢者にとっては、市中心部や居住誘導区域内の住宅では家賃が高く居住は困難だと考える。	不動産協会
346		第2回Myひろさき創生市民会議	H28.8.27	【話し合いテーマ:こんな弘前になりたいいな！】 【グループ発表タイトル:交通がよくなる(ソフトもハードも)】 冬期、高校生はバスで移動するしかなく、料金が高くなるので遠くまでは行けず、電車賃も高い。市内全体に100円バスが普及すればよい。危険な道を減らし、自転車専用道路をつくる。	
347		市民意見交換会 城西地区	H29.6.18	歩道や公共施設のバリアフリー化や景観を良くするため電線の地中化に早急に取り組んで欲しい。観光客も高齢化しているため、高齢者や障がい者でも苦勞なく観光を楽しめるまち、地元の人もそういう心得をしている印象のまちにするためには、住民の心のバリアフリーもさることながら、街自体もそういう環境づくりをしていくべきだと思う。	
348		市民意見交換会 城西地区	H29.6.18	過去の茂森の道路整備の時に、水道、ガス、電線を掘ったり埋めたりと時間がかり、商売にも影響が出たので部局間でもう少し連携するなどの対応を検討して欲しい。	
349		市民意見交換会 裾野地区	H29.6.24	当地区には公衆トイレがないため、知らない人が急にトイレを貸してくれと来たことがあるので、3か所ほどトイレ休憩するところを作って欲しい。	
350		市民意見交換会 高杉地区	H29.6.29	駅前方面および農村部方面最終バスの繰り下げや、一部時間帯、一部路線に集中しているバスを少ない時間、少ない路線に振り分けるなど、農村部のバスのダイヤを利用しやすい時間帯に変更して欲しい。	
351		市民意見交換会 船沢地区	H29.7.11	りんごが痛むので、道路の全面舗装をして欲しい。	
352		市民意見交換会 新和地区	H29.7.14	やまなみロードは、軽トラックでりんごを運ぶときセカンドでないと坂を上がっていきず不便。弘果に行くにしても、35～40分はかかる。また、市立病院再編の話があるが、市北部には病院がほとんどなく、南側に偏っているため、救急車が中心市街地の病院まで行くにも40分はかかると思うので、中心市街地まで20分で行けるバイパスが欲しい。	

各種市民意見分野別一覧
【まちづくり】

No.	政策	会議名	年月日	意見	団体名
353	Ⅲ 生活基盤	市政懇談会 東地区	H29.7.24	道路管理は自治体、通学道路は教育委員会、信号は公安委員会と管轄が異なると思うが、一緒に協力して市内の信号がない危険箇所に信号を増やして欲しい。	
354		市政懇談会 朝陽地区	H29.7.27	道路の異常を早期に発見するため、パトロールしている警察や郵便局の配達員、タクシー運転手、ゴミ収集車に、道路状況を市役所に報告してもらうような協定を結んではどうか。	
355		市民意見交換会 豊田地区	H29.7.28	高齢者の免許返納について、返納した本人に対する支援や、その配偶者に対する支援の拡充を検討して欲しい。	
356		市政懇談会 桔梗野地区	H29.8.10	観光館前の街路樹の草が手入れされてなく見苦しかったので、予算があれば市内の歩道の街路樹を埋め立ててしまえばどうか。	
357		市民意見交換会 清水地区	H29.8.18	今後の弘前を考えたときに、岩木川を中心に考えるべきではないか。岩木川には橋が少ないので、立派な橋梁を建設すれば、企業誘致もしくなるのではないかな。	
358		市政懇談会 藤代地区	H29.8.29	道路維持課へ「側溝蓋上げ機」を借用に行けば、先客があり、「ありません」と断られることが毎回で、このような状態では、町民が協力しながら「やろう」という気になっているのに意欲がわなくなり、市にやってもうしかなくなってしまいますので、いつでも借りに行った時にはすぐに貸せるようにして欲しい。	
359		団体意見交換会 住環境分野	H29.7.13	通学時の送迎における、自家用車の利用を抑制すれば、公共交通機関の利用が増え、同時に渋滞の解消にもつながるのではないかな。	大鰐線存続戦略協議会
360		団体意見交換会 住環境分野	H29.7.13	公共交通機関の運転手の挨拶などの言葉がけは非常に大切なことであり、言葉がけをしてくれる公共交通であれば利用者も増えると思う。	大鰐線存続戦略協議会
361		団体意見交換会 住環境分野	H29.7.13	学校の統合などで、スクールバスは増えているが、路線バスと経路が重複するため、運転手の確保が今後問題となってくると考える。	弘南バス
362		団体意見交換会 住環境分野	H29.7.13	今後、高齢化により免許返納者が増えることなどを考えると、幹線をバスが運行し、支線をコミュニティバスやタクシーなどで補うなどの利便性を考えた取組が必要ではないかな。	弘南バス
363	Ⅳ エネルギー・環境	団体意見交換会 住環境分野	H29.7.13	免許返納をおこなった高齢者に、ICカードを活用した助成を実施している自治体もあるので、弘前市でも前向きに検討して欲しい。	弘南バス
364		団体意見交換会 住環境分野	H29.7.13	公共交通機関を利用した通学にインセンティブをつけるような制度を市に検討して欲しい。	弘南バス
365		市民意見交換会 東目屋地区	H29.6.20	町会連合会でゴミ袋の販売に関する収益が低下しているため、今年度から一世帯20円を負担金として負担してもらうことになったので、今後指定ゴミ袋を導入する際には、各世帯の負担金がこれ以上増額とならないように、町会連合会の収益となる販売方法を検討して欲しい。	
366		市民意見交換会 東目屋地区	H29.6.20	指定ゴミ袋を導入するにしても、既存のゴミ袋の在庫などもあるので、猶予期間を設けるなど配慮して欲しい。	
367		市民意見交換会 堀越地区	H29.6.27	ごみの問題について、市では毎戸収集する意向はないのか。毎戸収集をしないのであれば、監視・管理のできるステーションを設置するなどすれば、不正が解消されると思う。	
368		市民意見交換会 時敏地区	H29.7.13	平成25年の台風による大雨の際に寺沢川が増水し、氾濫しかけたのは河川の雑草が一因ではないかと思うので、適正に管理して欲しい。	
369		市民意見交換会 新和地区	H29.7.14	道路の法面の草刈りを見ていると、やたら大きな草刈り機で来て、作業に手間取っている。業者に頼んで背負うタイプのもを使った方がスムーズにきれいになれるのではないかな。	
370		市政懇談会 二大地区	H29.7.19	指定ゴミ袋の導入に関連して、これまでは指定ゴミ袋の販売を各町会が努力し、その結果、連合町会が潤っている状態なので、今までどおりの組織力などを活かしていく方法を検討して欲しい。	
371		市政懇談会 二大地区	H29.7.19	指定ゴミ袋の導入について、ゴミ袋の値段を業者に任せて、非常に高くなるようであれば、無地のごみ袋に町会名などの必要事項を記入することも許可するなどの対応を検討して欲しい。	

各種市民意見分野別一覧
【まちづくり】

No.	政策	会議名	年月日	意見	団体名
372	IVエネルギー・環境	市政懇談会 二大地区	H29.7.19	土淵川の改修後管理が行き届いていないので、危険箇所の点検改修や草木の除去を進めて、親水したくなるような土淵川にして欲しい。	
373		市政懇談会 二大地区	H29.7.19	吉野町緑地はじめ、犬が散歩できる公園ではリードにつなぎましようとなりますが、マナーとしてではなく、はっきりとルールとして掲げるべきだと考える。	
374		市政懇談会 二大地区	H29.7.19	猫の飼育管理をしっかりして欲しい。神戸市などのように、不妊治療などを市が負担するような取組を検討するなど他の家に迷惑をかけないような地域づくりをして欲しい。	
375		市政懇談会 東地区	H29.7.24	ごみが少しずつ減ってきているといっているが、指定袋にするのではなく、もう少し経過をみてもらい、努力してごみを減らしていくことをして欲しい。	
376		市政懇談会 東地区	H29.7.24	ごみ出しのルールを守らない不心得の人が一部いるので指定袋という話だったが、ほとんどの人はまじめに出している。ごく一部の話を普遍化するのは行政のあり方としても本末転倒だと思うので、その点は考慮して欲しい。	
377		市民意見交換会 豊田地区	H29.7.28	ごみ集積所を新規に市で買い上げまたは借上げ、固定資産税の減免などをして、ごみ集積所を公設とすることを提案する。最終的な管理責任を町会から市に移管して欲しい。そうすれば、町会未加入の住民も含め、市民の誰もが利用しやすくなり、ごみ出しマナーをめぐる住民の対立も解消されるのではないかな。	
378		市政懇談会 桔梗野地区	H29.8.10	ごみはお盆に多く出るので、おはぎでなく、お米やりんごを供えるという習慣にすれば、ごみが減るのではないかな。	
379		市政懇談会 桔梗野地区	H29.8.10	土淵川は蜚がたくさんいて見に来る人が大勢いるので、生活圏で蜚が見れるまちを目指してはどうか。	
380		市民意見交換会 清水地区	H29.8.18	ごみの減量化やカラス対策として、燃えるごみと生ごみを分別する必要があると考える。生ごみを分ければコンパクトになり、今の大きい収集ボックスでなくてもいいし、経済的にも良くなるのではないかな。	
381		市政懇談会 文京地区	H29.8.21	土淵川(弘盛橋より上流)について、ペットボトルやゴミ袋などの投棄が増加し見苦しいので、河川清掃及び河川内の美化を5～8年計画でやれないか検討して欲しい。	
382		市政懇談会 石川地区	H29.8.22	昔は青年団が草や林を刈っていたので大仏公園から石川地区全体が見渡せたが今は見えなくなり残念に感じている。	
383		市政懇談会 藤代地区	H29.8.29	指定袋にごみを出した人の番地などを記入するようにして欲しい。集積場を見ると色々なごみを混ぜて出す人がいるが、個人を特定できる出し方とすれば、責任ある出し方をしてくれるのではないかなと思う。	
384		市政懇談会 藤代地区	H29.8.29	ごみ減量化推進委員になったとき、ジャンパーと帽子、腕章を配布されたが、ジャンパーよりも、年に1度でよいので、ゴム手袋を配布して欲しい。	
385		市政懇談会 藤代地区	H29.8.29	不法投棄する人は住所も名前も書かずに人が見ていないときに捨てるので、暫定的にでも、市の職員が2ヶ月くらい集積場に張り付いてみたらどうか。	

自動計算

132

自動計算一

各種市民意見分野別一覧
【なりわいづくり】

No.	政策	会議名	年月日	意見	団体名
386	I 農林業 振興	市民意見 交換会 城西地区	H29.6.18	個々の経営者が一つのグループとして企業化することによって農業経営の安定化が図られると思う。そうすることで、休日を規則的に取れるようになり、若者が担い手として希望を持てるようになるのではないかな。また、他の人が売っていない時期に販売したり、収穫量、販売方法の見直しなど知恵を出し合って、付加価値を高めることができ、収入増となっていくのではないかな。	
387		市民意見 交換会 城西地区	H29.6.18	農産物の価格は安ければいいというのではなく、ブランドの価値を高めるような価格づけも大事だと思う。そうでなければ農業所得、市の財政状況はよくなっていかず、市が国からの交付金に頼らず自立していく意味でもブランド化は非常に大事だと思う。	
388		市民意見 交換会 城西地区	H29.6.18	弘前は観光資源を見ていってというばかりで、泊まって物産を買ってくださいという政策ではないと思う。おいしいりんごをおみやげとして気軽に買える場所がないと感じるので、将来のことを考えるのも大事だが2、3年先のことを考え、このような現実に対する政策も大事ではないかな。	
389		市民意見 交換会 東目屋地区	H29.6.20	りんご公園を観光施設だけでなく、生産者にとってもりんご栽培の指導拠点も兼ねた複合的な施設としてはどうか。	
390		市民意見 交換会 東目屋地区	H29.6.20	放任園対策や労働力不足、後継者及び新規就農者支援への強力な対応が何より必要と思う。	
391		市民意見 交換会 東目屋地区	H29.6.20	当地区は市街地から遠く、農作業に従事する労働者を募集してもなかなか来てくれないのが現状なので市役所のOBの方などが援農に来てくれば大変助かる。	
392		市民意見 交換会 裾野地区	H29.6.24	耕作放棄地の草刈に対する対策をして欲しい。大型のキャビン付き草刈機を市で買って、農家に安く貸せる(使える)制度があればよいと思う。	
393		市民意見 交換会 裾野地区	H29.6.24	熊の目撃情報が増えており、裾野小学校の方に熊が向かった時も警察は人的被害や農作物の被害がないとのことで対応してくれなかった。熊はカラスと違って人的被害の可能性のある動物なので、市で何かしらの対策を考えて欲しい。	
394		市民意見 交換会 堀越地区	H29.6.27	農業は今、非常に厳しい状況にある。具体的に何をすべきというはわからないが、とにかく頑張ってもらいたい。	
395		市民意見 交換会 高杉地区	H29.6.29	地区には地区のしがらみがあり、市政懇談会で各地区から出た要望に順次対応していくのでは時間がかかるので、りんごの生産量拡大のため、りんご課が先頭に立って、地域ごとに農道の整備をすべきと考える。また、市長がトップセールスをやっているが、平均価格維持のため、県やりんご対策協議会、りんご協会など色々なところと強力に連携して、もっと輸出を増やしていく必要があると思う。	
396		市民意見 交換会 高杉地区	H29.6.29	ヘリコプターで薬剤散布をやっているような水田の大規模な改良事業やりんご栽培の効率化・省力化の方法も検討して欲しい。また、高齢化に伴い、農作業に関する事故も多くなっているため、その対策も必要だと思う。	
397		市民意見 交換会 和徳地区	H29.7.7	りんごの市場ではトレーサビリティ登録の費用として1箱17円とることになり、業者も東京の業者に依頼し6,000万円もかかると聞いた。行政が音頭をとって地元業者を使って、市場を運営していくべきではないかな。	
398		市民意見 交換会 船沢地区	H29.7.11	農家の一番の悩みは労働力不足であり、深刻な問題。	
399		市民意見 交換会 船沢地区	H29.7.11	以前、細越山にあるスターキングの植栽10周年の記念碑をりんご公園に移設出来ないか要望し、その際はりんご公園のリニューアルに合わせて検討しているという回答だったが、進捗状況等を教えて欲しい。	
400		市民意見 交換会 相馬地区	H29.7.20	りんご農家で人手が欲しい期間は、5月から11月末の7ヶ月であり、通年で人を雇用できるのは大規模農家に限られてくると思う。小規模農家でも必要な時期に人材を派遣してもらえるシステムを構築して欲しい。	
401		市民意見 交換会 相馬地区	H29.7.20	空き家を利用した農家レストラン、またはこぎん刺しなどの指導を土日だけでも良いのでやって欲しい。オーナーは一般公募で、状況によっては平日営業も良いと思う。	
402		市民意見 交換会 下町地区	H29.7.22	農業の法人化を進めるような考えを持つ若い人を増やしていく必要があると思う。また、作業の効率化が期待できると思うので、企業の農業参入を促してはどうか。	
403		市民意見 交換会 北地区	H29.7.25	シードルは今、非常に注目されているので、健康食品であるシードルを基幹に据えて、さらに力を入れて取り組んで欲しい。	
404		市民意見 交換会 北地区	H29.7.25	りんご農家の高齢化が進んでいることから、会社などの組織としての経営が考えられるのではないかな。就職の受け皿にもなると思うので、行政として仕組みをつくる必要があるのではないかな。	
405		市政懇談 会 朝陽地区	H29.7.27	カラスについてはいろいろ対策しているが、キジについても農作物に被害がある。	

各種市民意見分野別一覧
【なりわいづくり】

No.	政策	会議名	年月日	意見	団体名
406	I 農林業 振興	市政懇談会 桔梗野地区	H29.8.10	弘前のりんごは世界一美味しいのでさらに輸出の取組を進めていって欲しい。	
407		市民意見交換会 清水地区	H29.8.18	米、りんごの6次産業化を一体的にすめ、生産、流通、販売における人材育成を全体的に考えて、計画的に取り組むべきではないか。一個人、一企業ではできない大きな計画に市で取り組んで欲しい。	
408		市民意見交換会 一大地区	H29.8.23	「クラブアップル」という花も実もきれいな観賞用のりんごがある。温暖化の影響で、ゴールデンウィークには葉桜になってしまっていることが懸念されるので、弘前公園の桜からりんご公園へと花を連動させて、花見客を滞在させるように、「クラブアップル」の品種をうまく活用してはどうか。	
409		市民意見交換会 一大地区	H29.8.23	弘前は、日本一のりんごの生産地であるので、将来的には、世界中のりんご産地の人が弘前に集まる「りんごサミット」の開催を検討してはどうか。	
410		市民意見交換会 一大地区	H29.8.23	りんご公園の活用については、県りんご協会と連携し、りんご協会に管理してもらうことなども検討してみてもどうか。専門技術を持ったりんご試験場のOBなどがボランティアとしており、協力体制もある。	
411		市政懇談会 千年地区	H29.8.24	町会で昭和35年に国有林を管理する組合を作り、55年経てば売却して、国が2割、市が3割、残りを組合の収益にすると決めたが、平成27年に期間満了となったが売れなかったのも、良い方法がないか検討して欲しい。	
412		市政懇談会 千年地区	H29.8.24	りんご畑の放任園に係る対応が遅いので、相談されたら1ヶ月以内に対応して欲しい。腐らん病については良い薬がないので、地域から情報があつたら、すぐ対応して欲しい。もちろん地域と一緒に取り組むことが大事だと思う。	
413		市政懇談会 三大地区	H29.8.28	りんご公園へ自転車で行ったら、駐輪場の看板はあるが、駐輪できる状況ではないと感じた。観光客もたくさん来るし、高価な自転車は固定されているものと一緒に鍵をかけないと盗難にあうかもしれないので、対応を検討して欲しい。	
414		市政懇談会 藤代地区	H29.8.29	環境整備事務組合の建物では、発電していて、その電気を売っていると聞いたが、その際の排熱を活用して、イチゴ、高糖度のトマトやスイカを栽培するなど農業部門で活用してはどうか。	
415		団体意見交換会 農林分野	H29.7.5	農地は、高齢者が辞めていく中、若い人に集約され、若い人の栽培面積が増えているところもある。扱うりんごの量が増え、運果、運搬など担い手の作業の負担が大きくなっている中、若い人をいかにフォローできるかが重要だと考える。	津軽みらい農協
416		団体意見交換会 農林分野	H29.7.5	労働力を今のところ確保できている方でも、作業員は60・70歳代の方が多いので、労働力確保に関して策を練っていく必要があると思う。	相馬村農協
417		団体意見交換会 農林分野	H29.7.5	組合員の高齢化に伴う離農や耕作放棄地が増加傾向にある。集落営農組合の法人化や若手への営農支援による耕作放棄地解消に取り組んで行きたいと考えている。	つがる弘前農協
418		団体意見交換会 農林分野	H29.7.5	高齢化、担い手不足、耕作放棄地の問題は避けて通れないので、この速度を出来るだけ抑制するという視点に立ち、8～10年後にゆっくりとした減少となるやり方を考える方がいいのではないかな。	弘前市認定農業者連絡協議会
419		団体意見交換会 農林分野	H29.7.5	青年部等がより活発に活動していけるような環境を作ることが若い人を育てることにつながると思う。	ひろさき広域農業 共済組合
420		団体意見交換会 農林分野	H29.7.5	りんご協会がりんご公園を管理するということを提案したい。りんご協会でも、色々な担い手育成事業を行っているが、個別に畑を借りて事業を行っている状況なので、担い手育成等の事業をりんご公園で出来るようになればよいと思う。	青森県りんご協会
421		団体意見交換会 農林分野	H29.7.5	農家でも一定の休みがあるとか、働き方改革の必要性があると感じている。確かに農繁期は大変だが、その中でもあっても、法人化により規則を定めれば、若い人も一般の会社に勤めるように、就農するのではないかな。	弘果弘前中央青果株式会社
422		団体意見交換会 農林分野	H29.7.5	毎年りんごの価格は変動するが、長い目で見て、サラリーマンの収入と同様に賃金・収入の向上がなければいけない。そのための取組として、さらに輸出を増やしていく必要があると考える。台湾だけではなく、飽和状態なので、発展性のある、ベトナム、タイ、インドネシアなどへの輸出に力を入れる必要があるのではないかな。また、新規開拓には資金が必要であるため、行政のバックアップが必要と考える。	弘果弘前中央青果株式会社
423		団体意見交換会 農林分野	H29.7.5	人口減少ということは消費する人間も減っていくことなので、産地を維持するためには、販売先を日本だけではなく、海外をも広げていく必要があるが、ベトナムなど有力な国は、行政の働きが必要な規制が多い。輸出に関しては各国の考え方があるので、国、県へ働き掛けて欲しい。	弘前りんご商業 協同組合
424		団体意見交換会 農林分野	H29.7.5	認定農業者のメリットが薄いと感じている。やる気がある後継者がいても、認定農業者のメリットがないため、成り手がいないのではないかな。メリットを享受できる仕組みが欲しい。	岩木町認定農業者 連絡協議会
425		団体意見交換会 農林分野	H29.7.5	法人化すれば農地等が集まってくると思うが、人をどのように補っていくかということが深刻なので、そういったことに目を向けて、モデル地区を作るなど取り組んでみればよいのではないかな。	南まごころ農場

各種市民意見分野別一覧
【なりわいづくり】

No.	政策	会議名	年月日	意見	団体名
426	Ⅰ 農林業 振興	団体意見 交換会 農林分野	H29.7.5	人を減らさないよう緩やかに廃業、経営移譲を進めながら、海外に販路を向けて所得を上げて、魅力ある産業として確立できれば若い人が増えると思う。	旬ゆめりんご
427		団体意見 交換会 農林分野	H29.7.5	新たにりんご農家になりたいという人が出たときにそれを受け入れる体制になっていないことが一つの問題だと思う。ゼロからの人を養成する取組も必要ではないか。	弘前シードル研究会
428		団体意見 交換会 農林分野	H29.7.5	子どもたちへの農業体験、教育も必要と思う。せん定、摘花、摘果を小さい頃から経験した子どもたちの中から就農を目指す子どもが出てくればいいと感じる。	弘前里山ツーリズム
429		団体意見 交換会弘前 ユースサ ミット	H29.10.16	仕事が多いと人が集まってくるので、なりわいづくりが大事だと思う。弘前ならではの視点では、りんごが重要であり、りんごに関する新しい仕事を増やしていけば、人口の流出も止まり、県外からも人が来るようになるのではないか。	弘前ユースサミット
430		団体意見 交換会農業 団体女性	H29.10.19	グリーンツーリズムが農家の副収入になればよいと考えている。平川では50万円を申告できる人もいると聞いているので、弘前でもできるはずだと思う。受入となると負担ではあるが、弘前の生きざまを見せ、活性化につなげたいと思う。	農業団体女性
431	Ⅱ 観光振 興	第2回My ひろさき創 生市民会 議	H28.8.27	【話し合いテーマ：こんな弘前になったらいいな！】 【グループ発表タイトル：観光とイベントで商業がよくなる】 弘前の伝統的なお祭りや、自然・景観などを利用した新しいイベントがあればよい。	
432		第2回My ひろさき創 生市民会 議	H28.8.27	【話し合いテーマ：こんな弘前になったらいいな！】 【グループ発表タイトル：伝統文化をおおらせようぜ！】 弘前には弘前城、弘前公園、津軽為信など様々な伝統文化があるが、外国人観光客などは、モノを見るのではなく伝統文化の作られている工程を見たり実際に体験して楽しみたいのではないか。弘前に来た観光客に、弘前にしかない伝統文化を実際にかおらせ（発信し）、実際に感じてもらう＝かおってもらう。	
433		第6回My ひろさき創 生市民会 議	H29.3.11	【話し合いテーマ：「まちづくり・なりわいづくり」での新たな「はな」（新たな価値・魅力・資源等）は？】 【グループ発表タイトル：「あるもの活かし」資源の有効活用】 観光資源や農産物のPR強化。	
434		第6回My ひろさき創 生市民会 議	H29.3.11	【話し合いテーマ：「まちづくり・なりわいづくり」での新たな「はな」（新たな価値・魅力・資源等）は？】 【グループ発表タイトル：「あるもの活かし」コラボ（連携）による振興】 近隣市町村間での地域間連携を強化することで観光振興・経済活性化につながる。	
435		第6回My ひろさき創 生市民会 議	H29.3.11	【話し合いテーマ：「まちづくり・なりわいづくり」での新たな「はな」（新たな価値・魅力・資源等）は？】 【グループ発表タイトル：「あるもの活かし」市民の意識改革】 バスツアーや博物館等のガイドツアーを観光客だけでなく、市民向けにも活用する。	
436		第6回My ひろさき創 生市民会 議	H29.3.11	【話し合いテーマ：「まちづくり・なりわいづくり」での新たな「はな」（新たな価値・魅力・資源等）は？】 【グループ発表タイトル：夜にちなんだ新たな取組】 夜空をテーマにした写真コンテストや夜景を見ながら飲食する等の新たな取組でにぎわい創出。	
437		第7回My ひろさき創 生市民会 議	H29.3.26	【話し合いテーマ：「オール弘前体制」でまちづくりを進めるための新たな「はな」（新たな価値・魅力・資源等）は？】 【グループ発表タイトル：「活きた町会」まじりの進化】 伝統を守るだけでなく、新しいことを取り入れていく必要がある。観光客がねぶたまつりに参加できる仕組みづくり。	
438		第7回My ひろさき創 生市民会 議	H29.3.26	【話し合いテーマ：「オール弘前体制」でまちづくりを進めるための新たな「はな」（新たな価値・魅力・資源等）は？】 【グループ発表タイトル：「津軽イノベーション」地元の資源の発掘と活用】 ねぶたや歴史など地域資源の活用。空き家を観光客向けのゲストハウスに活用し、宿泊場所の確保を図る。	
439		第7回My ひろさき創 生市民会 議	H29.3.26	【話し合いテーマ：「オール弘前体制」でまちづくりを進めるための新たな「はな」（新たな価値・魅力・資源等）は？】 【グループ発表タイトル：「津軽イノベーション」ホントはアツイ津軽魂】 保守的な気質がある反面、ねぶたに代表されるようにため込んでるエネルギーはある。	
440		市民意見 交換会 岩木地区	H29.6.1	当地区にはいい観光資源があるが、活かされていなくて感じている。個々の施設では老朽化や後継者不足などの問題も抱えているので、それを踏まえ地元住民と担当課との交流も含めて取組を進めて欲しい。	
441		市民意見 交換会 東目屋地 区	H29.6.20	清水観音は、津軽三十三観音や津軽一代様など観光資源として更なる活用が可能と考えるが、駐車場がないので、大型バスが入れる駐車場や土産物屋があれば観光振興につながるのではないか。	
442		市民意見 交換会 高杉地区	H29.6.29	りんごの剪定枝を暖かいところで水につけておくと花が咲くため、それを市役所やヒロロ、デパートなどに飾り、桜が咲く前に色々な場所でもりんごの花を見られる状態にすると観光資源になるのではないか。これを市が中心となり、様々なところと連携して取り組んで欲しい。	
443		市民意見 交換会 和徳地区	H29.7.7	日本一、世界一のさくらまじりのPRを次期計画でも大きく盛り込んで欲しい。	
444		市民意見 交換会 和徳地区	H29.7.7	つかの桜街道は市の北側からの玄関口であり、咲く時期が早いので、さくらまじりに来て桜が咲いていなかった観光客も、さくら街道を見て、来年は満開を見ようねといって帰ることができる。次期計画では、さくら街道をパンフレットなどで大きくPRするなどの取り組みを盛り込んで欲しい。	
445		市民意見 交換会 和徳地区	H29.7.7	弘前は、駅を降りても城下町の雰囲気あまり感じられない。りんご、さくら、工芸品など素晴らしいものがあるのに、街全体がそういうイメージに乏しい。紺屋町など昔からの地名が残っていることを、子どもたちにもっと教えていく必要があるのではないか。また、りんごや工芸品を売る場所はあると思うが、お客さんが来た時に気軽に買える場所がない。	

各種市民意見分野別一覧
【なりわいづくり】

No.	政策	会議名	年月日	意見	団体名
446	Ⅱ 観光振興	市民意見交換会 和徳地区	H29.7.7	ねぶたやりんごの木などを駅の近くに設置し、弘前駅を盛り上げるような取組をして欲しい。	
447		市民意見交換会 時敏地区	H29.7.13	中央高校口から出入りすれば、せっかく弘前城に来ているのに城門を一度もくぐらずに帰ることになるので、県を通して県内のバス会社との連絡会議等で東門に誘導するような運動を展開したり、東門への看板を設置するだけでもだいぶ違うのではないかと。	
448		市民意見交換会 新和地区	H29.7.14	三和・笹館地区は砂沢溜池の景色もすばらしく、写真家が一日に2人は来ており観光地としても富士見湖に負けないくらいすばらしいので、それをもっと活かした取組を進めて欲しい。	
449		市民意見交換会 新和地区	H29.7.14	夏に、岩木橋や茜橋から五所川原等まで、岩木川に屋形船を流して、岩木川を観光に活用してはどうか。	
450		市民意見交換会 新和地区	H29.7.14	他地区で出たりんごの剪定枝を観光に活かすという意見について、花が咲くなら売ったり、生け花用として全国展開してはどうか。華道の分野でも活用できるのではないかと。	
451		市民意見交換会 和徳学区	H29.7.18	高速道路や新幹線が出来る前は、北海道や他県から修学旅行生がよくきていたが、高速道路、新幹線が出来てからは修学旅行生が少なくなり寂しくなったと感じている。滞在型観光にしなければ地元にお金が落ちないため、知恵を絞って取り組んでいって欲しい。	
452		市民意見交換会 和徳学区	H29.7.18	ねぶたまつりについて、観光客にとって便利なのはホテルがある駅前であり、道路が広い北大通りに待機しているためゆっくり見られると思う。時代が大きく変わっているので、土手町3日間、駅前3日間の開催にしてはどうか。	
453		市民意見交換会 相馬地区	H29.7.20	市の施設、一般店舗、公園や観光施設など、市内のあらゆるところでWi-Fiが自由に使えるようになればよいと思う。	
454		市民意見交換会 下町地区	H29.7.22	ボランティアガイドをやっていることだが、誘客を促進する取組が必要だと思う。	
455		市民意見交換会 北地区	H29.7.25	つかの桜街道を通って弘前公園に向かうとワクワクするが、高速道路を下りて来る場合は、公園まで桜がないので、ワクワク感を増やして欲しい。弘前公園は桜以外に見るものがないと感じているので、桜が終わっても見れるものや楽しめるものがあれば、ゴールデンウィーク期間以外にも観光客が来るのではないかと。桜が終わっても、次に続くものを考えて欲しい。	
456		市民意見交換会 清水地区	H29.8.18	弘前公園以外にも弘前全体で、外国人観光客が理解できる案内板の設置やボランティアガイドの育成が必要ではないかと。	
457		市政懇談会 藤代地区	H29.8.29	春スキーで岩木山山頂から百沢に滑る爽快感は格別なので、パトロールの出入不足など色々な事情があったようだが、市の文化スポーツ振興課などが音頭をとって、人手不足を解消して欲しい。県外のスキーヤーを呼び込むような施策を検討して欲しい。	
458		団体意見交換会 観光分野	H29.7.3	インバウンドでの中国天津からの来訪者は昨年の傾向ではりんごやバナナなど体験できるものが大変喜ばれている。ただし最近では、物を買わない傾向があるが、雪やスキー、お城が好きらしいのでいかにお客を捕まえるのかという方策が必要ではないかと。	弘前観光コンベンション協会
459		団体意見交換会 観光分野	H29.7.3	来訪者の不満な点として夜買い物する場所がないと聞いている。ほとんどの店が午後5、6時で閉店してしまうのでお土産を買うことが出来ない。また、嶽温泉、百沢温泉へ行くアクセスが弱いと感じる。	弘前観光コンベンション協会
460		団体意見交換会 観光分野	H29.7.3	中国定期便の来訪者に食事をしてもらう際に大型バス1～2台で入れる飲食店が市内にほとんどない。国内旅行の団体も同じで市内ではねぶた村以外に食事できる場所は数えるほどしかないので、団体でバスを停めて食事する場所の対処も必要ではないかと。	弘前観光コンベンション協会
461		団体意見交換会 観光分野	H29.7.3	インバウンド関係では市立観光館で平成28年度から免税を実施しているが、観光ツアーのルートに入っていないので来店客のほとんどが個人の観光客という状態。また、食品では5千円以上の購入から免税対象となるが、現状では平均2千円ほどの購入実績のため免税の効果があまり出ていない。今後、外国人観光客が数多く来るということできっちり取り組んでいきたい。	弘前市物産協会
462		団体意見交換会 観光分野	H29.7.3	10年くらい前には北海道から大勢の修学旅行生が来てわたしたちがガイドをしたが、最近は修学旅行生が減ったと感じている。	弘前観光ボランティアガイドの会
463		団体意見交換会 観光分野	H29.7.3	四大まつりでは最終的に食に落とし込むことを意識してはどうか。弘前には美味しいものが多いがそこを絞り込んでアピール度を高める必要があるのではないかと。通年ではアップルパイが女性の心を鷲掴みにしていると思うので、アップルパイと言えば弘前と言われるくらいにしつこくアピールを続けて欲しい。	弘前ねぶた参加団体協議会
464		団体意見交換会 観光分野	H29.7.3	ねぶたまつりはランタンアートであり、扇ねぶたは美術品だと思うので、ねぶたまつりは屋外の美術展示館だということを海外の方にきちんと外国人目線でPRをすれば言葉がわからなくても伝わるのではないかと。	弘前ねぶた参加団体協議会
465		団体意見交換会 観光分野	H29.7.3	今年のさくらまつりは外務大臣と6か国の大使が来た。日本と国交のある国の方を毎年招待し、日本が世界に誇るさくらまつりとして各国の大使に伝えることでまつりの格が上がり箔がつくと思う。	弘前ねぶた参加団体協議会

各種市民意見分野別一覧
【なりわいづくり】

No.	政策	会議名	年月日	意見	団体名
466	Ⅱ 観光振興	団体意見交換会 観光分野	H29.7.3	温泉街の活性化を目的に様々な活動を行っているが、年々数が減って嶽温泉で13軒あった宿泊施設が現在稼働しているところは6軒となっており、後継者問題が一番の課題と感じている。	岩木山観光協会
467		団体意見交換会 観光分野	H29.7.3	この冬はバックカントリーのスキー客が最近で一番多かった。これからますます多くなっていくと思う。	岩木山観光協会
468		団体意見交換会 観光分野	H29.7.3	バックカントリースキーで八甲田から溢れた人が、青森市内ではなく雪があるところに行きたいということで嶽に来て。ロックウッドホテル(鯉ヶ沢町)が満室になって嶽温泉の宿泊施設にもスキー客が流れてきている。	岩木山観光協会
469		団体意見交換会 観光分野	H29.7.3	岩木地区の冬は閑散期なのでロックウッドホテルと連携した冬のイベントを計画しており、カンフル剤になればと思っている。	津軽岩木スカイライン
470	Ⅲ 商工業振興	第2回Myひろさき創生市民会議	H28.8.27	【話し合いテーマ:こんな弘前になったらいいな！】 【グループ発表タイトル:働きがい・雇用】 雇用が生まれる場所が必要。	
471		第3回Myひろさき創生市民会議	H28.10.8	【話し合いテーマ:「ひとづくり」での新たな「はな」(新たな価値・魅力・資源等)は？】 【グループ発表タイトル:ルイーダの酒場をつくろう！】 ドラクエに出てくる仲間との出会いと別れの場。勇者、賢者、魔法使いなどが集まるように、様々なジャンルの人が集まって仲間や助っ人を見つめる場が弘前にはまだ少ない。ルイーダの酒場をつくることによって、集まった人がそれぞれの専門性を活かしてビジネスが生まれていく。例)やわらば	
472		第6回Myひろさき創生市民会議	H29.3.11	【話し合いテーマ:「まちづくり・なりわいづくり」での新たな「はな」(新たな価値・魅力・資源等)は？】 【グループ発表タイトル:「ぬくもり(趣)のあるまち弘前」創る⇒活性】 遊び心を持った稼ぐためのモノ・サービス。	
473		第6回Myひろさき創生市民会議	H29.3.11	【話し合いテーマ:「まちづくり・なりわいづくり」での新たな「はな」(新たな価値・魅力・資源等)は？】 【グループ発表タイトル:弘前で夢を叶えよう】 豊富な農産物やカフェ、洋菓子店が多いなどの特徴と若者の力を活かして気軽に店を出せるような環境づくりや支援体制。	
474		第7回Myひろさき創生市民会議	H29.3.26	【話し合いテーマ:「オール弘前体制」でまちづくりを進めるための新たな「はな」(新たな価値・魅力・資源等)は？】 【グループ発表タイトル:「活きた町会」いいの場をつくる】 年配の方から若者まで幅広い年代が集うことで、年長者のアイデアで若者が事業を起こすようになる場所づくり。	
475		市民意見交換会 城西地区	H29.6.18	若く能力を持った人を流出させないため、IT産業や農業に関わる企業の企業誘致や地元企業の育成に力を入れるべきではないか。	
476		市民意見交換会 城西地区	H29.6.18	若者が流出するの晩婚化も、仕事や安定した収入がないからであり、自分の生活に自信があれば、晩婚化や流出は防げると思う。出会いの場を設けるという政策よりも、そういう基本的なことをもっと考えるべきではないか。	
477		市民意見交換会 城西地区	H29.6.18	企業誘致だけでは景気が変われば企業が出て行くだけなので、地元の資産になるような企業を増やしていく必要があると思う。	
478		市民意見交換会 堀野地区	H29.6.24	少子化は、所得が少なくなっており、安心して子どもを産み育てられないことが原因と考えている。市民の所得向上を目指す施策を打ち出して欲しい。	
479		市民意見交換会 堀越地区	H29.6.27	税金を考えると効果が大きいため企業誘致を進める努力が必要ではないか。また、学生の地元就職についても、勤めたくても勤める場所がないのが現状であり、高校生も同様。優秀な学生ほど県外へ流出しているため、製造業を誘致するべきと考える。	
480		市民意見交換会 堀越地区	H29.6.27	10年前、東部団地促進協議会を結成し、当時の市長に陳情した。立地的には悪くないと思うので、地域の活性化のためにもぜひとも当地区に工業団地を造成して欲しい。	
481		市民意見交換会 新和地区	H29.7.14	若い人を引き留めるためには農業も大事だが、大きな企業が必要だと思う。さくらまつりも日本三大名所の割にあまり人が来ないのは交通機関が理由だと思う。車は定員が決まっていて、交通渋滞も発生し利用者は車で来れる範囲の人に決まってくるが、電車であれば多くの観光客が利用できる。人口17万の観光都市、学園都市で新幹線がきていないのは弘前だけであり、新幹線と若者定住の問題には、やはり大企業が必要ではないか。	
482		市民意見交換会 和徳学区	H29.7.18	人口減少対策に対し一番大事なものは、働く場の創出ではないか。今もやっていると思うが、さらに力を入れてやって欲しい。	
483		市民意見交換会 和徳学区	H29.7.18	地元に関わる場を設けても、地元の企業での収入では奨学金を返せないこともあり、それが課題として大きいのではないか。	
484		市民意見交換会 和徳学区	H29.7.18	若者の流出が多く、仕事をする場がない。そして若者流出の繰り返し。地場産業の発展のための取組をやらないとこの傾向が続く、人口減少とともにますます高齢化の原因となるので、力をいれて取り組むべきではないか。	
485		市民意見交換会 和徳学区	H29.7.18	店をやっていた人が高齢化して店を閉め、後を継ぐ人がいないため空き家となり昔より寂しく活気がなくなる。和徳の商店街はそれが顕著なため、まちに活気を起こせるような対策が必要だと思う。	

各種市民意見分野別一覧
【なりわいづくり】

No.	政策	会議名	年月日	意見	団体名
486	Ⅲ 商工業振興	市政懇談会 二大地区	H29.7.19	市の将来人口が約13万人になるとしていたが、若者の定着が大切だと思う。企業誘致の文言が市の文書から消えたと思うが、市として企業誘致を検討しているのか教えて欲しい。	
487		市政懇談会 二大地区	H29.7.19	地元の会社や商店がなくなるなど弘前には働きの口がない。弘前に残りたい若者はいるが、高校出てすぐ他県にいくので、高校生にアンケートをとって将来像を聞いてみるのも大事だと思う。そういう声を吸い上げていけば、若者が残れるのではないかとと思う。	
488		市民意見交換会 相馬地区	H29.7.20	八戸せんべい汁、十和田バラ焼き、深浦マグステ丼などやっているが、弘前でもそういう風に開発できるものや部署はないだろうか。相馬エビはテレビでも紹介され有名になりつつあるので、マスコットなどを作ってさらなるPRを図るのはどうか。	
489		市民意見交換会 北地区	H29.7.25	若者の地元定着に関して、弘前市として企業誘致の動きは今どうなっているのか。働く場があれば、他県に流出せずに地元で働く若者も増えるのではないかと考える。	
490		市政懇談会 朝陽地区	H29.7.27	若い世代の結婚をサポートする施策などがあるが、若者の多くは出て行ってしまうので、企業の誘致なども考えて欲しい。	
491		市政懇談会 桔梗野地区	H29.8.10	弘前に就職したが所得が低い人に対して1万円を補助したり、弘前に就職が決まった人には海外研修に行かせるなど、弘前に就職することの魅力を創出することが必要であり、若者を弘前から出さないようにしないといけないと思う。	
492		市政懇談会 桔梗野地区	H29.8.10	津軽塗の箸は、丈夫だということをアピールしないと売れない。洋風のテーブルの脚だけ津軽塗にするなど、洋風の津軽塗を作るのはどうか。	
493		市民意見交換会 清水地区	H29.8.18	工学部などの技術系の大学を岩木方面に移転、あるいは誘致して、企業誘致につなげるなどしてはどうか。	
494		市政懇談会 文京地区	H29.8.21	次期計画には、弘南鉄道大鰐線沿線の土地に、工場、産業を誘致して欲しい。大々的に航空電子のような工場や農業施設、あるいは仙台のアウトレットのような商業施設でも構わないので誘致し、働く場所を大鰐線沿線に作って欲しい。	
495		市政懇談会 文京地区	H29.8.21	企業誘致が充実しておらず、産業がないことが弘前の弱点だと考える。以前は関東で働いており、定年後帰ってきたが、それなりに生活できる企業があれば、帰ってきたい人はいるはずだと思うので、働く場所の創出について、考えて欲しい。	
496		市政懇談会 石川地区	H29.8.22	産業用地の確保を目的に「弘前市立地環境整備検討委員会」が設置されたとのことだが、当地区を検討対象として欲しい。	
497		団体意見交換会 商工分野	H29.7.12	今年度から実施している当所会員事業所から直接声を聞く、「御用聞き活動」の中で中心商店街の方に聞いたところ、「さくらまつり期間中の商況はあまり変わらなかった」「来年度以降は中心商店街への波及効果を高めていきたい」「インバウンド対応も今年度以上の取組をしていくことにより、誘客をさらに強めていきたい」との話を聞いている。	弘前商工会議所
498		団体意見交換会 商工分野	H29.7.12	「弘前観桜会100周年事業実行委員会」において、来年度は今回の結果を踏まえて、さくらまつり期間中、商店街の街路装飾・販促セール・売り出しなどを実施していきたいという話を聞いている。	弘前商工会議所
499		団体意見交換会 商工分野	H29.7.12	さくらまつり時は、混雑してくると、ある程度桜を見たら次の目的地に行ってしまうという状況であり、桜を見に来る人は多いものの中心商店街まで流れて来ていないことが課題。	弘前観光コンベンション協会
500		団体意見交換会 商工分野	H29.7.12	インバウンドの観光客からは、夜、買い物をする場所がないという声がある。	弘前観光コンベンション協会
501		団体意見交換会 商工分野	H29.7.12	交流人口が増えたらいいということで免税一括カウンターを始めた。毎日のように外国人観光客が歩いていると実感しており、1,000～2,000円で買い物をする方が多いが、免税店だということをのぼりやポスターでPRすることにより外国人観光客が入りやすくなっているという印象を受けた。	下土手町商店街振興組合
502		団体意見交換会 商工分野	H29.7.12	中国・台湾・韓国・ヨーロッパなどいろいろな方が来られるが、函館との連携がポイントではないか。	下土手町商店街振興組合
503		団体意見交換会 商工分野	H29.7.12	さくらまつりに限って言えば、中心商店街を活性化したいのであれば、歩行者天国にして商店街を歩かせるとかというのでもいいのではないかと。	弘前青年会議所
504		団体意見交換会 商工分野	H29.7.12	今年実施した人力車で弘前公園から中心商店街まで行けるようにすると、そこから観光客が商店街を歩くようになるのではないかと。	弘前青年会議所
505		団体意見交換会 商工分野	H29.7.12	中心商店街を歩いてもらうには、中心商店街にシャトルバスや観光バスが駐車できるスペースがあって、そこを拠点に公園まで行ってもらうようにしてはどうか。	中土手町商店街振興組合

各種市民意見分野別一覧
【なりわいづくり】

No.	政策	会議名	年月日	意見	団体名
506	Ⅲ 商工業 振興	団体意見 交換会 商工分野	H29.7.12	観光バスで弘前公園の近くまで行き、またそこからバスに乗って次の目的地に行くという形が多い。バスで来た場合、ツアー会社にもメリットがあるような、例えば、中心商店街で観光客を降ろせば弘前公園の入場料が安くなるとか、そういったことがあれば中心商店街を歩いてもらえるのではないかな。	弘前商工会議所 青年部
507		団体意見 交換会 商工分野	H29.7.12	持ち歩くのが大変だということなのかもしれないが、インバウンドの観光客はそれほど買い物してくれない。空港で買い物をする流れになっているように聞いている。	弘前市物産協会
508		団体意見 交換会 商工分野	H29.7.12	飲食店が少ないということがよく聞こえてくる。郷土料理を食べたいということをとたびたび聞く。	弘前市物産協会
509		団体意見 交換会 商工分野	H29.7.12	県内企業には、3月に求人を出して欲しい。また、ハローワークに出すと就職活動が解禁になってから求人票が提示されるのでタイムラグが発生するので、ハローワークではなく、大学に直接出して欲しいということと呼び掛けは始めている。	弘前大学
510		団体意見 交換会 商工分野	H29.7.12	奨学金を借りている学生が多く、奨学金を返済するために少しでも給料の高いところを選ぶ学生が多い。関東の病院等では、代わりに奨学金を返済するということをPRしているところも多い。県内企業も給料自体を上げるのは難しいと思うが、奨学金の一部の返済を支援するなど、そういった相談をさせていただきたいと思っている。	弘前大学
511		団体意見 交換会 商工分野	H29.7.12	今年5月には現役生と意見交換会を実施しており、学生の地元企業に対する認知度が低いということが分かった。そのため、インターンシップを数多くやるほか、学生との意見交換会の回数を重ねていくことを新たに立ち上げた人材育成委員会において検討している。	弘前商工会議所
512		団体意見 交換会 商工分野	H29.7.12	奨学金について、青森県商工会議所連合会定期大会が6月に開催されたが、当所では、地元企業の人材確保を目的とした奨学金返済負担軽減制度の創設について要望した。	弘前商工会議所
513		団体意見 交換会 商工分野	H29.7.12	東京のほうが求人活動がかなり早い。ルールはもちろんあるが、実態としては、採用活動が水面下で行われており、ルールを守っていると完全に出遅れる状態になると見ている。県内で学生を確保していくためには、求人を出す時期や採用活動の時期を早めることが必要と感じている。	弘前金融団
514		団体意見 交換会 商工分野	H29.7.12	どこの団体も同様かと思うが会員が減ってきており、法人会は毎年30社ほど減っている。原因は、後継者がいないということが一番大きいと思うが、商業形態が変わってきて閉店せざるをえないという状況もある。	弘前法人会
515		団体意見 交換会 商工分野	H29.7.12	ひろさきビジネス支援センターという創業拠点を運営しているが、昨年22件、一昨年在22件ということでコンスタントに20件ほどの創業支援をしている。今年度は6月末で9件と順調に推移しており、拠点自体の周知も図られてきていることも実績に繋がっているのではと思う。	青森県中小企業 団体中央会弘前 支所
516		団体意見 交換会 商工分野	H29.7.12	市内商店の売り上げが少ないと言うが、さくらまつりの出店者が園内で稼いだお金をまつりの後に、市内商店街で使うようにして欲しい。そういった考え方に変えていかないといけないのではないかな。	青森県中小企業 団体中央会弘前 支所
517		団体意見 交換会 商工会議所女性会	H29.10.12	県内の看護学校を卒業して県内に就職する率が東北6県内で一番低い状況である。給料の面や、東京に出たいなどいろいろな要因があるが、看護師を地元に残して欲しいと強く思う。	弘前商工会議所 女性会
518		団体意見 交換会 弘前 ユースサ ミット	H29.10.16	弘前大学に医学部があるように、医療業界に携わる人は多いが、看護師は不足している。資格を取った看護師が、弘前を出て県外に就職しているが、介護現場でも看護師は不足しているので看護師を流出させずにとどまらせるための基本給の部分補助するのはどうか。	弘前ユースサミ ット
519		団体意見 交換会 農業団 体女性	H29.10.19	クラフトマンの人たちが、全国から板柳や青森の雲谷に集まってクラフトイベントが開催されているが、なぜ津軽森は弘前城でやらないのか。あれだけ地の利が良いのに、板柳に負けている感じがして少し悔しい思いをした。弘前城を活用すれば、全国的にもPRできるのではないかな。	農業団体女性

自動計算

134

自動計算一

各種市民意見分野別一覧
【戦略推進システム】

No.	政策	会議名	年月日	意見	団体名
520	I 確かな 根拠と進 取の気質・ 多様性に よる地域経 営	第3回My ひろさき創 生市民会 議	H28.10.8	【話し合いテーマ:「ひとづくり」での新たな「はな」(新たな価値・魅力・資源等)は?】 【グループ発表タイトル:誰でも情報を知る・伝える仕組みづくり】 誰でも情報を知ることができるようにするとともに、情報を受ける側と伝える側とのネットワークをつくったり、窓口を一本化したりなどの仕組みづくり。観光資源を県外の人が誰でも知ることができるような仕組みづくり。	
521		第3回My ひろさき創 生市民会 議	H28.10.8	【話し合いテーマ:「ひとづくり」での新たな「はな」(新たな価値・魅力・資源等)は?】 【グループ発表タイトル:情報の共有】 広報ひろさきはお年寄りが中心で見ていると思うが、学生が制作しているページがあるので、若い人も共有できればよい。また、情報が手に入りやすい環境にいる人とそうでない人がいて、地域の中で偏りがある。情報が入りにくい環境にいる人は、自分で頑張って探すしかないので、環境に関係なく情報を手に入れることができるようにする。	
522		第3回My ひろさき創 生市民会 議	H28.10.8	【話し合いテーマ:「ひとづくり」での新たな「はな」(新たな価値・魅力・資源等)は?】 【グループ発表タイトル:地域とつながる環境づくり】 NPO法人など弘前で活動している人の話を聞く機会をつくることで、そういう活動に参加する人が増え、地域が活性化する。	
523		第3回My ひろさき創 生市民会 議	H28.10.8	【話し合いテーマ:「ひとづくり」での新たな「はな」(新たな価値・魅力・資源等)は?】 【グループ発表タイトル:外からの風を歓迎】 市内でもイベントやセミナーなどで人の交流は活発になりつつあり、市外からもデザインウィークなどで著名人が来ているので、こういう流れを続けていき、市内および市外の人との交流を活発にする。UJIターンで来ている人も多くいて活発に活動しているため、その人たちに街の行事に入ってもらい、良いところをあげてもらったりアイデアをもらったりして外からの風を受け入れつつ、自分たちも楽しむことで、変わっていく。	
524		第4回My ひろさき創 生市民会 議	H28.10.22	【話し合いテーマ:「くらしづくり」での新たな「はな」(新たな価値・魅力・資源等)は?】 【グループ発表タイトル:情報収集に対する市民の意識改革】 情報発信に関することについてはこれまでも意見があったが、情報収集に対する市民の意識改革がまだ至らない点がある。市民が情報を積極的に受け取るという姿勢を身につけて、その上で、正しい選択をして、情報を自分の生活に活かしていくことが必要。	
525		第6回My ひろさき創 生市民会 議	H29.3.11	【話し合いテーマ:「まちづくり・なりわいづくり」での新たな「はな」(新たな価値・魅力・資源等)は?】 【グループ発表タイトル:「あるもの活かし」資源の有効活用】 UJIターンの受け入れ態勢の整備。	
526		市民意見 交換会 城西地区	H29.6.18	移住お試しハウスに係る経費を無償化して欲しい。利用した人の中には弘前で就職したいという人もいたため、お試しハウス利用者をもっと増やして、外国人も利用するようになっていけばよいと思う。	
527		市民意見 交換会 東目屋地 区	H29.6.20	人口減少が進む中、移住者の積極的な受入を考えるべきと思う。	
528		市民意見 交換会 東目屋地 区	H29.6.20	地域おこし協力隊の東目屋への配置についても検討して欲しい。	
529		市民意見 交換会 東目屋地 区	H29.6.20	各種事業の周知について、農業ひろさきなど様々な媒体で周知しているが、字が細かいなど見逃されているのが実情だと思うので、簡単な説明資料を作成して各町会長に送付するなどの対応を検討して欲しい。	
530		市民意見 交換会 堀野地区	H29.6.24	都会の若い人が地域に移住し高齢者の面倒を見て、その農地を引き継ぎ人口が増えた町があると聞いた。都会から移住してきた人たちは今まで消費者であったため、健康食品など何かが売れるかがわかったうえで生産が出来るというメリットがあるので、そういう町を視察して施策として取り組んではどうか。旧弘前市中心の施策ばかりが目立ち、郊外の市民から離れているように感じている。	
531		市民意見 交換会 堀越地区	H29.6.27	行政と民間と市民で意見を出し合い、アイデアを持っている人の意見や考えを聞くような体制として欲しい。	
532		市民意見 交換会 堀越地区	H29.6.27	行政に対して、団体で話を持っていけば受け入れられるが、個人で行っても受け入れられないと感じるので、個人であっても受け入れられるような仕組みを作って欲しい。	
533		市民意見 交換会 相馬地区	H29.7.20	弘前に移り住んでくる人の市民税を3ヶ月前後免除するなどの施策を打ち出し、他市町村や県外にも情報を流し、周知してはどうか。	
534		市民意見 交換会 清水地区	H29.8.18	弘前に移住してきて、家を建てた場合、20年間固定資産税を免除するなど、思い切ったことをしてみてもどうか。	
535		市政懇談 会 文京地区	H29.8.21	首都圏にある各県のアンテナショップは銀座、有楽町などアクセスが良い場所に立地しているが、青森県のショップは飯田橋にあり、他県のアンテナショップに比べると立地が良くないと思うので、首都圏の人が利用しやすいロケーションとすれば、転入のきっかけにもなると思う。	
536		団体意見 交換会商工 会議所女性 会	H29.10.12	市の政策には良い取組にもたくさんあるが、何でも支援・補助するという姿勢は問題があると考えている。移住してきたら100万円補助金をあげるという考えではなく、支援だけではなく政策も考えて欲しい。	弘前商工会議所 女性会
537		団体意見 交換会農業 団体女性	H29.10.19	町会活動が活発な町会の取組を広報に載せて欲しい。広報で他の町会との活動を比較でき、青年団や消防団の活動も知ることができるようになるので、家族の会話も膨らむのではないかな。	農業団体女性

各種市民意見分野別一覧
【戦略推進システム】

No.	政策	会議名	年月日	意見	団体名
538	Ⅱ市民力を生かしたまちづくりの推進	第2回Myひろさき創生市民会議	H28.8.27	【話し合いテーマ:こんな弘前になったらいいな！】 【グループ発表タイトル:人々の距離がよくなる】 学生、市民、観光客、消費者、生産者が交流し、距離が近くなればよい。	
539		第3回Myひろさき創生市民会議	H28.10.8	【話し合いテーマ:「ひとづくり」での新たな「はな」(新たな価値・魅力・資源等)は？】 【グループ発表タイトル:豊富な人財を活かす資金と仕組みづくり】 Myひろ参加者のように弘前が好きな人や学生が多いなど、弘前は人財が豊かなので、それを活かし、未来につなげる仕組みをつくる。活動してお金を稼げるような仕組みづくりや活動を継続できる仕組みづくりなど。	
540		第3回Myひろさき創生市民会議	H28.10.8	【話し合いテーマ:「ひとづくり」での新たな「はな」(新たな価値・魅力・資源等)は？】 【グループ発表タイトル:リーダー育成・紹介】 弘前にはまとめてくれたり、人や団体を繋げてくれるリーダーがいないと思う。いい活動をしている団体はたくさんあるが繋がっておらず個別に活動している。そういう団体がいきなり連携しようとしても価値観も違うし、結局うまくいかない。そういうことを解決できるリーダーを紹介したり、リーダーを育てる取組づくりをすれば新しいことが広がっていくのではないかと。	
541		第6回Myひろさき創生市民会議	H29.3.11	【話し合いテーマ:「まちづくり・なりわいづくり」での新たな「はな」(新たな価値・魅力・資源等)は？】 【グループ発表タイトル:「あるもの活かし」コラボ(連携)による振興】 各種類似団体間で、横の連携を図ることで各団体の活動活性化に寄与する。	
542		第7回Myひろさき創生市民会議	H29.3.26	【話し合いテーマ:「オール弘前体制」でまちづくりを進めるための新たな「はな」(新たな価値・魅力・資源等)は？】 【グループ発表タイトル:塵も積もれば山となる】 除雪や清掃活動などの身近で出来ることから始めていき、積み重ねていくことによって大きい活動につなげていく。	
543		第7回Myひろさき創生市民会議	H29.3.26	【話し合いテーマ:「オール弘前体制」でまちづくりを進めるための新たな「はな」(新たな価値・魅力・資源等)は？】 【グループ発表タイトル:地域に根付いた活動】 既に地域に根付いた活動があるので、まずはそれに関わっていき、相乗効果でその活動がさらに地域に根差したものとなっていく。	
544		第7回Myひろさき創生市民会議	H29.3.26	【話し合いテーマ:「オール弘前体制」でまちづくりを進めるための新たな「はな」(新たな価値・魅力・資源等)は？】 【グループ発表タイトル:「活きた町会」町内の歴史を知る】 年配の方が知っているそれぞれの町内会での歴史等をまとめ、若者にも知ってもらう。幅広い年代で認識を共有することで、目指す町会像を見つけた。	
545		第7回Myひろさき創生市民会議	H29.3.26	【話し合いテーマ:「オール弘前体制」でまちづくりを進めるための新たな「はな」(新たな価値・魅力・資源等)は？】 【グループ発表タイトル:町内会デビューをしよう】 飲み会やランチでもいいので、一人ひとりが町会に参加することがまず第一。	
546		第7回Myひろさき創生市民会議	H29.3.26	【話し合いテーマ:「オール弘前体制」でまちづくりを進めるための新たな「はな」(新たな価値・魅力・資源等)は？】 【グループ発表タイトル:町内会同士でつながろう】 町会同士が切磋琢磨し、それぞれのいい部分を共有していくことで活性化につながる。	
547		第7回Myひろさき創生市民会議	H29.3.26	【話し合いテーマ:「オール弘前体制」でまちづくりを進めるための新たな「はな」(新たな価値・魅力・資源等)は？】 【グループ発表タイトル:ミクロとマクロのつながり】 町会や老人クラブなど日常的に直接関わるつながりはもちろん、スポーツイベントや県内外の人たちとの活動などにもチャレンジしていく。情報発信が課題。	
548		第7回Myひろさき創生市民会議	H29.3.26	【話し合いテーマ:「オール弘前体制」でまちづくりを進めるための新たな「はな」(新たな価値・魅力・資源等)は？】 【グループ発表タイトル:弘前のまちを盛り上げよう】 町会同士がつながっていくことによって、スポーツイベントの手伝いや公園を活用した景観に関する機運の醸成につながる活動を行うことで、まちの活性化につながる。	
549		第7回Myひろさき創生市民会議	H29.3.26	【話し合いテーマ:「オール弘前体制」でまちづくりを進めるための新たな「はな」(新たな価値・魅力・資源等)は？】 【グループ発表タイトル:「津軽イノベーション」地元の資源の発掘と活用】 市民と行政が協力して、空き家の清掃などを行うことで地域の魅力や価値を高めていく。また、このような活動によって、社会人と学生につながりが生まれる。	
550		第7回Myひろさき創生市民会議	H29.3.26	【話し合いテーマ:「オール弘前体制」でまちづくりを進めるための新たな「はな」(新たな価値・魅力・資源等)は？】 【グループ発表タイトル:「津軽イノベーション」学生の力を開放】 地域志向の学生が増えてきているので、学生が積極的に活動することで地域の課題を魅力に変えていく。	
551		市民意見交換会 岩木地区	H29.6.1	1%システムについて、当町会(常盤野町会)でも複数回活用したが、使っていて補助金の趣旨に反するようで心苦しい(カメムシ駆除など)。例えば、北上市でやっているような、予算を地域に枠で配分するなどの財源の措置を検討して欲しい。	
552		市民意見交換会 岩木地区	H29.6.1	地域にとって最大のシンクタンクは市職員。人材を地域に配置するような政策がないと、この先ますます厳しくなるので、地域に対する人材支援を検討して欲しい。	
553		市民意見交換会 岩木地区	H29.6.1	町会活動を支援する場所や環境整備について検討して欲しい。	
554		市民意見交換会 城西地区	H29.6.18	城西大橋から岩木山を眺める展望台を設置し、城西団地に数カ所撮影スポットを設け、美しい景観と撮影スポットで地区の活性化を図りたいと考えている。	
555		市民意見交換会 堀越地区	H29.6.27	町会が独自に事業をやろうとしても様々なルールや制限などがあるので、その制限や負担を軽減して町会にやりやすいようにすれば町会の活性化につながるのではないかと。	
556		市民意見交換会 高杉地区	H29.6.29	1%システムは、市に出す書類が多く、農村部の町会では事務手続きが忙しくてできないとか、よく分からないという人が多い。今の町会の負担はかなり大きく、市への貢献度も考慮すると、役員の手当てを多くするなどしないと割に合わないと感じている。1%システムはいい制度だが、町会の抱い手不足に対応し、1%システムを活用できる団体の事務局が育つような体制をつくるためにはやりかたを変えないといけないと思う。ぜひ町会事務費交付金の増額だけでも考えて欲しい。	
557		市民意見交換会 船沢地区	H29.7.11	町会の掲示板に車をぶつけられ破壊した。掲示板の修理代は町会負担と言われたが、掲示板の掲示物のうち8割以上は市からの掲示物なので、市で掲示板の設置費や修理費について補助等を出して欲しい。	
558		市民意見交換会 船沢地区	H29.7.11	人口減少が進んでおり、このままであれば、町会・地域がどうなるのかと危惧している。子どもたちを増やさないといけないと考えるが、そのことについて市はどう考えているのか教えて欲しい。	
559		市民意見交換会 時敏地区	H29.7.13	市民協働が近年叫ばれているが、人口減少、高齢化の影響もあり町会運営に関し、金銭面と人的な部分で大変苦労しているが、そのような中、行政からの人的要請(健康づくりサポーターなど)が増えていていると感じている。その要請もいきなり各町会に来るので、町会連合会などをその会議に含めて、各町会が対応できるかどうか、一緒に検討するような配慮が必要だと思う。	
560		市民意見交換会 新和地区	H29.7.14	町会費値上げにより住民の負担が大きくなっているため、町会活動に対し、手厚い支援が必要だと思う。もっと積極的な活動ができるようバックアップして欲しい。	

各種市民意見分野別一覧
【戦略推進システム】

No.	政策	会議名	年月日	意見	団体名
561		市民意見 交換会 和徳学区	H29.7.18	このような意見交換会をやって、市民とのコミュニケーションを高めれば、大きな問題だけでなく小さな問題もいろいろ出てきて、それを積み重ねていけば将来的にプラスになるのではないかな。そういう面では今までは市民との意見交換が足りなかったと思うので、こういう場を多めに設けるべきではないかな。	

各種市民意見分野別一覧
【戦略推進システム】

No.	政策	会議名	年月日	意見	団体名
562	Ⅱ 市民力を生かしたまちづくりの推進	市政懇談会 東地区	H29.7.24	町会としては町会加入率が低く困っている状態。	
563		市政懇談会 朝陽地区	H29.7.27	エリア担当制度について、今年は色々な情報を持ってきてくれており、これから頑張ってもらいたい。ただ、地区の町会では活動してくれるが、各町会での活動は十分でないと感じている。	
564		市民意見交換会 豊田地区	H29.7.28	本来は、個々人や地域内で解決すべきもので行政が担っていることが多々あり、逆でないものねだりの人間を生み出しているのではないかと。行政として、何でもかんでも要望を受けるのではなく、毅然とした対応も必要であり、自立していくことを行政が支援することが必要なのではないか。	
565		市政懇談会 文京地区	H29.8.21	大学生がいるという地の利を活かして、武道館などに学会を呼ぶなど、コンベンション機能を持たせてはどうか。	
566		市政懇談会 石川地区	H29.8.22	「大仏公園あじさいまつり」は、1%システムを活用して4年間やってきており、今は、市外からも来場者が来る。石川や堀越から、弘前中心部に発信するようなことがないと、街の発展はないと思う。それにふさわしいのがあじさい祭りだと思うが、我々だけの力では足りないもので、ぜひ、市の事業として協力体制を作ってもらい、発信できるようにして欲しい。	
567		市政懇談会 石川地区	H29.8.22	町会は、この先、若者がいなくなり、ますます高齢者だけになっていってしまうが、その中で、町おこし協力会を立ち上げて意識改革をし、自分たちでできることはやっていこうと努力している。	
568		市民意見交換会 一大地区	H29.8.23	子どもたちも減っている中で、にぎわいや子ども同士がふれ合える場が失われつつあると感じているので、ふれあいや交流できる場が増えるように地域のつながりを維持する取組に力を入れていけば住みよい街になるのではないかと。	
569		市民意見交換会 一大地区	H29.8.23	地元に進学することをPRすべきではないか。地元の大学に進学することで、地元に残る。そして、残るためには地元で学生を受け入れる企業があるということが非常に重要だと思う。弘前市と弘前大学がさらに連携して、地元での進学を進めていくべきと思う。	
570		市政懇談会 三大地区	H29.8.28	弘前のすばらしさを県内外で発信し、すばらしいことだと思うが、市中心部以外の活性化を、市と町会が考える時代になっているのではないかと。	
571		市政懇談会 藤代地区	H29.8.29	民生委員・児童委員の活動費を見直して活動費を上げて欲しい。民生委員・児童委員の実情を調査し、今の活動費でよいのか、町会の負担にするのか、検討して欲しい。	
572		団体意見交換会弘前ユースサミット	H29.10.16	地域のコミュニティではねぶたが重要だと思う。ねぶたには、好きな人が集まってくるので、自然に集まった人をどう繋ぎとめるか努力し、子ども会と一緒に連携して取組を行っている。	弘前ユースサミット
573		団体意見交換会弘前ユースサミット	H29.10.16	コミュニティづくりにおいては、高校生以下の子どもと60・70歳代の高齢者の間にある現役世代の活躍が大事なので、青年部・青年会の人たちを行政でサポートすればよいのではないかと。	弘前ユースサミット
574		団体意見交換会弘前ユースサミット	H29.10.16	町会長は在位期間が長く、長い人は20年くらいやっているのではと思うので、町会長は2～3年で変わる仕組みを作ればよいのではないかと。	弘前ユースサミット
575		団体意見交換会弘前ユースサミット	H29.10.16	各地区に弘前市の職員を張り付けるなどして、まちを元気にしていく必要があるのではないかと。意見をただ聞くだけではなく、その人たちをやる気にさせ、動いてもらう必要があると思う。	弘前ユースサミット
576		団体意見交換会弘前ユースサミット	H29.10.16	黒石では子ども会から老人会まで連携が取れていると聞いた。例えば、独り暮らし世帯に保育園児が複数人で訪問して話を聞くなどの取組を町内の公民館を中心に行う仕組みができている。	弘前ユースサミット
577		団体意見交換会農業団体女性	H29.10.19	十腰内では、地域行事として1%システムを使って祭りを運営して、主婦や若者、子どもが集まり、大変うまくまわっている。地域としてお山参詣に参加したり、反省会を開いたりしていて、担い手不足という点では、それほど困っていない地区だと思う。	農業団体女性
578		団体意見交換会農業団体女性	H29.10.19	小沢では、運動会はなくなったが、1%システムで手作り屋台村を昨年行い、今年は1%システムを使わずに毎戸から集金し、運営している。おでんや焼きそば、ビールなどを地域の人が販売して、昔ながらのイベントを行い大変盛況だった。	農業団体女性
579	Ⅲ 強い行政の構築	第6回Myひろさき創生市民会議	H29.3.11	【話し合いテーマ:「まちづくり・なりわいづくり」での新たな「はな」(新たな価値・魅力・資源等)は?】 【グループ発表タイトル:「あるもの活かし」資源の有効活用】 ハード整備ではない、インフラの利活用。	
580		市民意見交換会 岩木地区	H29.6.1	岩木地区という扱いではなく、もっと弘前市としての一体感を醸成すべきと思う。まだまだ距離感を感じるのも、もっと岩木に近づいてきて欲しい。	
581		市民意見交換会 岩木地区	H29.6.1	前例を打破するのがいい行政だと思うので、そのような対応をして欲しい。	
582		市民意見交換会 城西地区	H29.6.18	副市長や他の企業を見ても、トッを支える人は若い方であり、そういう方がどんどん新たな指示を出して欲しい。職員には、枠をこえて政策を考えて欲しい。	
583		市民意見交換会 高杉地区	H29.6.29	補助金頼みの箱物整備を進めてきたが、今後の莫大な維持管理費をどう確保していくのか。市の施設管理費不足に、即、税金投入ということでは市民負担の増加となるため、今後の長期計画や対応策などを作成し、議会だけではなく市民に公表すべきと考える。	

各種市民意見分野別一覧
【戦略推進システム】

No.	政策	会議名	年月日	意見	団体名
584	Ⅲ強い行政の構築	市民意見交換会 高杉地区	H29.6.29	KDDIグループの大手J:COMを誘致、もしくは青森ケーブルテレビのエリアを弘前にも広げることで、フジテレビ系列、テレビ東京系列等が視聴できる可能性があり、また、ケーブルテレビのコミュニティチャンネルを使い、市議会や弘前ねぶたまつり等の中継が可能となるので、検討して欲しい。	
585		市民意見交換会 時敏地区	H29.7.13	総合計画の策定にあたっては、トップダウンでいいのではないかと。何か問題が出てきたらみんなと話し合うという方が効率的だと思うので、策定においては、市長が考えて方向性や素案が固まった段階で意見を聞くようにした方がうまくいくと思う。	
586		市民意見交換会 時敏地区	H29.7.13	現在の経営計画の見直しは必要だが、20年後の将来都市像を掲げていることから、大幅な変更はせず継続することが必要ではないかと。	
587		市政懇談会 東地区	H29.7.24	ヒロロから会議室を借りるのは安いと、調理室がないので、ヒロロにも調理室を設置して欲しい。	
588		市政懇談会 東地区	H29.7.24	マイナンバーの取扱いに関して、市としても個人情報を守る対策をしっかりとって欲しい。	
589		市政懇談会 桔梗野地区	H29.8.10	旧第一大成小学校を色々な団体の事務所として貸し出してはどうか。	
590		市民意見交換会 清水地区	H29.8.18	これからの弘前を考える場合、人口減少が進む中ではやはり、弘前市単体で考えるのではなく、中津川地域の圏域で考えるべきではないかと。	
591		市民意見交換会 清水地区	H29.8.18	子どもたちの笑顔あふれるまちという将来都市像を掲げているが、20年後に目標がどれくらい達成できているのか測定しないとマネジメントできないのではないかと。将来都市像を単なるスローガンとするだけでなく、指標化して効果を測定するようにして欲しい。	
592		市政懇談会 文京地区	H29.8.21	パフォーマンスで終わることなく、次期総合計画についても、しっかり実行して欲しい。	
593		市政懇談会 三大地区	H29.8.28	町内には空き家がたくさんあるので、当町会(富田第一町会)にも集会所を作って欲しい。	
594	団体意見交換会 学校教育分野	団体意見交換会 学校教育分野	H29.6.26	内容が盛りだくさんにならないように整理された次期総合計画を策定して欲しい。	学校評議員
595		団体意見交換会 子育て分野	H29.7.4	施策のPDCAサイクルを重視しているが、「評価・改善」に重点を置くべきだと思う。形式的で数値化しやすい評価ではなく、施策の効果(目的やねらい)を議論し、課題を明らかにし、改善するプロセスにエネルギーを集中すべきではないかと。「持続可能な施策」とは、「つくること以上に、評価・改善しながら発展させていくもの」と感じる。	弘前市子ども・子育て会議
596		団体意見交換会 スポーツ分野	H29.7.25	各実行委員会のあり方について、今回の意見交換会のように様々な意見を出せるような場を作って欲しい。	NPO法人スポネット弘前

自動計算
→

77

自動計算→

弘前市まち・ひと・しごと創生総合戦略
(2017 改訂版)

平成 29 年 3 月改訂



(目 次)

I 国・県の基本的な考え方	1
1. 国の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の基本的な考え方	
2. 県の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の基本的な考え方	
II 弘前市まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定にあたって	3
1. 弘前市経営計画	
2. 策定目的	
3. 基本的な考え方	
4. 基本方針	
5. 総合戦略の基本目標	
III 弘前市まち・ひと・しごと創生総合戦略	
《基本目標①》安定した雇用創出と地域産業のイノベーション	10
1. 若者と女性の雇用環境を改善	
2. 就業人口の上昇	
3. 地域産業のイノベーションと成長による雇用の創出	
《基本目標②》弘前への新しいひとの流れと定住の推進	17
1. UJIターンの促進	
2. 子育て支援の充実による移住・定住の推進	
3. 「弘前版生涯活躍のまち(CCRC)」の推進	
《基本目標③》若い世代の結婚・出産・子育てをトータルサポート	20
1. 結婚へのサポート	
2. 安心して妊娠・出産できる環境づくり	
3. 子育て環境の改善	
4. 未来をつくるひとづくりの推進	
《基本目標④》健やかで、生き生きらせる地域づくり	25
1. 健康都市づくり	
2. 活力ある長寿社会の構築	
《基本目標⑤》弘前ならではの地域づくり	28
1. 未来へつなぐまちの魅力向上	
2. 都市機能の強化	
3. オール弘前によるまちづくりの推進	
おわりに	35

I 国・県の基本的な考え方

1. 国の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の基本的な考え方

(1) 人口減少と地域経済縮小の克服

- 人口減少に加え、若い世代の地方からの流出と東京圏への一極集中を招いている。
- 人口減少により地域経済に、消費市場の規模縮小だけでなく、深刻な人手不足を生み出し、東京一極集中と地方からの人口流出がますます進展している。
- 地方は、人口減少を契機に、「人口減少が地域経済の縮小を呼び、地域経済の縮小が人口減少を加速させる」という負のスパイラル（悪循環の連鎖）に陥るリスクが高い。

この構造的な課題の解決には、長時間を要するが、人口減少を克服し、地方創生を成し遂げるため、次の基本的視点から、人口、経済、地域社会の課題に対して一体的に取り組むことが重要である。

(基本的視点)

- ①「東京一極集中」を是正する。
- ②若い世代の就労・結婚・子育ての希望を実現する。
- ③地域の特性に則して地域課題を解決する。

(2) まち・ひと・しごとの創生と好循環の確立

負のスパイラル（悪循環の連鎖）に歯止めをかけるため、地方に『「しごと」が「ひと」を呼び、「ひと」が「しごと」を呼び込む好循環』を確立することで、その好循環を支える「まち」に活力を取り戻すことになる。

(3) まち・ひと・しごとの創生に向けた政策5原則

①自立性

各施策が一過性の対処療法的なものにとどまらず、構造的な問題に対処し、地方公共団体等の自立につながるようなものであるようにする。

②将来性

地方が自主的かつ主体的に、夢を持って前向きに取り組むことを支援する施策に重点を置く。

③地域性

国による画一的な手法や「縦割り」的な支援ではなく、各地域の実態に合った施策を支援することとする。

④直接性

限られた財源や時間の中で、最大限の成果を上げるため、ひとの移転・しごとの創出やまちづくりを直接的に支援する施策を集中的に実施する。

⑤結果重視

効果検証の仕組みを伴わないパラマキ型の施策は採用せず、明確な PDCA メカニズムの下に、短期・中期の具体的な数値目標を設定し、政策効果を客観的な指標により検証し、必要な改善等を行う。

(5) 国の総合戦略が定める基本目標

- ①地方における安定した雇用を創出する
- ②地方への新しいひとの流れをつくる
- ③若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる
- ④時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する

2. 県の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の基本的な考え方

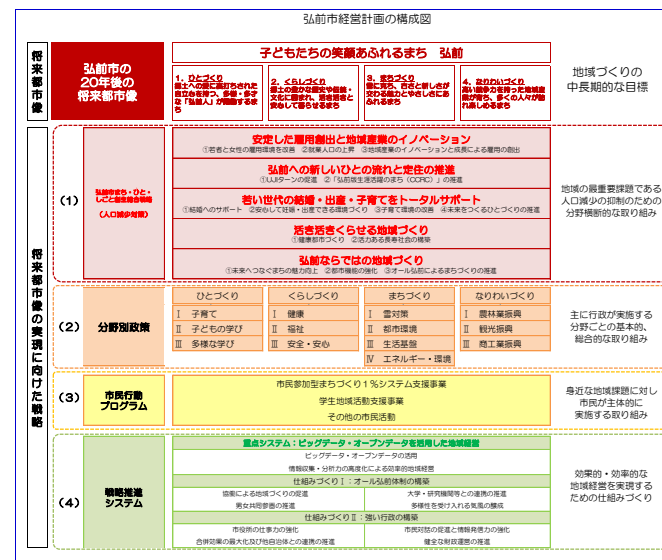
- ①国の「まち・ひと・しごと創生」の動きが、人口減少の克服に向けて「青森県基本計画未来を変える挑戦」で取り組んできた方向性と一致していることから、県総合戦略を「青森県基本計画未来を変える挑戦」のうち、人口減少対策に係る施策の実施計画として位置づけ。
- ②人口減少を克服するには、人口増加に向けた取り組みだけでなく、「県内総時間」の延伸を図ることが必要。
- ③産学官金の連携による新たな産業の創出や育成といった「しごとづくり」、地元の大学等との連携による「ひとづくり」、地域間連携による持続可能な「まちづくり」など、様々な取り組みにおける連携を促進。
- ④人口減少の克服に向けた全県的な推進体制を構築するなど、県と市町村との連携を強化するなど、「定住自立圏」や「連携中核都市圏」などの広域連携に向けた市町村の取り組みを積極的に支援。
- ⑤県の基本目標

- 《社会減対策》 強みをとことん、魅力あふれるしごとづくり
人財きらめく、住んでよしの青森県
- 《自然減対策》 地域でかなえる、子ども・未来の希望
課題をチャンスに、めざせ健康長寿県

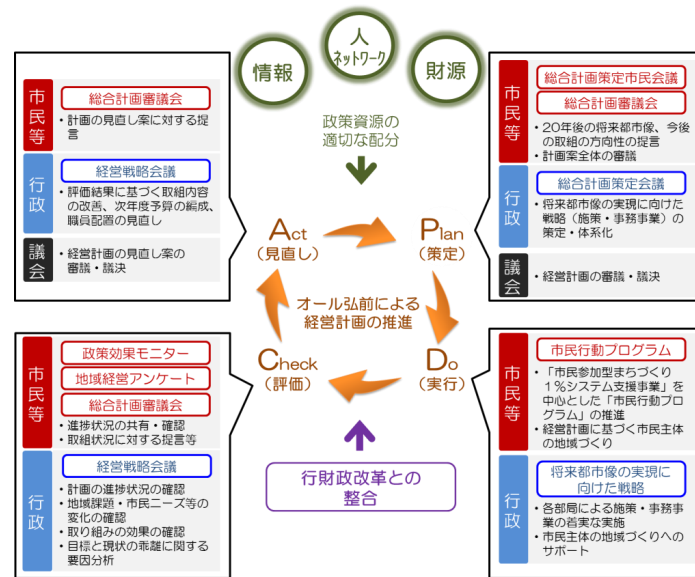
Ⅱ 弘前市まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定にあたって

1. 弘前市経営計画

- ① 本市の地域づくりの最上位計画に当たる「弘前市経営計画」（以下、「経営計画」という。）は、人口減少問題など地方都市を取り巻く社会環境の厳しさが増している中で、地域経営による持続的な成長・発展を実現するため、20年後の将来都市像「子どもたちの笑顔あふれるまち 弘前」を目指して平成26年5月に策定した計画です。
- ② 経営計画の策定にあたっては、「弘前市アクションプラン」（平成22～25年度）のPDCAサイクルによる評価結果を基に施策を選定しています。
- ③ 経営計画は、本市が克服すべき社会課題や地域づくりの目標（将来都市像）と、それを実現するための行政による具体的な取り組み（戦略体系）を定めるとともに、新たに市民等による具体的な取り組み（市民行動プログラム）も定めた計画となっており、地域を一つの経営体として捉え、「オール弘前」で地域づくりを進めています。
- ④ 様々な地域課題の中でも、人口の大幅な減少の抑制を最重要課題とし、その課題解決に向け「笑顔ひろさき重点プロジェクト（人口減少対策）」に国の動きに先んじて取り組んできましたが、「弘前市まち・ひと・しごと創生総合戦略」と目的は一致していることから、経営計画の人口減少対策「笑顔ひろさき重点プロジェクト」は廃止し、「弘前市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を経営計画の新たな人口減少対策として位置づけます。



- ⑤ 地域課題の変化にも対応しながら、常に有効に機能させるために、広く市民の意向・ニーズ等を把握する政策効果モニターや地域経営アンケートを実施し、PDCA サイクルの考えによるマネジメントシステムを導入しています。



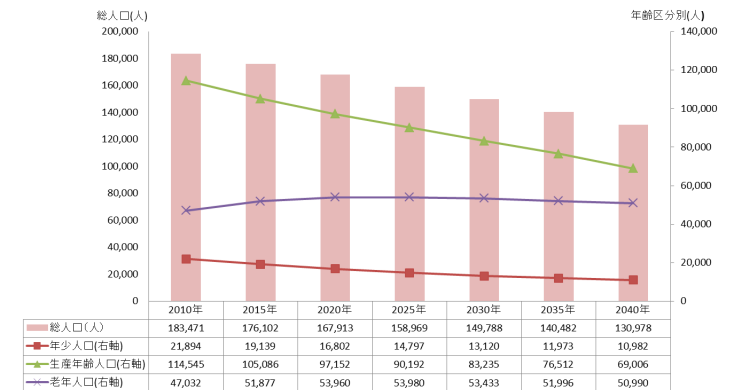
2. 策定目的

本市の人口は、平成7年（1995年）の19万4千人をピークに減少を続け、平成20年（2010年）の国勢調査を基本に試算した国立社会保障・人口問題研究所の推計値では、平成52年（2040年）には約13万人まで減少し、生産年齢人口の減少、少子高齢化がさらに進行する見込みとなっています。

「弘前市人口ビジョン」（以下、「人口ビジョン」という。）で考察しているとおり、本市は生産年齢人口の減少が顕著で、中でも20歳から24歳の年齢階層が他の階層よりも突出して転出が多くなっています。

また、人口当たりの高等教育機関の数が多い本市の特性から、合計特殊出生率が国・県より低い値で推移しています。

これらのことから、今後も少子高齢化が進展していくと想像されます。



推計のとおり人口減少が進んでいけば、労働力や消費活動の減少による経済規模の縮小、税収減、社会保障費の増大等を引き起こし、結果として本市の総合的な地域活力を低下させるため、社会経済環境を維持していくことが困難となり、国の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」で述べている「人口減少が地域経済の縮小を呼び、地域経済の縮小が人口減少を加速させる」という負のスパイラル（悪循環の連鎖）に陥る可能性があります。

この負のスパイラルに陥る前に、人口減少を抑制し、地域経済の維持・成長を成し遂げるため、人口ビジョンで示した将来展望を基に、あらゆる分野の課題に対し、オール弘前体制で取り組むため、「弘前市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定します。

3. 基本的な考え方

（1）弘前市まち・ひと・しごと創生総合戦略策定の基本的な考え方

前述のとおり経営計画では、既に人口減少対策に取り組んでいることから、弘前

市まち・ひと・しごと創生総合戦略（以下、「総合戦略」という。）の策定にあたっては、この経営計画をベースに、人口ビジョンで判明した新たな課題の解決にも取り組み、人口減少対策をさらに強化・加速していきます。

（２）成果（アウトカム）を重視した目標設定

総合戦略の基本目標を達成するために講ずべき施策の基本的方向と、それに沿った具体的な施策を記載します。そして、その各施策の効果を客観的に検証するため、重要業績評価指標（KPI※）を設定します。

※KPI：Key Performance Indicators の略。目標達成プロセスの実施状況を計測するために、実行の度合いを定量的に示す指標

（３）総合戦略の効果検証

経営計画が導入している PDCA サイクルのマネジメントシステムにより、計画内容を継続的に改善・向上させていくため、数値目標の達成状況や外部有識者の意見を確認することで、総合戦略の効果検証につなげていきます。

そして、その**結果を重視**しながら、新たな分析結果等も反映させ、総合戦略の見直しを図っていきます。

（４）計画期間

平成 27 年度（2015 年度）から平成 31 年度（2019 年度）の 5 年間

4. 策定方針

（１）人口減少対策とその影響の緩和に関する施策を体系化

人口減少が地域経済の縮小を呼び、地域経済の縮小が人口減少を加速させる負のスパイラルに陥らないために、人口減少対策とその影響の緩和に関する施策を体系化し、戦略的に取り組むことで、地域の持続的発展につなげます。

（２）「オール弘前」による総合戦略の推進

行政だけでなく市民やコミュニティ、民間事業者等も含めた地域全体を 1 つの経営体として捉え、各主体が協力・連携し合いながら地域づくりに取り組む「地域経営」の考え方にに基づき、「オール弘前」体制で総合戦略を推進します。

（３）官民協働による総合戦略の推進

様々なノウハウやアイデアを有する民間事業者等から人口減少対策や地域経済の活性化につながる提案を積極的に募集し、官民協働により効率的・効果的に総合戦略を推進し、自立性を高めます。

そのため、移住応援企業・子育て応援企業・ひろさき健やか企業・女性活躍推進企業の認定を促進するとともに、「ひろさき地方創生パートナー企業制度」による連携を積極的に進め、市民により有益なサービスを提供します。

（４）地域間連携による総合戦略の推進

弘前圏域定住自立圏の中心市として、圏域全体の発展に向けて、本市が中核的な役割を担い、周辺市町村と連携して活性化を図っていくとともに、広域的な連携も積極的に進めるなど、地域間連携により総合戦略を推進します。

（５）政策間連携による総合戦略の推進

複数の政策を相互に関連づけて取り組み、単一の事業でも複数の政策につながり、より地方創生への効果が高まるように、政策間連携による総合戦略を推進します。

（６）国の「政策 5 原則」を踏まえた施策の推進

国の総合戦略に盛り込まれた「政策 5 原則」（自立性、将来性、地域性、直接性、結果重視）の趣旨を踏まえて、効果的に施策を推進していきます。

（７）情報分析による施策の推進

地域経済分析システムを活用した情報分析や弘前大学の情報分析に加え、ひろさき未来戦略研究センターで独自の分析に取り組み、地域の特性と課題を抽出し、分析結果に基づく施策を展開していきます。

【主な分析結果】

①20 歳から 24 歳の年齢階層の人口転出が他の階層より突出して多い。

②中津軽地域住民の約 4 割が U J I ターンの実験者。

～出所：弘前大学 中津軽地域住民の仕事と生活に関する調査報告書～

5. 総合戦略の基本目標

（１）安定した雇用創出と地域産業のイノベーション

■市民（納税義務者）一人当たりの課税対象所得 300 万円を目指します。

（H25：2,687 千円）

雇用面では、地元大学や地元企業と連携して、新規卒者などの若者の地元就職を進めるとともに、離職した若者の再チャレンジも支援するほか、出産等を経験した女性が、復職できるような雇用環境を整備します。また、生産年齢人口が減少する中で、社会全体として労働力を確保するため、ワークシェアリングや分業により、高齢者や生活困窮者等への就労支援に取り組み、就業人口の上昇を図ります。

産業面では、人口減少が進む中であっても、日本一のりんご産地を維持するため、生産、加工、流通分野の技術革新等に取り組む「りんご産業イノベーション戦略」を推進するとともに、弘前大学医学部を中心に医療機関が多い本市の強みを活かし、ライフ・イノベーションの推進による健康・医療産業の創出を図ります。観光では広域連携によるインバウンド対策を強化し、観光消費額の拡大を目指します。

これらの施策に体系的に取り組み、「安定した雇用創出と地域産業のイノベーション」を進めることで、人口減少の中であっても、地域産業の活力の維持・向上を図り、もって市民一人当たりの課税所得 300 万円を目指します。

(2) 弘前への新しいひとの流れと定住の推進

■社会移動数の転出超過を 40 人まで圧縮します。(H26 : 476 人)

本市や津軽地方にゆかりのある人に対する効果的な U J I ターン対策に取り組むとともに、子育て支援策の充実を図り、社会移動による人口減少を抑制します。

また、東京圏のアクティブシニアが弘前ならではの生活を送れる「弘前版生涯活躍のまち(CCRC)構想」を推進し、弘前への移住あるいは二地域居住につなげるとともに、新たな雇用創出による定住も推進します。

これらの施策に体系的に取り組み、「弘前への新しいひとの流れと定住の推進」を進めることで、転入人口の増加、転出人口の減少を図り、社会移動数の転出超過を 40 人まで圧縮します。

(3) 若い世代の結婚・出産・子育てをトータルサポート

■婚姻率(人口 1,000 人当たり)を 4.5 まで上昇させます。(H25 : 4.3)

■出生率(人口 1,000 人当たり)は 6.5 程度を維持させます。(H25 : 7.0)

弘前の若者が、弘前で出会い、結婚できるように出会いの場を創出するとともに、結婚・出産・子育てなど自分のライフプランを描けるように、情報を発信します。

また、共働き家庭でも安心して子育てができる環境を整えるとともに、発達の気になる段階の子どもの支援や、子育てに係る経済的負担を軽減するほか、仕事と子育てが両立できるようワーク・ライフ・バランスを普及・啓発し、オール弘前体制で子育てを応援します。

そして、その子どもたちが、将来に夢と希望を抱き、これからの国際化や情報化の進展などの社会変化等に対応できるように、ICTを活用した教育や英語教育の充実を図るとともに、将来の夢に向かってチャレンジする子どもたちを応援します。

これらの施策に体系的に取り組み、「若い世代の結婚・出産・子育てをトータルサポート」を進めることで、弘前で結婚し、子どもを産み育てたいと思える環境を整え、婚姻率 4.5 まで上昇、出生率 6.5 の維持を目指します。

(4) 健やかで、生き生きらせる地域づくり

■自らを健康だと思ふ市民の割合を 80%まで上昇させます。(H26 : 76.1%)

■75 歳未満のがんの年齢調整死亡率(人口 10 万人当たり)を 84.0 まで下降させます。(H25 : 106.0)

■自立して生活できる高齢者の割合を 80.5%まで上昇させます。(H26 : 79.3%)

弘前大学への寄附講座により育成される「ひろさき健幸増進リーダー」、地域住民の健康づくりをサポートするため市内全域に配置される「健康づくりサポーター」、そして食生活改善推進員が連携して、弘前ならではの「健康増進モデル」を構築し、オール弘前体制での健康づくりを推進するとともに、健康的な食事、運動など市民が主体的に生活習慣病の予防ができるように支援します。

また、高齢者が地域活動の一翼を担って、地域貢献が実感できる取り組みを推進し、生きがいづくりにつなげるとともに、介護に頼らない自立した生活を送れるように支援し、活力ある長寿社会につなげます。

これらの施策に体系的に取り組み、「健やかで、生き生きらせる地域づくり」を進めることで、自らを健康だと思ふ市民の割合や、自立して生活できる高齢者の割合を上昇させます。

(5) 弘前ならではの地域づくり

■住みやすさに対する市民の満足度を 60%まで高めます。(H26 : 49.7%)

■冬期間において安心・快適な生活が送れていることに満足している市民の割合を 21%まで高めます。(H26 : 16.8%)

■市民と行政が同じ目的を持ち、パートナーとして、まちづくりに取り組んでいると思ふ市民の割合を 25%まで高めます。(H26 : 20.1%)

弘前の未来の「まち」も魅力あるものにするために、市内に多数ある貴重な文化財を保存・継承するとともに、積極的に活用し、地域への誇りと愛着を持った人材を育成するほか、効率的な重機による除排雪と再生可能エネルギー等を活用した融雪による新たな雪対策に取り組みます。

都市機能を強化するため、快適な都市空間の確保と拠点地域の整備、公共交通ネットワークの確保、スマートシティ構想の推進を進めるほか、公共施設のファシリイティマネジメントの推進と空き家・空き地の利活用、適正管理に努めます。

また、市民や学生等の「オール弘前」によるまちづくりを推進します。

これらの施策に体系的に取り組み、「弘前ならではの地域づくり」を進めることで、住みやすさに対する市民の満足度や、冬期間において安心・快適な生活が送れていることに満足している市民の割合を上昇させます。

Ⅲ 弘前市まち・ひと・しごと創生総合戦略

《基本目標①》安定した雇用創出と地域産業のイノベーション

■市民（納税義務者）一人当たりの課税対象所得 300 万円を目指します。
(H25 : 2, 687 千円)

1. 若者と女性の雇用環境を改善

(1) 現状と課題

本市の社会動態をみると、年齢階層のうち 20 歳から 24 歳の年齢階層の転出超過が他の年齢階層より突出しています。また、国立大学法人弘前大学卒業生のうち地元就職は、就職者全体の 1 割にも満たない状況となっています。この年齢階層の県外への転出理由をみると、男女とも「就職」が最も多くなっています。この年齢階層は、結婚・出産の時期を迎える世代であり、本市の人口における自然動態に影響を及ぼすことになります。このことから、この世代が地元で就職し、市外への流出を抑制することが、本市の人口減少対策の大きな課題となっています。

一方で、ハローワーク弘前管内の企業の雇用状況などを見ると、建設業の各種技術者、技能者等を始め、介護職員や看護師など、職種によっては、求人に対して人が集まらないなどの人材不足がここ数年の課題となっており、求職と求人のミスマッチが生じていると言えます。

また、国では「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」を平成 27 年 9 月から施行させ、女性の職業生活における活躍を推進しております。女性の社会参加の動きが活発化する中で、今後、出産、育児を迎える女性が安心して就労し活躍できるようにすることや、出産や子育てを機に離職した女性が復職し活躍するためには、産休、育休などが取りやすい職場環境の整備が重要であるとする意識調査結果が民間調査団体から公表されており、本市においても、その取り組みが必要と考えます。さらには、シングルマザー等のひとり親家庭が安心して生活できるように、自立に向けた支援も必要です。併せて、社会全体で仕事と生活の双方の調和の実現を目指すため、ワーク・ライフ・バランスに対する意識啓発も行う必要があります。

(2) 講ずべき施策に関する基本的方向

地元大学や地元企業と連携し、現状の課題などを詳細に調査分析した上で新規卒学生など若者の地元就職に向けた施策を推進します。また、意欲ある若者の創業・起業を支援するほか、離職した若者の再チャレンジも支援します。

出産や子育てなどが女性の離職に繋がらないような、また、出産等を経験した女性が復職できるような雇用環境の整備を進めるとともに、シングルマザー等の就労による自立支援を推進します。

(3) 重要業績評価指標 (KPI) と主な取り組み

重要業績評価指標 (KPI)	目標値 (H31)	基準値
市内大学生の地元（県内）就職率	46.9%	36.7% (H26)
若年者と女性のための資格取得支援事業受講者のうち就業者数の割合	80.0%	86.0% (H26)

(主な取り組み)

- 大学・企業連携地元就職推進事業
- 若年者と女性のための資格取得支援事業
- 建設業未来の人づくり支援事業
- 都市と地方をつなぐ就労支援カレッジ事業
- 弘前市人口減少対策に係る企業認定制度（女性活躍推進企業）

2. 就業人口の上昇

(1) 現状と課題

人口ビジョンの将来展望では、年少人口と老年人口がほぼ横ばい又は微減する一方で、生産年齢人口は減少が続きます。生産年齢人口の減少は労働投入量の減少に繋がります、本市の総生産も減少することになります。また、農業をはじめ後継者不足が大きな課題として顕在化してきています。

一方で、社会全体としての労働力を確保するため、高齢者や女性に加えて、就労困難者や生活困窮者などが新たな担い手として注目されてきており、行政による就労支援が求められています。このことは、社会保障費の低減という効果も期待できます。

また、長期的視点で本市の経済活動の活性化を考えると、ベンチャー企業など創業・起業による新たな経営者の育成も課題と言えます。

(2) 講ずべき施策に関する基本的方向

ワークシェアリング*や分業*による簡易な仕事の創出などにより、高齢者や障がいのある人などが新たな担い手として活躍できる環境づくりとそのための継続的な支援を行います。また、ひろさき生活・仕事応援センターでは、就労経験の乏しい相談者に対し、一般就労に従事するための基礎能力の形成を支援するなど、就労についての相談支援体制を強化するとともに、相談者の適性、強み、家庭環境等を踏まえた職業紹介を行います。

農業後継者の育成・確保に取り組むとともに、新規就農者の円滑な就農・定着を支援するほか、自治体連携による就農希望者の確保にも取り組みます。

また、農業以外の事業の後継者の育成・確保や転入者も含めた意欲ある人の創業・起業を支援します。

※ワークシェアリング：従業員 1 人当たりの労働時間を減らし、その分で他の従業員の雇用を維持したり、雇用を増やしたりする試み。

※分業：生産過程をいくつかの部門・工程に分け、異なった人々がこの分割された特殊的部分に専門的に従事すること。

(3) 重要業績評価指標（KPI）と主な取り組み

重要業績評価指標（KPI）	目標値（H31）	基準値
生活困窮者等のうち新たに就労を開始した人数	200 人	138 人（H26）
障害福祉サービス等（訓練等給付）利用者数	582 人	474 人（H26）
新規就農者数（累計）	100 人	52 人（H26）
創業・起業者数	24 件	23 件（H26）

（主な取り組み）

- 農の雇用継続支援事業費補助金
- 都市と地方をつなぐ就労支援カレッジ事業（再掲）
- 自立相談支援事業（生活困窮者自立支援制度）
- 就労移行・継続支援事業
- 障がい者就労支援事業
- 障がい者雇用奨励金
- 創業・起業支援拠点運営事業
- 就労準備支援事業（生活困窮者自立支援制度）
- 生活困窮者無料職業紹介事業
- 弘前市シルバー人材センター運営費補助金
- ひろさきローカルベンチャー育成事業
- お試しサテライトオフィス事業
- ひろさきU J I ターン就職促進事業（再掲）

3. 地域産業のイノベーションと成長による雇用の創出

3-I りんご産業イノベーション戦略の推進

(1) 現状と課題

本市は、青森県のりんごの生産量の4割強を占める日本有数のりんご産地であり、約15,000人がりんごの生産に従事しています。また、りんご産業は、流通、資材、加工等関連産業も多岐にわたることから、本市の経済活動に大きな影響を与えています。

平成26年産及び平成27年産りんごの輸出量は、2年連続で3万トンを突破し、販売額も順調に推移しておりますが、今後人口減少が進む中で、高齢化や労働力不足によりりんご農家の大幅な減少が懸念されており、「りんごづくり」自体の存続が危ぶまれる恐れがあります。

また、りんごづくりは、生産技術の習得に時間と労力を要することが大きな負担となっていることや、複雑多様な流通形態の効率化や加工産業の強化など産業として一層の強化を図る必要があります。

(2) 講ずべき施策に関する基本的方向

人口減少が進む中であっても日本一のりんご産地を維持しながら、高品質かつ安定的な「りんごづくり」を守るため、**将来性**を見据えて、生産、加工、流通分野の技術革新等を推進する「りんご産業イノベーション戦略」に基づき、積極的に新しい取り組みにチャレンジします。

また、新たな輸出先の開拓にも取り組み、販路拡大による農業所得の向上を図り、新規就農、後継者の確保につなげます。

(3) 具体的な施策と重要業績評価指標（KPI）

重要業績評価指標（KPI）	目標値（H31）	基準値
りんごの販売額	38,130 百万円	38,130 百万円（H25 産）
国産りんごの輸出量	40,000 トン	30,115 トン（H26 産）
イノベーションプレーヤー数	19 事業者	3 事業者（H27）
連携事業数（行政、生産者、事業者、研究機関等との連携）	9 事業	1 事業（H27）

（主な取り組み）

- りんご産業イノベーション戦略推進事業
- りんご産業イノベーション支援事業
- りんご海外販売促進サポート事業

3-II ライフ・イノベーションの推進による健康・医療産業の創出

(1) 現状と課題

国では、新成長戦略や社会保障・税一体改革等を踏まえ、日本発の革新的な医薬品・医療機器等の創出により、健康長寿社会を実現するとともに、国際競争力強化による経済成長に貢献することを目指す「ライフ・イノベーション」を推進しています。

また、県においても「青森ライフ・イノベーション戦略」に基づきプロテオグリカン[※]に関する研究及び事業化支援への取り組みを進めており、この8月に公表した「まち・ひと・しごと創生青森県総合戦略」においても、ライフ（医療・健康・福祉）分野の成長産業の創出に取り組むこととしています。

本市には、弘前大学医学部を中心とした医療機関が多く、また、介護福祉施設も充実しているなど、多くの人の雇用の受け皿として機能しています。この健康・医療分野は、雇用吸収力が高く、特に若い女性の雇用効果が高いことから、本市の新たな産業の創出に向けた取り組みが期待されます。

さらに健康・医療分野は関連産業などのすそ野が広く、産業としての集積も期待できることから、平成26年度末には産学官金連携組織の「医工連携研究会」を立ち上げています。

※プロテオグリカン：糖とタンパク質の複合体で、糖タンパク質の一種で、弘前大学の研究で鮭の鼻軟骨からプロテオグリカンを抽出する方法を発見した。これにより、今まで有害試験でしか抽出できなかったプロテオグリカンを、食品や化粧品にも使用できる精製方法が確立された。

(2) 講ずべき施策に関する基本的方向

本市の優位性とも言える多くの医療機関や弘前大学 COI[※]による革新的な研究等をベースに、様々な健康増進施策を展開するとともに、健康医療分野の産業振興を図ります。

健康増進の取組みとしては、産学官民の連携によるオール弘前体制での健康増進、ロボットスーツHALによるニューロリハビリテーション等の先端医療の導入による医療技術等の研究開発を促進します。

また、産業振興の取組みとしては、弘前大学 COI との連携を強化し、ライフデータの活用や地元企業の研究開発等を推進するとともに、民間事業者等の参入を促進するため、地域経済牽引計画を策定します。

※弘前大学 COI：Center of Innovation の略。『認知症・生活習慣病研究とビッグデータ解析の融合による画期的な疾患予兆発見の仕組み構築と予防法の開発』拠点

（３）重要業績評価指標（KPI）と主な取り組み

重要業績評価指標（KPI）	目標値（H31）	基準値
地元企業の関連研究開発実施件数	５件	－
地元企業と大手企業とのビジネスマッチング件数	５件	－

（主な取り組み）

- ひろさきライフ・イノベーション推進事業
- 重点３分野基盤強化事業（精密・医療産業）

３－Ⅲ 外国人観光客の誘客促進等による交流人口と観光消費額の拡大

（１）現状と課題

消費税免税制度の拡充などの国の施策に加え、円安により外国人観光客が大幅に伸びている中であって、本市は、観光庁が認定した外国人旅行者向け広域観光周遊ルート「日本の奥の院・東北探訪ルート」の広域観光拠点地区とされています。また、青森空港と中国の天津を結ぶ国際定期チャーター便が就航したことなど、外国人観光客の一層の誘客が期待されます。

一方で、平成 28 年 3 月 26 日には、北海道新幹線新青森・新函館北斗間が開業となり、本市が通過市となるほか、弘前城本丸の石垣改修による曳屋の影響によりさくらまつり客の減少が懸念されるなど、本市の観光は大きな転機が訪れていると言えます。

また、本市の観光は通過型観光が多く、一人当たりの観光消費額が低い状況にあります。今後人口が減少していく中であって観光産業を成長させていくためには、交流人口自体を増加させるだけでなく、一人当たりの観光消費額を増加させる必要があります。

（２）講ずべき施策に関する基本的方向

広域連携による一体的な PR 活動や旅行商品の造成、全国城サミットの開催等により国内外へのアピール力を強化するほか、**地域**の強みを把握し、共通の観光テーマを有する地域との連携による観光施策を促進します。

また、インバウンドでは台湾台南市との果物交流、中国武漢市との桜交流を促進し、重点エリアに位置付ける東アジア圏からの誘客を進めるとともに、訪日旅行者が急増する東南アジアなどへの市場開拓を図ります。併せて、来訪外国人が旅行しやすい環

境整備を進め、国内外からの交流人口の増加を図るとともに、観光消費額の拡大に向け、東京デザインウィークのプロデュース・ブランディングのもと、「HIROSAKI DESIGN WEEK」を立ち上げ、新たなプロダクト・観光コンテンツの創出に取り組みます。

観光産業は、関連する産業が多岐にわたるすそ野が広い産業であることから、この産業の成長による幅広い雇用の創出を図ります。

（３）重要業績評価指標（KPI）と主な取り組み

重要業績評価指標（KPI）	目標値（H31）	基準値
観光消費額	23,000 百万円	18,067 百万円（H25）
外国人宿泊者数	24,000 人	6,208 人（H26）
白神山地関連入込客数	911,000 人	643,952 人（H25）

（主な取り組み）

- 白神山地活用地域活性化推進事業
- 北海道新幹線新函館開業対策事業
- 現存 1 2 天守*PR プロジェクト
- 弘前市インバウンド推進協議会負担金
- 弘前市・台南市果物交流事業
- さくらでインバウンド促進事業
- シティプロモーションパワーアップ戦略推進事業
- イベント民泊事業
- ひろさき地域観光人材育成推進事業（再掲）

※現存 1 2 天守：江戸時代またはそれ以前に建設され、現代まで保存されている天守

３－Ⅳ 地域を牽引する産業の振興

（１）現状と課題

りんご・米に次ぐ農作物による地域農業の維持・活性化、特徴的な地域資源を活かした製造業の強化、伝統工芸品の販路拡大など、各分野の課題に取り組み、地域を支える産業を維持、成長させていくことが必要となっています。

また、企業誘致は、地域経済の活性化、雇用の創出などの経済活動をはじめ、人口減少の抑制や移住・定住促進への効果が期待される重要な取り組みであり、本市では、平成 2 7 年度に IT 系オフィス企業を 1 件誘致しておりますが、今後もこれまで以上に取り組んでいく必要があります。

さらに、グローバル経済が進む中であって、効率化など経営基盤の強化が求められるとともに販売力の強化による外貨の獲得が期待されます。

（２）講ずべき施策に関する基本的方向

農業分野では、国産農作物の導入強化を図る企業を掘り起し、企業と契約栽培をする農業者等を支援し、りんご、米に次ぐ主力製品の拡充を図るほか、6 次産業化等にも積極的に取り組み、農作物や加工品の高付加価値化を積極的に進めます。

また、農業経営の法人化や集落営農など効率的な生産にも積極的に取り組むとともに、農地の流動化も進め、農業の生産性を高めます。

製造業では、地域資源を活用した「食産業」、一定の集積のある「アパレル産業」を中心に生産力の向上や商品開発力・販売力の強化、産業人材の育成などを推進し、事

業者の**自立性**を高めます。また、工場新增設や生産性を高める取り組みへの支援や企業誘致を進めます。

また、魅力ある工芸品（津軽塗、こぎん刺し、ブナコ等）が多数存在する**地域性**をあらためて認識し、工芸品の普及啓発に取り組むとともに、新商品開発や国内外の販路開拓にも積極的に取り組みます。

（３）重要業績評価指標（KPI）と主な取り組み

重要業績評価指標（KPI）	目標値（H31）	基準値
農林業の市内総生産額（作付面積 1ha 当たり）	1,417.3 千円	1,383.7 千円（H24）
6 次産業化法に基づく認定件数（累計）	20 件	15 件（H26）
製造品出荷額等	2,441 億円	1,941 億円（H25）
新規企業誘致・新增設件数（累計）	6 件	0 件（H26）

（主な取り組み）

- 新規契約栽培支援事業
- 6 次産業化支援事業
- 集落営農組織等法人化支援事業
- 農地集積支援事業
- 重点 3 分野基盤強化事業（食産業、精密・医療産業（再掲）、アパレル産業）
- 食産業育成事業
- アパレル産業育成事業
- 企業立地推進事業
- お試しサテライトオフィス事業（再掲）
- 物産の販路拡大・販売促進事業
- まちなかクラフト村づくり推進事業

《基本目標②》弘前への新しいひとの流れと定住の推進

■社会移動数の転出超過を 40 人まで圧縮します。（H26：476 人）

1. U J I ターンの促進

（１）現状と課題

本市の社会移動は、平成 20 年度では 973 人の転出超過（純減）であったのが、23 年度には 55 人の転入超過（純増）になるなど増加傾向にありましたが、24 年度には 231 人、25 年度には 452 人の転出超過となり、近年は減少傾向が続いています。

また、弘前大学の「中南津軽地域住民の仕事と生活に関する調査」により中南津軽地域住民の約 4 割が U J I ターンの経験者であることが明らかになり、その主な動機として実家があることが上げられており、本市あるいは津軽地方にゆかりのある人に対する U J I ターンの働きかけが効果を期待できることがわかっています。

人口減少対策には、若者を地元に着させることに加え、効果的な U J I ターン対策に取り組むことが課題となっています。

（２）講ずべき施策に関する基本的方向

転入者の増加を目指し、本市にゆかりのある人などのマーケティング調査を行ったうえで、首都圏での移住セミナー等の実施、移住コンシェルジュ（相談員）の配置、移住お試しハウスの整備、移住体験ツアーの開催、同窓会開催支援など様々な移住施策を実施するとともに、ひろさき移住サポートセンター東京事務所において、相談体制を強化します。

また、地元企業への就職の促進や弘前市移住応援企業の推進など地域や企業などオール弘前体制で移住者の受け入れ態勢を整えます。

さらに、本市のイメージアップを図るため、シティプロモーションを強化し「弘前に行ってみたい、住んでみたい」と思ってもらえるよう、様々な媒体を活用した情報発信に取り組みます。

（３）重要業績評価指標（KPI）と主な取り組み

重要業績評価指標（KPI）	目標値（H31）	基準値
ひろさき移住サポートセンターを経由しての県外からの移住者数（累計）	15 件	1 件（H26）
弘前市移住応援企業認定件数（累計）	5 件	1 件（H26）
移住お試しハウス体験件数（累計）	50 件	—

（主な取り組み）

- 移住者受入推進・地域おこし協力隊導入事業
- 弘前発信・発見・体験事業
- 弘前市人口減少対策に係る企業認定制度（移住応援企業）
- ひろさきローカルベンチャー育成事業（再掲）

- ひろさき移住サポートセンター東京事務所
- ひろさきUJIターン就職促進事業
- 空き家・空き地の利活用事業（再掲）

2. 子育て支援の充実による移住・定住の推進

（1）現状と課題

全国的な移住検討の動きについて、認定NPO法人ふるさと回帰支援センターによると、平成28年のセンター利用者は、30歳台が最も多く28.0%、次いで40歳台の22.5%、20歳台の17.9%となっており、若者世代の移住が定着しつつあることを示しています。

一方、本市のひろさき移住サポートセンター東京事務所において開設から半年間で受けた相談件数をみると、本市においても同様に30歳台が最も多く33.8%、次いで20歳台以下が20.9%となっております。特に30歳台では、結婚、出産、育児が移住を考え始めるきっかけになっています。

また、平成26年度内閣府世論調査によると、地方に移住してもよいと思う、「どちらかといえば思う」と答えた都市住民に、どのような条件があれば地方に移住してもよいと思うか聞いたところ、「教育、医療・福祉などの利便性が高いこと」を挙げた者の割合が30歳台では55.9%、40歳台では45.5%、また、「居住に必要な家屋や土地が安く得られること」を挙げた者の割合が30歳台では41.2%、40歳台では43.2%と共通して上位に挙げられています。

子育て世代にあたる30歳台～40歳台の移住検討者にとって、このような項目に関する生活環境が整うことは、移住を推進する力になると考えられます。

（2）講ずべき施策に関する基本的方向

保育料や医療費等の子育てに係る経済的な負担を軽減するとともに、特に負担の大きい多子家族への支援を手厚くすることとし、地域全体の子育て支援の充実を図り、子育て世代の移住検討者への魅力向上につなげます。

また、移住した子育て世代へ住宅取得等に係る経済的支援を行い、定住につなげます。

（3）具体的な施策と重要業績評価指標（KPI）

重要業績評価指標（KPI）	目標値（H31）	基準値
ひろさき移住サポートセンターを経由しての市外からの移住者数のうちの子育て世帯（累計）	30件	—

（主な取り組み）

- 子育て世帯移住促進補助金
- 保育料の軽減（再掲）
- 私立幼稚園就園奨励費補助事業（再掲）
- 子ども医療費給付事業（再掲）
- 多子家族学校給食費支援事業（再掲）
- 多子家族上下水道料金支援事業（再掲）

3. 「弘前版生涯活躍のまち（CCRC）」の推進

（1）現状と課題

「生涯活躍のまち」（日本版CCRC*）構想が検討されている中で、日本創生会議の「東京高齢化危機回避戦略」において、医療・介護ともに高齢者の受け入れ能力のある圏域として、弘前圏域が位置づけられました。

介護を要する高齢者の移住が本市の介護保険経営にマイナスの影響を及ぼすという懸念もありますが、施設介護が必要となっている際の受け入れでは住所地特例が適用されるほか、健康者を受け入れた後に施設介護を受ける割合は1割程度にとどまっているなどその影響は限定的であることがわかりました。

また、前述のとおり医療・介護は、雇用吸収力が高く、現状でも医療機関や介護施設において多くの人が雇用されており、特に女性の雇用の受け皿として有効に機能しています。

人口減少対策では、雇用の確保が最も重要と言われており、この「生涯活躍のまち」構想を推進することで、アクティブシニアの移住あるいは二地域居住を促し、介護を含む福祉や医療分野の新たな需要の創出や空き家の利活用などの不動産の流動化、地域内での消費が進むことによる新たな雇用の創出などにより、経済の活性化が期待されます。

なお、「生涯活躍のまち」構想を推進するにあたっては、アクティブシニアが弘前ならではの生活を送れるよう、他と差別化した弘前ならではの特色を出すことが求められます。

※CCRC：Continuing Care Retirement Community の略。高齢者が移り住み、健康時から介護・医療が必要となる時期まで継続的なケアや生活支援サービス等を受けながら生涯学習や社会活動等に参加するような共同体

（2）講ずべき施策に関する基本的方向

東京圏のアクティブシニアをメインターゲットに、医師不足や介護施設の状況などの課題を踏まえたうえで、本市への移住や二地域居住によるセカンドライフを楽しめるような本市の**地域性**を活かした弘前版生涯活躍のまち構想を策定するために設立した、弘前版CCRC推進協議会に、事業主体を新たに加え、弘前市生涯活躍のまち推進地域再生協議会に改編し、「弘前版生涯活躍のまち構想」を推進します。

この構想に基づき策定する「弘前市生涯活躍のまち形成事業計画」に沿った事業を展開し、東京圏のアクティブシニアの移住につなげるため、活躍の場づくりを進めるとともに、在京同窓会等を活用した移住者の掘り起こしなど、ひろさき移住サポートセンターにおける、より効果的できめ細かな相談対応を実施します。

（3）具体的な施策と重要業績評価指標（KPI）

重要業績評価指標（KPI）	目標値（H31）	基準値
弘前版生涯活躍のまち（CCRC）移住者数	50名	—
高いスキルを有する人材の移住者数	3名	—

（主な取り組み）

- 弘前版生涯活躍のまち（CCRC）推進事業

《基本目標③》若い世代の結婚・出産・子育てをトータルサポート

- 婚姻率（人口 1,000 人当たり）を 4.5 まで上昇させます。（H25：4.3）
- 出生率（人口 1,000 人当たり）は 6.5 程度を維持させます。（H25：7.0）
※出生率 6.5 は、人口ビジョンの将来展望から推計した数値です。

1. 結婚へのサポート

（1）現状と課題

青森県の平均初婚年齢は、平成 15 年が男性 28.9 歳、女性 27.0 歳だったのに対し、平成 26 年には、男性 30.6 歳、女性 28.9 歳となり、晩婚化が進んでいます。

また、本市の婚姻率は、平成 6 年以降低下傾向にあり、平成 21 年に過去最低となりました。その後はわずかながら上昇していますが、まだ全国値よりも下回っています。

出生率の上昇を図るためには、まずは婚姻率の上昇が必要であり、高齢出産が多くなる中であっても出生数の増加を図るためには早婚化を進める必要があります。

（2）講ずべき施策に関する基本的方向

若者が恋愛・結婚に積極的に向き合えるよう支援し、若者の結婚に関する意識の向上を図るとともに、独身の出会いの場を創出し、**直接**結婚につながる施策に取り組むなど、結婚の増加・早期化を促進します。

また、若者が結婚・出産・子育てなどライフプランを描けるように、ライフステージごとの情報をわかりやすくまとめて発信します。

（3）重要業績評価指標（KPI）と主な取り組み

重要業績評価指標（KPI）	目標値（H31）	基準値
ひろさき出愛サポートセンターお見合い件数	100 件	15 件（H26）

（主な取り組み）

- 弘前めぐりあいサポーター出愛（であい）創出事業
- ひろさき子育て PR 事業

2. 安心して妊娠・出産できる環境づくり

（1）現状と課題

少子化・核家族化の進展により、妊娠・出産についてのイメージが持ちづらく、また身近に相談者が見つけづらい状況にあります。そのような中であって、必要な支援を行い、安心して妊娠・出産ができる環境づくりが必要になっています。

また、発達障がいなどが疑われるような行動のある「気になる子」について、市内保育所や幼稚園を対象にアンケートを行ったところ、回答のあった施設のうち、約 1 割の子どもが、気になる子に該当する結果となっています。

（2）講ずべき施策に関する基本的方向

安心して出産・育児ができるように、訪問指導など妊産婦のための相談体制の充実を図るとともに、3 歳児健診に加えて、5 歳児を対象に就学前の発達健康診査を実施するほか、発達の気になる段階の子どもや保護者及び保育士等に対する療育・相談支援体制の充実を図ります。

また、不妊治療を行っている夫婦の経済的負担を軽減します。

（3）重要業績評価指標（KPI）と主な取り組み

重要業績評価指標（KPI）	目標値（H31）	基準値
育児に自信が持てない人の割合	5.5%	7.8%（H26）

（主な取り組み）

- こんにちは赤ちゃん事業、妊産婦・新生児訪問指導事業
- 健やか育児支援事業
- 5 歳児発達健康診査・相談事業
- ひろさき子どもの発達支援事業
- 不妊治療費助成事業
- ハイリスク妊産婦アクセス支援事業

3. 子育て環境の改善

3-Ⅰ 子育てに係る負担軽減

（1）現状と課題

Smile 弘前子育てマスタープランの策定にあたって実施した世論調査によると、子育てに対する悩みや不安は、「子育てに係る費用が大きい」が最も多く、次いで「生活にゆとりがなく時間に追われている」という結果となっており、経済面・生活面での負担軽減のニーズが高い状況にあります。

また、核家族化の進展や夫婦共働き家庭が増加していることにより、多様な保育ニーズに対応できるような環境づくりが求められています。

（2）講ずべき施策に関する基本的方向

子育てに不安を抱かないように、全体として子育てに係る負担軽減に取り組み、安心して子育てができる環境を整えます。

延長保育、休日保育、障がい児保育など多様な保育サービスの提供を進めるとともに、保育料や医療費などのほか、多子家族の学校給食費など子育てに係る経済的負担の軽減を総合的に図ります。

（3）重要業績評価指標（KPI）と主な取り組み

重要業績評価指標（KPI）	目標値（H31）	基準値
子育てに係る負担が軽減されていると感じる市民の割合※	32%	26.2%（H26）

※地域経営アンケート回答者のうち、子育て中の回答者を抽出

(主な取り組み)

- 保育所運営費、認定こども園等給付費（保育料の軽減）
- 私立幼稚園就園奨励費補助事業
- 特別保育事業
- 多子家族学校給食費支援事業
- トワイライトステイ事業
- 児童館延長利用事業
- 障がい児保育事業
- 小児インフルエンザ・おたふくかぜ任意予防接種費用助成事業
- 病児病後児保育事業
- 多子家族上下水道料金支援事業
- 放課後児童健全育成事業
- 子ども医療費給付事業
- 障がい児幼児教育事業

3-Ⅱ 地域で取り組む子育て環境づくり

(1) 現状と課題

Smile 弘前子育てマスタープランの策定にあたって実施した世論調査によると、仕事と子育ての両立については、「パートナーの協力・共感」の割合が最も高く、次いで行政サービスの充実、職場の人の理解、育児休業などが高い割合となっており、仕事と子育ての両立については、パートナーも含めて周囲の理解と協力が必要となっています。

(2) 講ずべき施策に関する基本的方向

育児に対する孤立感や精神的・肉体的負担を軽減するため、「駅前こどもの広場」を核とした地域の子育て支援機能を充実させ、子育てに対する不安感や負担感を軽減するほか、仕事と子育てを両立できるようワーク・ライフ・バランスを普及・啓発し、企業を含めて地域全体が一体となったオール弘前体制で子育てを応援します。

(3) 具体的な施策と重要業績評価指標（KPI）

重要業績評価指標（KPI）	目標値（H31）	基準値
子育てしやすいまちだと感じる市民の割合※	50%	41.0%（H26）
子育て応援企業認定件数（累計）	20 件	2 件（H26）

※地域経営アンケート回答者のうち、子育て中の回答者を抽出

(主な取り組み)

- 駅前こどもの広場運営事業、地域子育て支援センター事業
- 弘前市人口減対策に係る企業認定制度（子育て応援企業）
- ひろさき子育てPR事業（再掲）

4. 未来をつくるひとづくりの推進

4-Ⅰ 新たな時代に対応する多様な教育の展開

(1) 現状と課題

国では、平成 25 年度にグローバル化に対応した教育環境づくりを進めるため、小中高等学校を通じた英語教育改革を計画的に進めるための「英語教育改革実施計画」を

策定し、強力に英語教育の改革を進めようとしているほか、ICTを活用した教育の推進も求められています。

また、特別な支援を要する児童生徒が増加傾向にあり、障がいのある子どももいない子どもも共に学べる教育環境の構築など学校教育へのニーズが多様化しています。

(2) 講ずべき施策に関する基本的方向

子どもたちが、**将来**に夢と希望を抱きながら、社会の中で自分らしい生き方を見出し、国際化や情報化の進展などの社会変化や技術革新等に対応できるよう、タブレット型端末等のICTを活用した授業づくりや、外国語指導助手（ALT）の充実、英語教員の資質向上に向けた取組を実施するとともに、次期学習指導要領の改正案に示される小学校3・4年生からの外国語活動の実施、5・6年生の外国語活動の教科化に向けた先行研究を進めます。

また、子ども一人一人の教育的ニーズを把握し、障がいのあるなしにかかわらず共に学べるインクルーシブ教育システムを推進し、共生して社会を生き抜いていくための力を育成します。

(3) 具体的な施策と重要業績評価指標（KPI）

重要業績評価指標（KPI）	目標値（H31）	基準値
英語の授業において、生徒の英語による言語活動時間の割合を 50%以上行っている教員の割合（中学校）	50%	15.0%（H26）
子どもにとって学習しやすい教育環境だと思える市民の割合	50%	40.8%（H26）

(主な取り組み)

- 中学生国際交流学習事業
- 英語教育推進事業
- 外国語活動支援員派遣事業
- 「弘前式」ICT*活用教育推進事業
- インクルーシブ教育システム構築事業
- 小学校少人数学級拡充事業

※「弘前式」ICT：電子黒板機能付きプロジェクター、実物投影機、教員用タブレット型端末の3点セットを中心とした弘前独自のICT活用教育

4-Ⅱ 夢に向かってチャレンジする子どもたちの応援

(1) 現状と課題

本市では、子どもたちが一流のスポーツや文化芸術に触れる機会を提供し啓発することで、子どもたちが将来の夢に向かってチャレンジしていくような取り組みを進めています。

そのような中、2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催が決定し、スポーツに対する機運が高まっていることから、これをきっかけに更なるスポーツ活動の活性化に結びつけていくことが期待されています。

併せて、参加各国の日本国内での事前合宿を本市へ誘致し、子どもたちにトップアスリートと触れ合う機会を創出することも期待されています。

また、本市からは世界的芸術家の奈良美智氏や新弘前市となって最初の名誉市民で

ある芸術家の佐野ぬい氏のほか、将棋の名人戦に挑戦した行方尚史氏も輩出しています。

子どもたちが将来に向けた大きな夢を抱き、それを地域で応援することで、そのことから未来のプロスポーツ選手や芸術家などが輩出され、地域全体の活力に結びつく夢が広がるような取り組みが期待されています。

（２）講ずべき施策に関する基本的方向

優れた文化芸術やプロスポーツなど一流に触れる機会を創出し、**将来の夢**に向かってチャレンジする子どもたちを応援するとともに、地域からトップアスリート等が輩出されるように、地域一体となった取り組みを進めます。

また、夢へチャレンジできる土台づくりを図るため、子どもたちがいつでも、気軽にスポーツを楽しめる環境づくりを進めます。

（３）重要業績評価指標（KPI）と主な取り組み

重要業績評価指標（KPI）	目標値（H31）	基準値
プロスポーツ等イベント開催件数	15 件	13 件（H26）
はるかソフトボール夢事業・ベースボール夢事業の参加児童生徒等延べ人数	6,500 人	3,586 人（H26）
文化施設利用者数	447,000 人	433,747 人（H26）

（主な取り組み）

- 音楽芸術後継者育成事業費補助金 ○青少年夢実現チャレンジ支援事業費補助金
- 一流芸術等文化イベント開催事業 ○トップアスリート招致支援事業費補助金
- はるかソフトボール夢事業・ベースボール夢事業
- プロ野球一軍戦誘致事業
- 東京オリンピック・パラリンピック合宿誘致事業
- 広域スポーツ少年団育成事業

《基本目標④》健やかで、生き生きらせる地域づくり

- 自らを健康だと思ふ市民の割合を 80%まで上昇させます。（H26：76.1%）
- 75 歳未満のがんの年齢調整死亡率（人口 10 万人当たり）を 84.0 まで下降させます。（H25：106.0）
- 自立して生活できる高齢者の割合を 80.5%まで上昇させます。（H26：79.3%）

1. 健康都市づくり

1－I オール弘前体制での健康づくりの推進

（１）現状と課題

健康寿命を延伸させるための先進的な取り組みとして平成 17 年度から弘前大学と協働で開始した岩木健康増進プロジェクトは、600 項目もの検査をビックデータとして解析し、疾患のリスクの予測につなげることを目的に実施してきており、岩木地区の平均寿命は 5 年前に比べ、男性が 1.9 年、女性が 0.7 年延びています。

今後は、この効果を全市に広げていくための市民、地域、企業、大学そして行政のオール弘前体制の健康増進モデルの構築と、市民の健康に対する意識の向上を図り、健康寿命の延伸に向け継続的に取り組むことが必要となっています。

（２）講ずべき施策に関する基本的方向

弘前大学への寄附講座の開設により、「ひろさき健幸増進リーダー」を育成し、各地区や職域において健康増進に向けた取り組みを実践するほか、地域住民の健康づくりをサポートする「健康づくりサポーター」を市内全域に配置します。

そして、ひろさき健幸増進リーダー、健康づくりサポーター及び食生活改善推進員の連携による、弘前ならではの「健康増進モデル」を構築し、全市的な健康寿命の延伸に取り組めます。

また、健康づくりに積極的に取り組んでいる企業等を「ひろさき健やか企業」として認定し、企業等による働き盛り世代の健康づくりをオール弘前体制で支援します。

（３）重要業績評価指標（KPI）と主な取り組み

重要業績評価指標（KPI）	目標値（H31）	基準値
健康づくりサポーター配置町会数	全町会	0 町会（H26）
ひろさき健やか企業認定件数（累計）	32 件	7 件（H26）

（主な取り組み）

- 弘前市地域健康増進学講座開設事業
- 健康増進プロジェクト推進事業
- 弘前市健康づくりサポーター制度
- 弘前市人口減少対策に係る企業認定制度（ひろさき健やか企業）

1－Ⅱ 生活習慣病発症及び重症化の予防

(1) 現状と課題

本市の平均寿命は、男性が77.7歳、女性が85.7歳で、全国最下位の青森県平均（男性77.3歳、女性85.3歳）よりはやや高いものの、全国平均（男性79.6歳、女性86.4歳）より低くなっています。

そのような中にあっても、本市のがん検診受診率は、子宮頸がんを除き、青森県平均の受診率より低い状況にあります。

(2) 講ずべき施策に関する基本的方向

弘前の**地域性**をしっかりと分析し、健康的な食事と運動、禁煙など市民が主体的に生活習慣病の予防ができるように支援するほか、「弘前市たばこの健康被害防止対策の指針」に基づき、たばこの健康影響に関する知識の普及啓発や受動喫煙防止対策などに取り組みます。

また、がん検診受診率の向上対策として、未受診者に対し再勧奨を実施するとともに、対象年齢を絞った大腸がん無料クーポンを配布し、受診率の引き上げにより、健康寿命の延伸を図ります。

弘前大学と連携した、高齢者を対象とした健康に関する追跡調査を実施し、市民の健康状態の把握による生活習慣病等の発症及び重症化の予防を図ります。

(3) 重要業績評価指標（KPI）と主な取り組み

重要業績評価指標（KPI）	目標値（H31）	基準値
がん検診受診率	31%	21.9%（H26）
喫煙率	男性 27.3% 女性 7.4%	男性 32.3%（H26） 女性 12.0%（H26）
適正体重を維持している者の割合 （数値：肥満者の割合）	男性 29.3% 女性 19.9%	男性 31.2%（H25） 女性 23.5%（H25）

（主な取り組み）

- がん検診受診率向上強化対策事業
- 胃がんリスク検診事業
- 中学生ピロリ菌検査事業
- 大腸がん無料クーポン事業
- 大腸がん早期治療支援事業
- 30歳節目歯科健診
- たばこの健康被害防止対策事業
- いきいき健診事業

2. 活力ある長寿社会の構築

(1) 現状と課題

本市の高齢化率は、平成17年の22.9%に対し、平成22年には25.4%となり、青森県平均25.8%より低いものの、全国平均23.0%よりも高くなっており、平成27年国勢調査では29.4%となっています。

加えて、本市は要介護認定率が高く、平成26年の認定率は22.0%で、全国平均17.6%や青森県平均19.1%よりも高くなっています。

人口減少が進む中にあることは、高齢者が地域活動の一翼を担い、また、そのことが生きがいや健康に繋がるような取り組みが求められます。

また、介護に頼らない自立した生活を送り、また、介護を受けることになった際も少しでも改善を図ることで自立した生活に戻れるような取り組みが求められています。

(2) 講ずべき施策に関する基本的方向

高齢者が地域貢献を実感できる取り組みとして、生きがいづくり、健康づくりを推進することを目的とした活動を支援します。

また、介護に頼らない自立した生活に向けた支援として、自立支援に資する機器の購入補助や要介護状態の改善を評価する事業など自立支援介護の環境を整えるとともに、事業者の意識改革、利用者・家族の意識啓発を図ります。

(3) 重要業績評価指標（KPI）と主な取り組み

重要業績評価指標（KPI）	目標値（H31）	基準値
自立支援介護に取り組む事業者数	30事業者	1事業者（H26）
第1号被保険者新規要介護認定申請率	18.2%	18.2%（H26）
生きがいを感じている高齢者の割合	79%	71.1%（H26）

（主な取り組み）

- 介護予防普及啓発事業
- 高齢者健康トレーニング教室
- 弘前自立支援介護推進事業
- 老人クラブ運営費補助金
- 高齢者ふれあい居場所づくり事業費補助金

《基本目標⑤》弘前ならではの地域づくり

- 住みやすさに対する市民の満足度を 60%まで高めます。(H26：49.7%)
- 冬期間において安心・快適な生活が送れていることに満足している市民の割合を 21%まで高めます。(H26：16.8%)
- 市民と行政が同じ目的を持ち、パートナーとして、まちづくりに取り組んでいると思う市民の割合を 25%まで高めます。(H26：20.1%)

1. 未来へつなぐまちの魅力向上

1－Ⅰ 文化財の活用による魅力創出

(1) 現状と課題

長い歴史の中で今日まで保存・継承されてきた本市の文化財は、平成 29 年 3 月時点で国指定等 56 件、県指定 61 件、市指定 146 件にも上ります。これらの文化財は、本市のまちの魅力となっておりインバウンドが活況な中において海外にアピールできる重要なコンテンツともいえます。

この貴重な文化財を将来にわたり保存・継承していくことが我々世代の責務であり、このことが未来の弘前の魅力の更なる向上に繋がると考えられます。

また、文化財の一部を構成する歴史資料などとして藩政時代の多くの資料が現存していますが、この保存はもとより、この資料を活用することで魅力を深めていくことも考えられます。

特に約 100 年ぶりの弘前城本丸石垣修理により、さくらと弘前城の魅力の減退が懸念される中にあるのは、この文化財を活用した魅力の向上は大きく期待されます。

さらに、ル・コルビジエが設計した国立西洋美術館が世界遺産登録され、近代建築に係る評価が高まるなか、ル・コルビジエの弟子である前川國男氏の建築物にも注目が集まっています。

(2) 講ずべき施策に関する基本的方向

弘前城をはじめとする津軽氏の城跡などを計画的に整備するとともに、伝統的建造物群保存地区に現存する文化財建造物を、市民や観光客に対し公開するほか、利活用も促し、歴史や文化に触れる機会を提供します。

また、史跡の修理・発掘現場を積極的に公開し、歴史に興味をもち、地域への誇りと愛着を持った人材の育成を図ります。

さらに、前川國男氏が設計した公共建築の存在する自治体が参画する観光ネットワークを形成し、広域的な連携による観光資源化等を促進します。

(3) 重要業績評価指標 (KPI) と主な取り組み

重要業績評価指標 (KPI)	目標値 (H31)	基準値
文化財施設の入場者数	50,000 人	44,202 人 (H26)
郷土弘前の歴史と文化財に親しみを抱いている市民の割合	74%	66.5% (H26)

(主な取り組み)

- 弘前城本丸石垣整備事業
- 津軽歴史文化資料展示施設等整備事業
- 文化財施設公開事業
- 世界遺産登録推進事業
- 史跡津軽氏城跡堀越城跡整備事業
- 重要文化財等修理事業補助
- 史跡等公開活用事業
- 近代建築ツーリズム推進事業

1－Ⅱ 雪対策イノベーションの推進

(1) 現状と課題

冬季の厳しい寒さと雪は本市の大きな特徴ですが、雪は冬季の市民生活の大きな妨げとなっており、道路交通網への影響だけでなく、地域の活動全体を鈍らせる要因となっています。

この積年にわたる地域の大きな課題について、再生可能エネルギーを活用した融雪施設など重機に頼らない新たな雪対策を行うことで、市民が雪の影響を受けずに快適に生活できる住環境の整備が求められています。

(2) 講ずべき施策に関する基本的方向

地域の特性に合わせて地下水や温泉水を利用した道路融雪を計画的に推進するほか、民間事業者のノウハウを活用して再生可能エネルギーや廃熱を利用した地域熱供給体制による融雪に関する実証研究を実施します。

現在の重機による除排雪対策についても、追従除雪など新たな対策にも積極的に取り組み、効率的な除排雪を進めるほか、新たな雪置き場の確保により効率性を高めます。

(3) 重要業績評価指標 (KPI) と主な取り組み

重要業績評価指標 (KPI)	目標値 (H31)	基準値
道路融雪実施延長	15,951m	6,501m (H26)

(主な取り組み)

- 道路融雪施設整備事業
- 道路等融雪対策推進事業

2. 都市機能の強化

2－Ⅰ 快適な都市空間の形成と拠点地域の整備

(1) 現状と課題

人口減少が進む中において、郊外への開発や住宅の拡散等により、既に中心市街地

の空き店舗や空き家等が目立ち、街全体の活力の停滞や地域コミュニティの希薄化が進んでいます。

持続可能な都市を形成するためには、限りある資源の維持と都市機能等の立地の誘導を進め、弘前の地域性を活かしたコンパクトな街づくりを進める必要があります。

（２）講ずべき施策に関する基本的方向

立地適正化計画に基づき、持続的な都市経営を可能とするため、都市機能の集約と居住の誘導等による多極ネットワーク型のコンパクトなまちづくりを推進します。

また、中心市街地活性化基本計画に基づき、魅力ある街づくりを進めるため、土手町地区や駅前地区などの拠点となる地域を整備し、拠点間の連続性や回遊性の向上を図るとともに、中心市街地に新たな賑わいの場を創出します。

（３）重要業績評価指標（KPI）と主な取り組み

重要業績評価指標（KPI）	目標値（H31）	基準値
店舗面積 1,000 ㎡を超える生鮮食品を扱う店舗等の徒歩圏人口カバー率	42.0%	41.0%（H27）
居住誘導区域の人口密度	47.7%	47.7%（H27）
中心市街地の通行量	23,000 人	19,666 人（H26）
中心商店街空き店舗率	6.7%	8.5%（H25）

（主な取り組み）

- 立地適正化計画推進事業
- 駅前広場・山道町樋の口町線街路整備事業
- 吉野町緑地周辺整備事業
- 藤田記念庭園利活用事業

２－Ⅱ 公共交通ネットワークの確保

（１）現状と課題

公共交通は、高齢者等の交通弱者における地域の足となるとともに、通勤・通学の移動手段となるなど市民生活にとって重要な機能ですが、人口減少やライフスタイルが変わっていく中であって、その利用者は、弘南鉄道の市内駅乗客数が、平成 18 年の 140 万人から平成 26 年には 101 万人に、弘南バスの乗客数も同様に 487 万人から 345 万人に減少しており、交通事業者による路線等の維持が困難な状況になっています。

（２）講ずべき施策に関する基本的方向

地域公共交通網形成計画に基づき、公共交通体系の見直し、バスや鉄道など異なる交通手段の連携強化などにより利用環境の向上を図り、利用者の増加を推し進めます。

また、定住自立圏域の自治体と連携して公共交通の利用促進および利便性の向上に努めます。

（３）重要業績評価指標（KPI）と主な取り組み

重要業績評価指標（KPI）	目標値（H31）	基準値
目的地までの公共交通サービスに対する市民の満足度	39.0%	31.7%（H26）
1 日当たりの公共交通利用者の割合	7.7%	7.1%（H26）

（主な取り組み）

- 地域公共交通会議負担金

２－Ⅲ 弘前型スマートシティ構想の推進

（１）現状と課題

再生可能エネルギー等を活用した自立分散型エネルギーシステムの導入等による「災害に強く環境負荷の小さい地域づくり」が、国を挙げて課題となっており、本市においても、災害時のエネルギー確保はもとより、地域における安定的なエネルギー供給体制の確保が課題となっています。

（２）講ずべき施策に関する基本的方向

「弘前型スマートシティ構想」を推進し、再生可能エネルギー等を活用した自立分散型エネルギーシステムの導入や省エネルギー化などによって、生活に必要なエネルギーを地域内で確保し効率的に利用するとともに、二酸化炭素の排出量の削減を図ります。

（３）具体的な施策と重要業績評価指標（KPI）

重要業績評価指標（KPI）	目標値（H31）	基準値
市内電力使用量における再生可能エネルギー（太陽光等）発電量の割合	0.69%	0.32%（H25）
床面積 1 ㎡当たりのエネルギー使用量（市有施設）	35.76 l/㎡	37.64 l/㎡（H26）

（主な取り組み）

- スマートシティ構想推進事業
- 地域エネルギープロジェクト事業化推進事業
- 省エネ設備導入事業

２－Ⅳ 既存ストックのマネジメント強化

（１）現状と課題

本市の公共施設は、人口増加が続いていた昭和 50 年代までに整備されたものが約半数で、多くの公共施設が更新時期を迎え、このままでは建替えや大規模改修による多額の予算が必要になり、厳しい財政状況の中で公共施設の適正化が求められています。

また、人口減少の影響から空き家・空き地の数が増加傾向にあり、その利活用による不動産の流動化などの対策が求められます。

（２）講ずべき施策に関する基本的方向

弘前市公共施設等総合管理計画に基づき、建築物をはじめインフラ系を含む全ての

公共施設の状況を把握し、その適正配置・長寿命化等を着実に推進することによって、財政負担の軽減、平準化を図ります。

空き家・空き地対策では、その現状把握を進めるとともに、「弘前市空き家等の活用、適正管理等に関する条例」に基づき、空き家等の利活用、適正管理等に取り組みます。

また、「空き家・空き地利活用に向けた市・不動産取引業者・金融機関とのパートナーシップ協定」に基づき、行政・不動産業界・金融機関が連携して空き家・空き地の流動化を進めるとともに、空き家・空き地の解消につながる移住促進施策、子育て世帯への支援等も進めます。

(3) 重要業績評価指標（KPI）と主な取り組み

重要業績評価指標（KPI）	目標値（H31）	基準値
公共施設マネジメント実施件数	7 件	—
空き家・空き地の利活用数	130 件	6 件（H27）

(主な取り組み)

○公共施設マネジメント推進事業 ○空き家・空き地の利活用事業

3. オール弘前によるまちづくりの推進

3-I 市民による地域づくりの推進

(1) 現状と課題

行政ニーズの多様化や地域間競争が進展する中において、行政だけでそれに対応していくことが難しい場面も増えてきており、地域づくり活動などへの市民の参加が必要となっています。

また、少子高齢化、核家族化、集合住宅の増加等により、町会への加入率は、平成20年の82.1%から平成26年の75.6%まで減少傾向にあり、地域コミュニティの希薄化、地域住民の連帯感の希薄化が進んでおり、町会活動の活性化等が求められています。

（２）講ずべき施策に関する基本的方向

町会やNPO・ボランティア団体などの市民活動団体が、自らの地域を考え、自ら実践することにより、地域の課題解決や地域の活性化につながる活動を「市民参加型まちづくり1%システム支援事業」で支援するほか、市民・議会・行政が情報を共有し、共にまちづくりに取り組んでいくためのルールや仕組みを定めた「協働によるまちづくり基本条例」を市民に広く周知し、協働によるまちづくりを推進しながら「市民力」による魅力ある弘前を目指します。

また、地域コミュニティを強化するため、転入者に対し町会への加入促進や大学生の町会活動参加を促進します。

（３）重要業績評価指標（KPI）と主な取り組み

重要業績評価指標 (KPI)	目標値 (H31)	基準値
市民参加型まちづくり1%システム支援事業における新規支援事業数	32 事業	31 事業 (H26)

(具体的な事業)

○市民参加型まちづくり 1 %システム支援事業

○市民活動保険運用事業

○エリア担当制度

○協働によるまちづくり基本条例関係事業

○地域コミュニティ強化促進事業

○道路環境サポーター制度

3-Ⅱ 学生による地域づくりの推進

(1) 現状と課題

本市では、オール弘前体制による地域経営を行う中で、6つの大学がある優位性を活かした学生の地域づくりへの参加を推進しており、そのことによる活性化も期待されています。

一方で、弘前大学卒業生のうち地元就職は、就職者全体の1割にも満たない状況にあります。

学生が地域づくりに主体的に参加することで地域の一員としての意識を高め、そのことが地域へ関心と愛着に繋がり、その志をもって定住し続けるような取り組みが期待されています。

（２）講ずべき施策に関する基本的方向

「学園都市ひろさき」として、市内にある6つの大学との連携をこれまで以上に強化し、大学が持つ知的資源及び人的資源を積極的に活用して地域課題の解決に取り組むとともに、学園都市ひろさき高等教育機関コンソーシアム等と協力し、学生による地域づくり活動の活性化を図ります。

また、弘前大学「地（知）の拠点整備事業（大学 COC 事業*）」に参画し、人口減少等の克服に向け、地域の産業・生活・社会システムに新たな価値を創造できる人財の育成を進めます。

さらに、「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）※に係る連携・協力に関する協定」に基づき、「地域創生人財」の育成と学生の地元就職を支援します。

※大学COC事業：Center of Communityの略。大学等が自治体を中心に地域社会と連携し、全学的に地域を志向した教育・研究・社会貢献を進める大学等を文部科学省が支援する事業

※COC+: 大学が地方公共団体や企業等と協働して、学生にとって魅力ある就職先の創出をする
るとともに、その地域が求める人材を養成するために必要な教育カリキュラムの改革を断
行する大学の取組を支援する事業

(3) 重要業績評価指標 (KPI) と主な取り組み

重要業績評価指標 (KPI)	目標値 (H31)	基準値
大学等との連携取組数	10 件	5 件 (H26)
地域活動学生参加人数	1,000 人	269 人 (H26)

(主な取り組み)

- 大学・研究機関との連携推進事業
- 学都ひろさき未来基金
- 高等教育機関コンソーシアム支援事業
- ひろさき地域観光人材育成推進事業

3-Ⅲ 自助・共助による地域防災力の向上

(1) 現状と課題

本市の消防団は団員の充足率が高く、地域の若い世代も加入しており、その消防力は確保されていますが、全国的に地域防災の中核として結成が求められている自主防災組織については、大きな災害に見舞われていないことによる市民の危機意識の希薄さなどから県内 10 市の中でも低い組織率となっています。

(2) 講ずべき施策に関する基本的方向

自助・共助・公助の各面から、防災マイスターの育成や防災教育に取り組むとともに、自主防災組織の組織化を進め、総合的な地域防災力の強化・向上を図ります。

(3) 重要業績評価指標 (KPI) と主な取り組み

重要業績評価指標 (KPI)	目標値 (H31)	基準値
小学校区域内に自主防災組織がある小学校区の割合	全区域内で組織	47.2% (H26)
防災マイスター認定者数 (累計)	330 名	107 名 (H26)

(主な取り組み)

- 防災まちづくり推進事業
- 自主防災組織等育成支援事業

おわりに

国の総合戦略において、これまで講じられてきた地域経済・雇用対策や少子化対策は、「縦割り・全国一律・バラマキ・表面的・短期的」で、結果的に地方の人口流出が止まらず、少子化に歯止めがかかっていないとしています。

この従来の政策の弊害を排除して、これからの人口減少の克服と地方創生を確実に実現するため、「政策5原則（自立性・将来性・地域性・直接性・結果重視）に基づき、まち・ひと・しごとの一体的な創生を図っていくに当たっては、地方の自立につながるよう地方自らが考え、責任を持って総合戦略を推進し、国は伴走的に支援することが必要である。」と国のまち・ひと・しごと創生総合戦略に記載されています。

言い方を変えると、「自分達で地域の実情をしっかりと認識し、将来を見据え、自立していくために成果（結果）の上がる施策に直接取り組んでいく自治体」を期待し、そういう自治体を国では支援していくということです。

本市は、国の地方創生の取り組みに先行し、弘前市経営計画において、人口減少対策を重点プロジェクトとして位置づけ、各種施策に取り組んでいるところでありますが、この「弘前市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の策定を機に新たな施策を加えて、将来に向けて、弘前の自立につながる取り組みを更に加速させます。

そして、「子どもたちの笑顔あふれるまち 弘前」を目指し、市民・企業・大学等研究機関などのオール弘前体制で、この総合戦略と経営計画を一体的に展開し、一人あたりの豊かさが増すような地域づくりを進めます。

最後にこの総合戦略等の策定に際し、ご意見をいただいた関係各位に厚く御礼申し上げるとともに、短期間で、自力での策定に労を尽くした職員に謝意を表します。

平成27年9月29日

弘前市長 葛 西 憲 之